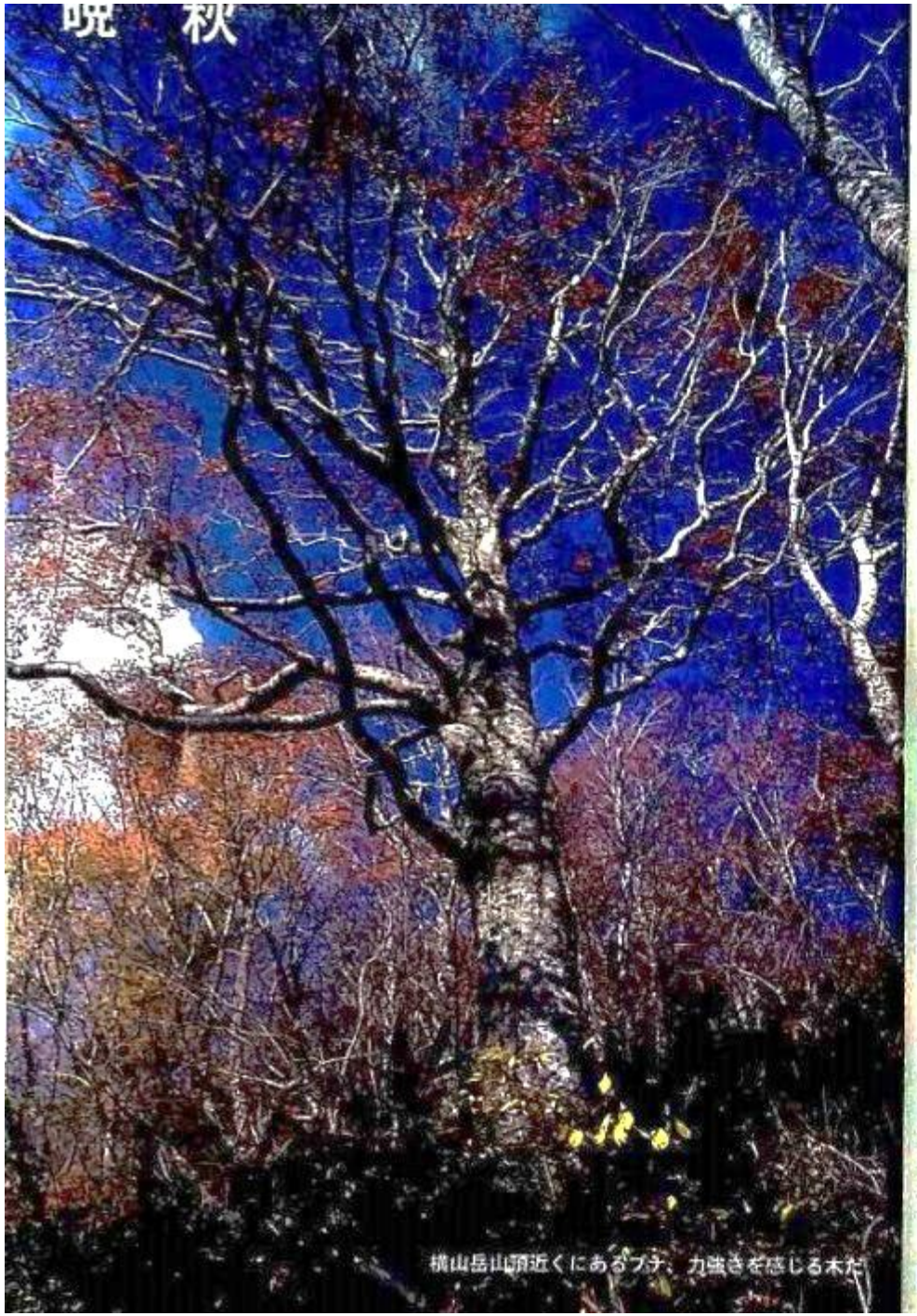


横山岳山頂近くにあるブナ、力強さを感じる木だ

世界の山旅 辺境の旅

「一人では行けない、でも、行きたい。」
それにお応えするのが
実体験に基づいた
アルパインツアーの旅づくりです。

総合ツアーカタログをご請求ください。

ニュージーランド唯一のスカイライン&クラブツーリストのトレッキング

ルートバーン・トラックとマウントクック 10日間

出発 大阪・東京
●12/5発……¥572,000
●12/19発……¥628,000
●1/2発……¥620,000

シンガポールを起点利用、コンパクトな日程で「世界一美しい都市」を歩く

ミルフォード・トラックとクイーンズタウン 9日間

出発 大阪・福岡
●12/6●2/21●3/14発……¥526,000

ニュージーランド「アルプス街道」の比類なき景観が大展開！

サザンアルプス・パノラマ・ハイキング 8日間

出発 大阪・東京
●12/7●1/4●1/18発……¥498,000
●12/21発……¥528,000
●2/1●2/15発……¥520,000

ゴルドを見わたす高度コース、ゴラパニ峠で迷走、ポカラでも観光

アンナプルナ・ダウラギリゆったりトレッキングとポカラ 12日間

出発 大阪・名古屋・福岡・東京
11/19●12/10●3/12●3/19●3/26
1/8発……¥362,000

エベレスト山群まっただ中の展望地タンボチェへ

エベレスト・パノラマ・トレッキング 13日間

出発 大阪・名古屋・福岡・東京
●11/21●12/12●12/19●2/19●3.5
●3/12●3/19●3/26発……¥370,000

絶景ロッジの中庭から世界最高峰のパノラマを堪能

[年末年始]エベレスト展望トレッキングと絶景の展望ロッジ宿泊 10日間

出発 大阪・名古屋・福岡・東京
●12/26発……¥412,000

パトロッジ泊でパタゴニア2大山郡のふところへ

パタゴニア・スーパー・トレッキング パイネ&フィッツロイ山群 16日間

出発 東京 ※大阪/東京間の国内線往復運賃別途あり
11/20●12/18●1/8●2/12●3/5発
……¥926,000

サービスに定評のあるエミレーツ航空利用、アフリカ最高峰に挑む

キリマンジャロゆったり登頂とサファリ 11日間

出発 大阪
●12/14発……¥598,000

南アフリカ、世界遺産の山岳地帯でハイキングを楽しむ

南アフリカ・ドラケンスバーグハイキングとテーブルマウンテン、喜望峰 11日間

出発 大阪・名古屋・福岡・東京
●12/7発……¥670,000
●1/4発……¥576,000
●2/22発……¥590,000

ベトナム最高峰登頂、自然、文化をコンパクトな日程で満喫！

ベトナム最高峰ファンシーパン登頂と世界遺産ハロン湾クルーズ 8日間

出発 名古屋・東京（旅行代金は名古屋発着）
●11/23●4/19発……¥286,000
●1/18発……¥288,000
●2/15●3/15発……¥298,000

密林に眠るアンコールの遺跡と聖なる山を歩く

世界遺産アンコール・ワット遺跡群と聖山ハイキング 6日間

出発 大阪・名古屋・福岡・東京
●11/18発……¥226,000
●12/16発……¥272,000
●12/30発……¥344,000

東京から南へ1,000km！海の幸と手つかずの大自然を満喫

秘境・小笠原諸島・父島、母島ハイキング 6日間

出発 東京
●1/14●1/28発……¥132,000
●2/11●2/23●3/7発……¥142,000

アルパインツアーのホームページをご覧ください。 http://www.alpine-tour.com

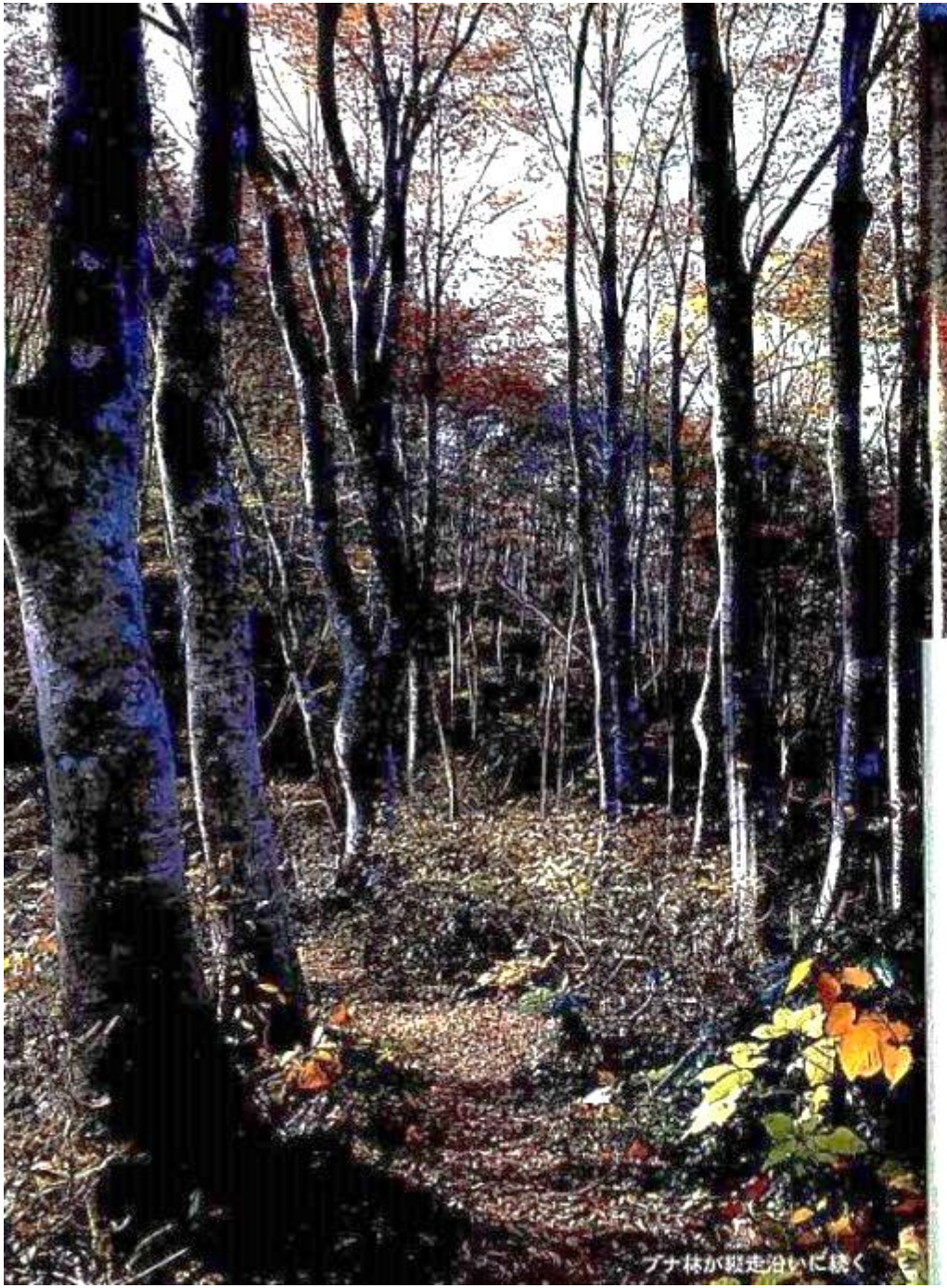
国土交通大臣登録旅行業第4911号／(社)日本旅行業協会正会員 ボンド保証会員
アルパインツアーサービス株式会社
〒550-0003 大阪市西区京町堀1-4-3 TCF肥後橋ビル2F
東京／☎03(3503)1911 大阪／☎06(6444)3033
名古屋／☎052(581)3211 福岡／☎092(715)1557
札幌／☎011(711)7106 仙台／☎022(265)4611(転送)
(㈱りんゆう観光) 広島／☎082(542)9660(転送)
e-mail:osaka@alpine-tour.com

山仲間でオリジナルツアーを企画してみませんか。

山岳会、ハイキングクラブで企画
ツアーリーダーも同行し、安心の山旅

山岳会、ハイキングクラブなどで海外トレッキングやハイキングを企画したい。いつもの山仲間で海外の山歩きをしてみたい、というような場合には、アルパインツアーからツアーリーダーが同行し、ご案内をいたします。旅行プランについては、経験豊富なスタッフにご相談下さい。

出張説明会 山の仲間がお集まりのときに、当社社員が海外トレッキングのスライドを上映します。



ブナ林が縦走沿いに続く

東峰に向かう縦走道からブナ林が枝線に広がる

近江の山　樹木の四季 ―晩秋―

山本武人

湖北の山　横山岳のブナ　（木之本町杉野）

私が『近江　湖北の山』を出版したのは昭和60年（1985）。それから20数年が過ぎた。横山岳山麓の杉野にある「杉野山の会」の二宮宗太郎（初代会長）さんにはたいへんお世話になった。

その当時から横山岳は湖北の名峰だった。山頂付近のブナは格別である。今では東峰にあるブナ林まで登山道が開けてすばらしい縦走ができる。

これからも横山岳は四季を通じて我々にその美しさで感動させてくれる。

Photo essay

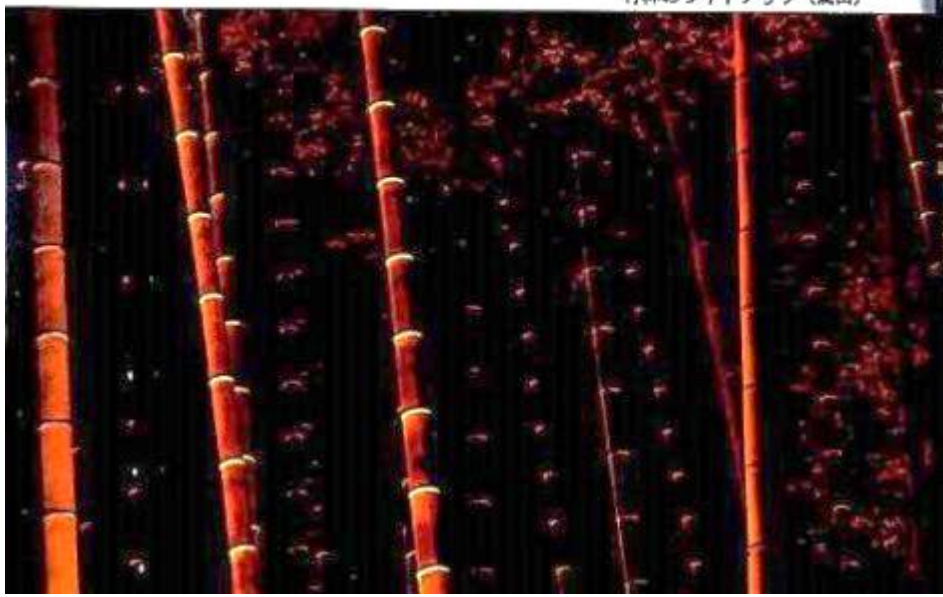
嵐山

題字　中田蘭石
撮影　由井　収
文　松永恵一

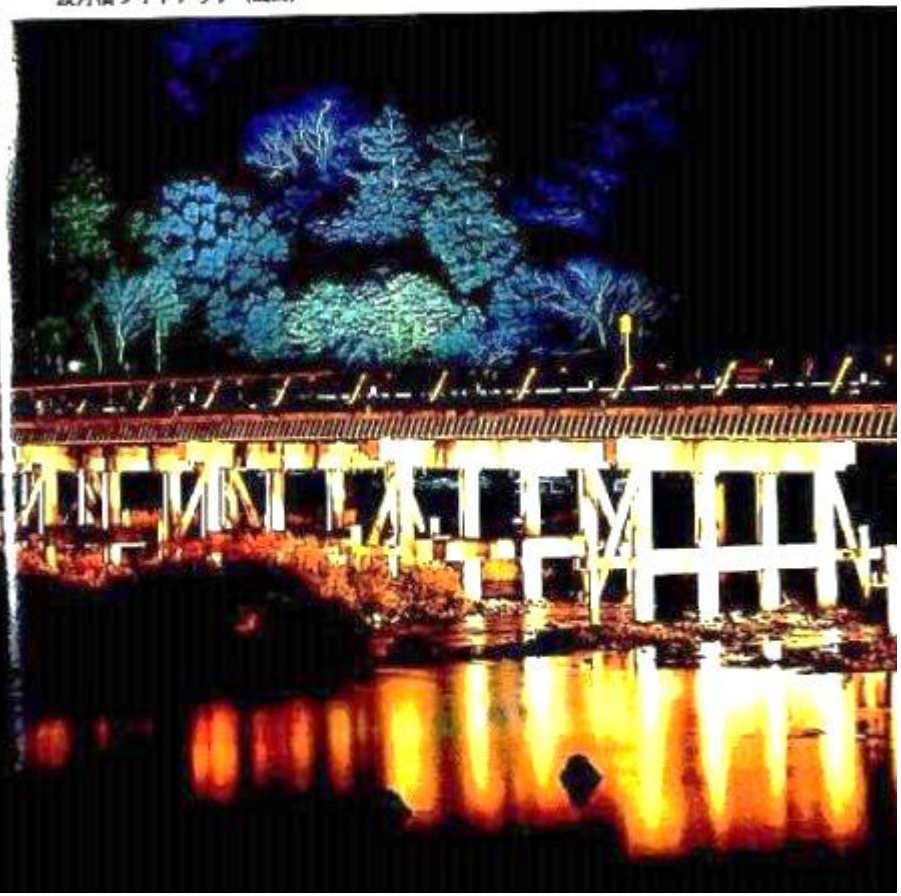
竹林の小径（嵐山）

初冬の京都・嵐山花灯路
幽玄の世界が繰り広げられる
和の情緒溢れる行灯の灯り
路を彩るいけばな作品の花
薄闇に華麗な色を添える
清流大堰川に架かる渡月橋
水面に浮かぶ二艘の船
雅楽の音色が冴え渡り
優雅な舞に魅了される
大河内山荘に至る竹林の小径
わずかな隙間から月が見え隠れ
市内はキラキラ輝く光の海
拾遺和歌集巻三　藤原公任の歌
　朝まだき嵐の山の寒ければ
　紅葉の錦きぬ人ぞなき

竹林のライトアップ（嵐山）



渡月橋ライトアップ（嵐山）



季節の実景

晩秋

善峰寺界隈（京都西山）

撮影　武市通治

夕陽

散紅葉

残り葉

紅葉スダレ

山燃ゆる

鏡池秋景（北アルプス） 武田誠司

亀山を背景にして（室生・曽爾高原） 高岡富美子

冬山を行く（立山・雲鳥沢付近） 中澤興司博

晩秋のブナ林を行く（湖西・三重嶽） 一芝義雄

新ハイキング
関西の山
11・12月 2008（晩秋）
No.103

●表紙 霧氷と三滝（西国・剣山地）…… 松田敏男
●口絵 近江の山・樹木の四季 …… 山本武人
Photo essay「嵐山」 …… 松永恵一
季節の実景－善峰寺界隈－ …… 武市通治
・高岡富美子・一芝義雄・武田誠司・中澤興司博
修験道ゆかりの竜泉寺へ－天川村洞川－…… 奥田英一郎

能郷白山（西村文男）

巻頭紀行

コトガ谷左岸尾根登高 …… 小山 誠次 12

随想

ホトトギスの宿命 …… 鷲見 守康 18
「雪」のこと …… 森 美香子 19
山中越 …… 網本 逸雄 36
再び「女人禁制」考 …… 藪木 伸人 44

紀行

鍾馗山・恵信山・高尾山 …… 木村 太郎 21
大河内山と藤坂山 …… 藪木 伸人 26
御嶽山を歩く …… 中澤興司博 30
標高による山の紹介シリーズ 43 △△03mの山
柳形山（雑山）・小熊山・滝山・上河内山 …… 松田 敏男 34
葛岳 …… 山田 明男 40
太尾・白谷峠よいずこ－ …… 長谷川雅俊 46
和泉葛城山から大石ヶ峰 …… 礒部 耗 54
水落山 …… 吉見 英樹 60
文学歴史ハイク㉑ 平城の飛鳥（畝傍山）を訪ねて… 松永 恵一 64

情報

山のレポート 山の地名を歩く㊷ 岩手山 …… 西尾 寿一 68

コースガイド

[1] 高山ダムと三硯県境交点 …… 長宗 清司 70
[2] 提灯讃山 …… 柴田 昭彦 72
[3] 比叡アルプス・一本杉（登仙台）へ …… 松尾 一郎 76
沿線ハイキングガイド …… 80
せせらぎ …… 82
サービスチェーン …… 86
山行計画・報告 …… 91
●小林春三氏逝去 …… 110
入会案内・新入会員紹介 …… 111
原稿募集・編集後記・広告案内 …… 112

巻頭言

中高年に「メタボ」（メタボリックシンドローム）を気にする人が多い。おなかが出ている人は内臓脂肪型肥満の可能性があり、内臓脂肪から分泌される様々のホルモンによって血糖・血圧の上昇を引き起こし、放置すると、動脈硬化から心筋梗塞や脳卒中など、心血疾患にいたるリスクが高い。

長寿遺伝子を働かせるには、自分の身長・体重、日常活動も加味し一日に必要な総カロリーを計算し、摂取をそれ以下に抑えることが肝要で、減量すれば「メタボ」も解消できる。

一方、カロリーを消費してくれ、筋力の衰えを防ぎ脳を活性するには適度な運動も必要で、山歩きを3時間すれば、ジョギングを3時間するのと全く同じ効果があるという。

中高年にとって山登りは、まさに老化を防ぐ健康の源と理解して月に3～4日は山に入ってほしい。

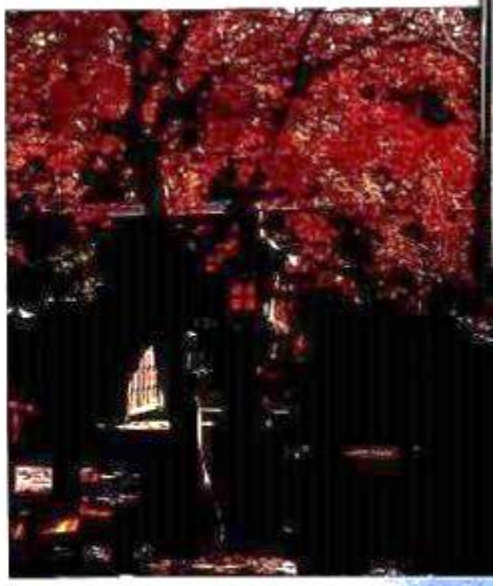
新ハイキング関西（代表）村田 智俊

修験道ゆかりの竜泉寺へ －天川村洞川－

奥田英一郎

川辺にたたずむ石碑群

秋色の境内裏山


真紅の中の山門

巻頭紀行

滝谷分岐から蛇谷ヶ峰

コトガ谷左岸尾根登高

比良

小山誠次

今回の山行には幾つかの契機がある。まず本誌97号「地蔵峠・横谷峠・荒谷峠・滝谷越」で、滝谷越を経ての下山時、「先程の滝谷川右岸の明瞭な山道は中央の道であろう。すると、右の道はどこに？　と見回すと、堰堤すぐの下流左岸に登路がある。」と報告した。

さらに本誌101号「植谷南方尾根から蛇谷ヶ峰西峰」での帰路、滝谷川の堰堤まで戻って来たとき、「先の道は右股とも言うべきコトガ谷左岸に沿っている。標高差50ｍ程登った所で、山道はコトガ谷を渡り、今度は右岸に沿って上流へと続いている……」とも報告した。

（写真１）雨に煙る蛇谷ヶ峰と北稜

しかしながら、そもそもは角倉太郎著『比良連嶺』（昭和16年再版）での「滝谷をしばらく登るとやがてそれが三つに岐れる。……右は――頂上までの最捷径である」という記述を読んで、それを確認してみることが本日山行の第一の目的なのである。

平成19年12月24日、前日の予報によ

ればは、ここしばらくは近畿地方北部はたいていが降雨と表示されていたが、滋賀県北部の降水確率は前日18時から6時間毎に、50／50／30／20／10％で、最高／最低気温は9／7度。北西の風が吹き、明け方まで雨とのことであった。むしろ、この予報であれば、最近の傾向に比べると恵まれているほうだと思った。

しかし、当日朝の滋賀県北部の午前／午後の降水確率は50／30％と悪化し、「雨のち晴れ」、さらに強風と雷の注意報が発令されている。滋賀県南部は30／20％なので、降雨地域が南下したような予報である。

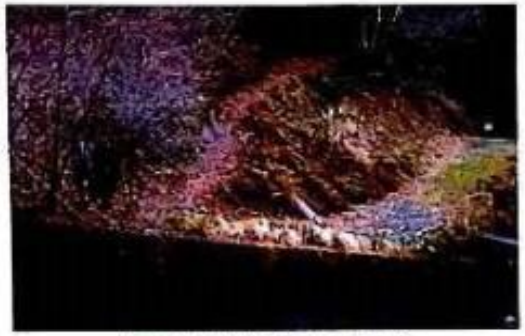
コトガ谷左岸尾根付近図

一方、今朝方の京都市内は路面は濡れているものの、晴れている。わずかながら期待感をもって、妻に京都駅まで車で送ってもらった。

8時15分発敦賀行き新快速は湖西レジャー1号での運行期間が終わり、志賀駅に停車しない。今の時期は登山客も少ないのか、空席が目立った。

さて、前回（11月25日）ほどではないが、比良山差近くになると雲がかかっていて視界は悪い。電車から太陽と反対の西側に虹が出ているのが見えた。最初は地表近くに見えていたが、徐々に文字通り虹の架け橋が完成していった。乗客からも歓声が上がり、筆者も写真に収めた。

幸運はここまで、志賀駅あたりからは雨粒が窓を打つようになった。だんだん激しくなり、近江舞子駅では辛うじて比良山系が眺められるほどの降雨である。11月25日は霧で山は全く見えなかったが、雨の日のほうがまだ見通しがきくと改めてわかった。



（写真２）滝谷川堰堤すぐの取付点

電車は定刻の8時55分、近江高島駅に到着した。急ぎ、用を足し、9時3分発の畑行きの高島市コミュニティバスに乗った。地元の人が1人、筆者を含む登山客が6人である。9時17分、相変わらずの降雨のなか、宮坂口に到着し、筆者と地元の人がここで下車した。

バス停の待合室に入り、レインウェアーとザックカバーなどの降雨対策を整え、同27分に出発した。空模様はまだまだ雨が続きそうで、目指す蛇谷ヶ峰・北稜も完全に雨雲で覆い隠されている（写真１）。

玉津島神社で一礼し、願証寺の脇で手袋を取り出し、4分後に牧柵ゲートを開扉する。そのまま馴染みの滝谷川に沿う林道をたどり、10時2分、滝谷川の大きな堰堤に到着した。滝谷川左岸の登路取付点はすぐ目の前である（写真２）。写真は本日の帰路に滝谷川を挟んだ右岸より撮ったもので、右側の広い道は宮坂口に繋がり、左側の細い道がこれからの登路である。

10時9分、雨の勢いは相変わらずだが、登り始める。最初からいきなりの急坂で、スリップに注意しながら慎重に歩を進めると、すぐに堰堤左岸の壊れた扉の横を通過した。そのままコトガ谷左岸沿いに進み、同16分、コトガ谷を渡って右岸沿いへと続く地点までやってきた。

当初、この地点から先のことが『比良遠道』にも特に記載されていないので、進路をこのまま右岸沿いの道を選ぶのか、あるいは右手の標高差10㍍程の尾根上を選ぶかを判断しかねていた。しかし、本日のような雨の日にわざわざ谷沿いの道を選ぶこともなかろうと考えて尾根上を選ぶことにした。また、これで来年の宿題ができたことになる。

しかし降雨のなか、標高差10㍍とはいえ、尾根上までは急坂で滑りやすく、樹木が保持できなければもっと時間がかかっただろう。同23分、地形図が示す通りの平坦な尾根をいよいよ出発することとする。

当初は磁北21度に進み、最終的に北稜に出合う直前では磁北の西85度に向かう予定である。自然林の疎林帯のなか、コンパスを首から掲げて時々方向を確認しながら進む。雨の日などは疎林帯がよいとはいえ、適当に木々が密集しているほうが樹幹が保持できるので都合がよい。木々をつかめないぐらい疎らな場所では、細って滑って登りにくい。

同42分、コトガ谷支流源頭の草付きを左手に確認する。標高540㍍。本日登高開始は標高350㍍で、北稜のゴールは750㍍なのでちょうど半分到達したことになる。また、嬉しいことに雨脚が弱まってきた。ここから宮坂集落が木々の頭越しに眺望できるほどになってきた。

しかし、今の時期は当然とはいえ冬枯れの木々で、全く人っ気の無いことと合わせ、寂寥感が強い。そう思ったのも束の間、再び登り出すと足許が滑って何を支持にしたらいいのか、そのことで頭が一杯になった。登山靴もロングスパッツもレインウェアーのズボンも泥だらけになっている。

11時22分、標高680㍍で、登路上の目前に馬酔木がドッシリと根を下ろしている。本日の山行では、珍しいくらいの緑色の自然林を見た思いである。さらに同27分、標高700㍍に達したとき、後方を振り返ると滝山方面の空が明るくなってきた。この時点で雨はすっかりやんだ。また、登路上に疎らなクマザサを目にするようになる。

11時34分、やっと北稜に到着した。ちょうど、地形図上の752との表示と750㍍等高線との中間地点である。西方目前の三ノ谷を挟んだ尾根が高くそびえている。周囲を見れば、雪が疎らに解けずに残っている。

蛇谷ヶ峰へ向かって北稜を歩き出すと、すぐに霧が降ってきた。季節違いとはいえ、霧だったら進げ場がないところである。また、今朝方の雷注意報は、目下のところ当たっていないのが幸いである。一方、雲の湧き立つ流れが盛んで乱雲が流れている。強い北風と共に、これから再び降雨になるのではないかと多少気になる。登路上のウマスギゴケやヒカゲノカズラを覆う積雪は情緒的で、白と緑の対比が鮮やかである。

12時ちょうど、蛇谷ヶ峰に到着した。旧朽木村方面から正午のサイレンが聞こえてきた。さすがに本日は誰にも会うことはないようだ。いつもならすでに何人かが弁当を広げているのだが。

とにかく北風が強い。山頂の南側でお握りを食べ、カップラーメンに熱湯を注いだが、背にした北方からは寒風が吹きつけてくる。気温は3度だが、体感温度はさらに低いはず。また、先

（写真３）釣瓶岳と武奈ヶ岳の雪景色

程よりも一層雲が湧き立ち、流れては消える光景を目にするようになった。遠く釣瓶岳と武奈ヶ岳は冠雪していて、二つの山の雪景色が重なり、山頂付近が雲に覆われているのもよくわかる（写真3）。

とはいっても、降雨下で人跡稀なルートを登高したことの喜びは大きい。レインウェアーは雨上がりの後は防風・防寒用に役目は変わった。寒いけれど、まだまだ心の余裕は十分残っている。

さて、食後のコーヒーも終えた12時44分、いよいよ下山開始である。本日の帰路は、前回の「滝谷越直交尾根ルート」での往路から下山する予定である。

13時1分に先程の今日の往路到着地点を通過し、同13分には富坂口への分岐路も通過し、同19分に滝谷の頭の古い標柱の立っている所にやって来た。

さて、前回と逆コースをたどることにする。下り始めてすぐ、前回の登高時の感触と比べて、「こんなにも急峻だったかな」というのが第一印象である。とても直降での下山は不可能で、横歩きで斜め下方へ一歩ずつ進むしかない。このジグザグの繰り返しで、最も急峻な箇所を通過した。

一度通ったとはいえ、登路と降路では視線も異なるので、改めて地形図上に下降ルート線を引き、角度も記入して用心している。濡れた木を知らずに踏みつけて一回大きく転倒した。

ひとまず無事に鞍部に達した。前号にも報告した通り、ここから標高差10m以上を登って南東のピークに向かう。途中、一匹の鹿が逃げてゆく後姿を見た。次に、磁北107度方向に進んで急斜を目前にすると、今度は144度方向に進路を変更する。再び平坦になると、後は道なりに進み、無事滝谷越上の造林公社の小屋と再会した。1ヶ月振りである。ここで6分間の安堵と飲水の休憩をとる。

ここからは、先の「地蔵峠・横谷峠・滝谷越」での帰路と同じルートをたどり、14時13分に滝谷川の堰堤に到着し、先の本日の取付点の写真を撮った。そのまま富坂口への林道をたどっていて、ちょっと横道に逸れ、またまおもしろい光景を目にしたので、写真を撮った（写真4）。題して、「木の根っこと岩とどちらが強い？」に対する答えである。

14時36分、牧柵ゲートを通過し、願証寺と玉津島神社で合掌・拝礼した後、15時10分に富坂口バス停に到着した。

（写真4）木の根っこと岩とどちらが強い？

バスは16時23分発なので、1時間以上あるため、着替えた後に本日の山腹登路を写真に撮ろうと、いいアングルを探した。

16時39分に近江高島駅に着き、同46分発京都行きの普通電車に乗った。今の時期はすぐに日が暮れる。琵琶湖東岸を眺めていると、赤い大きい満月を地平線直上に望むことができた。そういえば、昨日の気象情報で今日は満月だと言っていたのを思いだした。

最後に、本日の山行詩情を七言絶句に詠んだ。

拙作

職月雨中蛇谷峰
空山霜発木枯冬
幽辺霧降雲気上
織間鳳塞遠雪重

（意）

十二月、雨中の蛇谷ヶ峰。人っ気のない山は心淋しく、冬枯れの木々があるだけ。一方、頂上付近では霧が降り、雲が湧き立ち昇る。織かに日が照るものの、北風は寒く、遠くには雪景色が重なっている。

（平成19年12月24日歩く）

≪コースタイム≫

富坂口バス停（11分）玉津島神社（2分）願証寺（4分）牧柵（16分）滝谷堰堤すぐの取付点（7分）コトガ谷分岐（3分）コトガ谷支流頭頂（14分）標高590m地点（17分）馬酔木の大木（3分）標高700m地点（7分）北稜（23分）蛇谷ヶ峰（17分）往路出合（12分）富坂口への下山路分岐（6分）滝谷の頭（11分）鞍部（2分）ピーク（14分）滝谷越頂上（21分）滝谷堰堤（21分）牧柵（34分）富坂口バス停

≪地形図・地図≫

2万5千：北小松
昭文社：「比良山系」（2003年版）

人気商品紹介
◆ウォーキングライト◆
オリジナルザック & 登山用品専門店
神戸ザック
http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac

クライミングからハイキングまで使えるシンプルなデザイン。トップとフロントに大型のポケット、両サイドには、ストック等の収納に便利なワンドポケットを装備。軽量化と機能性を追及した日帰りから一泊用のノンフレームのHBザックです。
☆26ℓ☆
・カラー　ブルー×ネイビー・レッド×ネイビー
ワイン×ネイビー・オレンジ×ネイビー
・重量　820g
・素材　ナイロンリ・リップ
・価格　¥10,500
イモック山歩行くらぶ
春夏秋冬、季節を気にせず、里山・低山・名山を訪ねます。お気軽に参加下さい。
詳細はお問合せ下さい。

IMOCK.
KOBE
TEL (078) 621－5851
FAX (078) 621－3526

随想 山のエッセイ

ホトトギスの宿命

鷲見　守康

「目に青葉山ほととぎす初鰹」。万人に知られ、季節を語るとき決まって引用される。江戸時代の俳人山口素堂の名句といわれ、初夏の野と山と海の壮快なきらめきが感じられる。

新緑眩しい初夏に山を歩くと、ホトトギスのけたたましいほどのさえずりを聞く。「特許許可局」とか「天辺欠けたか」と聞き做しするさえずりは、目に映る新緑と共に、耳にする代表的な初夏の音といえるのかもしれない。

ホトトギスはホトトギス科の文字通り中心的な野鳥であるが、この科には、他にも広く名の知られるカッコウ、そしてツツドリ・ジュウイチがいる。

私はこれらの野鳥を「ホトトギス四兄弟」と説明している。姿がよく似ており、特に、ホトトギス・カッコウ・ツツドリは双眼鏡で見てもなかなか判別できず、鳴き声を聞いて始めてわかるという次第である。

以前、越美の冠山の稜線で、枯枝にホトトギス科の鳥を見つけ、「なんだろう？　ツツドリかな？」と考えていたところ、突如「カッコウ！　カッコウ！」と大声で鳴かれびっくりした。大きさもカッコウがわずかに大きいくらいである。

ところが、さえずりとなると全く三者三様で、これほど似ていない兄弟もないのではないか。ホトトギスは「キョキョッ　キョキョッ」、カッコウは名のごとく「カッコウ」、ツツドリは「ポポッ　ポポッ」と竹筒の口を手で叩くように控やかに、ジュウイチは名前のとおり「ジュウイチッ　ジュウイチッ」と自己主張するようにかしましく鳴く。

ホトトギス科の鳥たちはいずれも、5月に大陸などからわが国に渡ってきて繁殖する夏鳥である。

山歩きでよく出会うのはホトトギスだ。特に初夏に山を歩くと必ずといっていいほど出会う。カッコウはどちらかというと草原に多く、ほるかに遠く声を耳にする。ツツドリも身近に聞くことは少なく、登っている尾根からもうひとつ向こうの尾根で鳴いているということが多いようだ。ジュウイチは、最も標高の高い所で活動するようで、さえずりを聞くのは中級山岳が多いような気がする。

山を登りつつ、ホトトギスの声を聞き、ツツドリ・カッコウの声を耳にし、「残るはジュウイチだな」と呟いていると、やがて「ジュウイチッ　ジュウイチッ」と鋭い声に出会うことがある。そんな時、ホトトギス四兄弟の声を聞いてうれしくなり、なぜか得したような気分になるのだ。

ところで、このホトトギス科の鳥たちは、他の鳥にはない独特な習性を持っている。

他の鳥の巣に自分の卵を産みつけ、他の鳥に自分の子を育ててもらうという習性で、これを「托卵」と呼ぶ。

ホトトギスはウグイス・ミソサザイなどに、カッコウはモズ・ホオジロなどに、ツツドリはセンダイムシクイなどに、そしてジュウイチはコルリ・オオルリなどに托卵するという。

托卵の仕組みは実に巧妙である。仮親（托卵の相手）が卵を産み始めると、その留守を狙って巣から一つ卵をくわえ出し、すばやく自分の卵を一つ産み落とす。この卵は仮親の卵より早く離になり、離は他の卵を全部巣の外に押し出してしまうのだ。そして、巣を独占したこの離を仮親はわが子として育て続けるというのである。

しかし、仮親とされてしまう鳥も、「どうも変だな？」と感じることはあるようで、卵が自分のものではないと気づくと巣の外に落としてしまう。

最近では托卵に失敗する例もあり、ホトトギスたちは違う種類の鳥に托卵するという、自然界の追いかけっこが始まっているそうなのだ。

托卵という現実はいささかショッキングなことであり、ホトトギスたちの「ずるさ」を指弾したくなるが、それは人間的な見方であるらしい。

ホトトギスたちは体の大きさに仮合わぬ小さな卵を産まなくてはならないし、色や形も仮親の卵と同じにしなくてはならない。さらに繁殖の時期も合わせ、仮親が離れている一瞬の隙にその巣に生みつける術も身につける必要がある。そこまで苦労するくらいなら、自分で育てたほうが楽だという意見だってある。

ホトトギスたちが托卵するのは、彼らの体温の変化が激しく、卵を温めて孵化させるのは難しいからという説が有力だが、天は、なぜこのような自然の営みをつくってしまったのだろうか。そして、このような宿命を背負ったホトトギスたちは、自らの定めをどう受け止めているのだろうか。

「雪」のこと

森　美香子

晩秋、北の国から雪の便りが届けられる頃となった。「雪」を聞くと、雪国育ちでもないのに私の血が騒ぐ。

昨年11月、思いがけず御嶽山で初雪を踏むこととなった。御嶽ロープウェイを利用し、八合目から三ノ池方面へ。標高2700㍍の三ノ池はすでに雪と氷をまとっていた。夏の賑わいとは別

世界だ。そこからサイの河原に登る。私と同行の中澤さん以外、他の登山者はいない。空は青天、麓の開田高原はカラマツ林が黄葉に染まっていた。

1月、NPO法人が「信越トレイル」の拠点、飯山市鍋倉高原の「コテージ・森の家」主催のスノーフェスティバルに参加した。スノーシューの貸し出し、トレッキングツアーの実施など、およそ2000人が集まった。

ここは豪雪地帯として名高く、一晩で2～3㍍は積もり、それが何日も続く。集落のほとんどを65歳以上が占める限界集落だ。その裏山に、日本海側特有のまっすぐなブナの純林が存在する。昔から人々は「水源の森」としてその林を大切に保護してきたという。

ここではスノーシューを履いてのムーンライトハイキングが楽しかった。夜の8～9時、時折小雪が舞う月がぼんやり照らす戸外へ。ヘッドランプを点けなくても大丈夫だ。雪明かりでそことなしに明るく目も慣れてくる。雪原を走り、同行の中澤さんの背に雪玉を浴びせ、自らも報復いになる。ブナの下で皆が輪になり手の平サイズの雪の塊をミニかまくらのように周りに囲い、その中にローソクを灯す。雪でできた行燈。孫の人がつくって持ってきたホットワインで乾杯する。

日本海からの冷気がこの信越国境関田山脈に最初の雪を降らすため、鍋倉高原の雪は水分を多く含んでいる。一方、志賀高原では水気が飛んでパウダースノーになる。

2月、その雪に足を踏み入れた瞬間、サクサクでキュッと締まる感覚がすばらしい。古くからスキーリゾートとして有名なのも首肯ける。ここではスキー板を着けていなければリフトは乗れない。しかしゴンドラリフトを利用すれば簡単に2000㍍の稜線にのる。

スノーシューをフルに活用し、樹氷でモンスターと化したコメツガ・シラビソ林を抜け、パウダースノーを蹴散らしてここぞと思う進路を開いていく。スキー場脇の樹林帯の急斜面も思うがまま。引っかかることもなくスーッと滑っていく。気温は低く間断なく降る雪に、ネックウォーマーは凍りつく。サングラスよりゴーグルがよい。

翌日、志賀山へ(前山スキー場より目指したものの道標もトレースも不確かで、着いた所は前山湿原より逆方向のひょうたん池だった。雪山での方位や現在地確認の重要性を改めて思い知らされることになった。

「雪博士」で知られる中谷宇吉郎は、「雪の結晶はそれぞれ地表に達するまでの大気構造によって違う」と、著書『雪』に記した。

雪山で、童心に戻って遊びながら雪肌をじかに味わい、もう一歩奥の地球環境(水・気象)について、もっともっと知りたい。

紀行

関東ふれあいの道を歩く

陣馬山・景信山・高尾山

関東

木村太郎

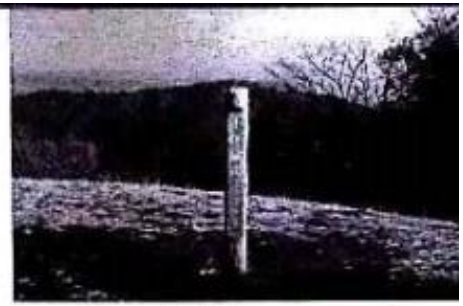
北原白秋は昭和10年、「浪漫精神の復興」を唱えて多磨短歌会を結成した。師与謝野寛の残した功績に短歌界が冷淡なことを憤っての行動といわれる。昭和12年の夏に武州高尾山で多磨全国大会を催したが、その年の秋に眼底出血を患い、その後薄明の世界に生きることになる。自然詩人と評価の高い白秋が、山の自然を健康な眼でみつめたのは、武州高尾山が最後だったのである。

白秋には「高尾薬王院唱」の短歌作品17首がある。その中の代表作の歌碑が高尾山中に建てられている。全国で70基程建つ白秋の詩歌碑の一つ、高尾山の白秋歌碑をこの目で確かめてみたいという気持ちもあり、陣馬山から高尾山へ歩くことにした。

陣馬山

東京駅始発JR中央本線の特快に乗り、高尾駅で普通に乗り継ぎ藤野駅で降りる。緑に囲まれた駅前ではやまなみ温泉行きの津久井神奈交バスが発車待ちしていた。護良親王の首を抱いて難を逃れた峰山やギフチョウが生息する石砂山など、藤野町の中心を流れる相模川南方の山行きに利用するバ

陣馬山・景信山・高尾山付近図
景信山
八王子市
八王子JCT
中央自動車道
JR中央本線
高尾町
高尾山
城山
(小仏城山)
一丁平
陣馬山
(陣場山)
和田峠
豊所山
藤野町
相模湖町
JR藤野駅
落合
陣馬山登山口
和田
上沢井
藤野山登山口
新谷
高沢
藤野駅
藤野駅
藤野駅



小仏城山

その頃妻は、詩集「乱調の章」（1970年出版）を執筆していて、私はその編集を手伝うために新宿下落合にある妻のアパートを訪ねた。一段落したあとで、東京タワーや新宿の繁華街へ足を運んだが、高尾山など郊外で遊んだことはなかった。あの頃は山の魅力も知らずに、街を彷徨するだけだった。

自然の樹木は枯木になっても、季節さえ巡れば蘇生して緑の衣裳を身にまとう。人は老骨となりゆくばかりで、二度とふたたび華やいだ日は帰っては来ない。心に痛みさえ感じる季節風に吹かれ、土に還る運命の落ち葉を踏んで歩くしかないのだ。

晩秋から初冬にかけて、陽だまりの山歩きが何より好みである。やわらかな光を全身に浴びて山に入り浸る時、現実を忘れることができる。贅沢三昧な光に照らされれば、寒々した枯木の山の風景さえ、緑萌えるような明るい気分にさせてくれるのだ。

甲州街道へ通じる小仏峠には、歴史を感じる小仏地蔵や明治天皇巡幸碑がある。高尾山麓辺には25箇近くのスミレが見られるが、白い花を付けるコボトケスミレが発見された峠である。相模湖駅と三ヶ木を結ぶ千木良バス停の道を見送り、切り開き道を城山（670㍍）へ登り、小仏城山の山名標の前に立つ。

城山の茶店にはビールやおでんの暖簾が掛けられ、ムカゴ・クルミ・クリ・ヤマイモなど山の幸が売られている。城山の春はタカオスミレの花が楽しめるが、この季節は山の幸や木の実などの恩恵に授かれる。

一丁平の展望地から、稜線に嵌められた絵画のような富士山が見られた。明るく澄んだ道筋にシラカバの木々が残光にゆらめき、富士山に真向かう低山を引き立てている。一丁平を過ぎ尾根道が広くなり、千本桜と呼ばれるヤマザクラの多い道が続く。

もみじ台に来て、高尾山頂が間近となり足どりも軽くなる。日暮れまでに山を下りたかったが、この調子ならケーブルに乗らなくても16時には下山できるだろう。明治の森高尾国定公園は、箕面明治の森までを結ぶ東海自然歩道東の起点に当たる。

頂上直下の石段を登れば、イロハモミジが彩る高尾山（599㍍）に着く。二等三角点の山頂には、「十三州大見晴台」の石柱と13の州名を列記した石碑が立つ。駿河・甲斐・信濃・越後・上野・下野・常陸・上総・下総・安房・相模・伊豆・武蔵の州名を示す。

観光地のように、老若男女で大賑わいの山頂、いや観光地のようにではなく、高尾山は観光地そのものである。年間に約250万人が訪れるし、ミシュランが日本版旅行ガイドで、富士山・姫路城・奈良・京都などと同等の三つ星に格付けしている。

ミシュラン曰く「薬王院に参拝すると幸運に恵まれる」と紹介している。薬師信仰（後に飯縄信仰と富士信仰も興る）の高尾山薬王院有喜寺として、聖武天皇の勅命により高僧行基が山を開いた古い歴史がある。

高尾山の白秋歌碑

下山道は稲荷山コースやいろはの森コースなどがあるが、表参道の自然研究路1号路へ進んだ。奥の院から薬王院を通り抜け、山門を出るとスギの巨木が立ち並ぶ。夏の太陽が照りつけ雲がわく高尾山へ吟行に来た時、白秋が「五百重神杉」と詠んでいる。

日あし未だ雲ゆ立ち来ね高尾山や
五百重神杉木霊明れり

イヌブナの多い道をたどり、男坂と女坂との分岐路に来て、この日この目で確かめてみたかった北原白秋の歌碑と対面できた。

我が精進こもる高尾は夏雲の
下谷うづみ波となづさふ

昭和12年8月中頃、北原白秋は精進の館と高尾山の薬王院講堂に籠り、歌づくりに没頭した。実作指導を兼ね、白秋は仲間を連れて見晴台（高尾山頂）まで足をのばしており、自然詩人の片鱗をみせている。

自然詩人白秋は、小笠原父島の旅を終えた29歳の時、某誌のアンケート（白秋全集38巻所収）で、好きな樹木は「こむの大樹、その他樹は何にても好き。単独にその一本を取り除けて考ふる事六つかし。」と答えた。

多種の樹木とそれを育む大地に生きる多様な禽獣類、高尾山は貴重なる自然遺産の山といえよう。単独の特定した樹木だけでなく、四季折々の変化に富んだ高尾山の自然に、白秋が吟行地に選んだのが理解できるのである。

ケーブル高尾山駅に近い浄心門を出た道でブナの巨木を見つけた。何の樹木も好きという白秋が生きていたならば、惚れ惚れと見上げたに違いないブナの木が威容を誇っていた。

（平成19年12月5日歩く）

《コースタイム》

JR藤野駅（バス10分）陣馬登山口（1時間40分）陣馬山（1時間40分）景信山（50分）城山（50分）高尾山（1時間20分）京王高尾山口駅

《地形図》2万5千＝与瀬・八王子

紀行

南海を望む峠から三角点へ

大河内山と藤坂山

南勢

薮木伸人

三重県大紀町古和河内と南伊勢町古和浦との間に古和峠（395㍍）がある。6月1日、この峠から大河内山の三角点を目指した。

国道42号線を栃ヶ久保で離れ、1・2㌔東進した所に南伊勢町方面を示す標識が立つ。ここが、峠に至る約4㌔の起点である。舗装されているが、一部はかなり狭い。錦経由の広い道が通じている今では通る車も稀な峠道だ。往時ここを行き来した人々の様子は、庄山剛史著『三重の峠』（05年、風媒社刊）に詳しい。

峠からは通信用鉄塔施設のオフロードが上っているが、通行はゲートで止められている。その脇に車を置き、峠の切り通しを見に行くと、南伊勢側に「塞の神」と刻字された石柱が立っている。

沼ヶ野から見た大河内東峰

ゲートの横からオフロードを上る。ウツギ・マルバウツギ・ネジキ・エゴノキ・カナメモチなど、白い花々が目につく。

道が北から南に向けて左カーブした所で、道から外れて尾根を直登してみた。足元にコナスビの咲く急斜面の途中で振り返ると、天辺が削り取られた

三等三角点「古和口」（546.13㍍）

国見鉱山（藤坂山）が遠望された。

再び車道に出ると、程なく鉄塔下に着いた。南を眺めると古和の海が、あたかも山中の湖のように小さく見えた。「大河内山東峰430m」のプレートが釘で立木に打ちつけてある。あちこちで見かけるプレートだが、やめてほしいものだ。標高も間違えている。

ヒカゲノカズラが胞子嚢をつんつんのばしている鉄塔施設の金網沿いを北側に回ると、かなたに局ヶ岳が見えてきた。さらに西側に進むと、麓を流れる大内山川の対岸から以前登った行者山も姿を現した。

展望の良いピークを後にして大河内山の三角点に向かう。車道を時計回りに5分くだった左手に取付点を見つけ、暗い林内を上って行くと、10分足らずで三等三角点「古和口」（546・1㍍）に着いた。残念ながら、こちらは展望無し。小休止後、三角点に別れを告げる。

往路を戻り、帰りは古和峠までのんびり車道をくだっていった。ヤブウツギの紅い花や、つるつるしたキブシの実が目を楽しませてくれた。

車で42号線に出ると、折しも鮎の解禁日だったので、大内山川に大勢の釣人がくり出していた。

（平成20年6月1日歩く）

＜コースタイム＞

古和峠（30分）通信施設（15分）三角点（20分）古和峠

＜地形図＞2万5千＝古和浦

大紀町木屋と南伊勢町河内の間には藤坂峠（古掛峠、しま峠・512㍍）がある。7月6日、今度はこの峠まで車で上り、国見岩方面に向かって夏の花を探しながら歩いた。

国道42号線から分かれて七保大橋を渡り、南下。右に七保峠道を見送り、続いて左に藤越（七河峠、一ノ瀬峠、鷲越）への分岐をも過ぎると、いよいよ藤坂峠への道に達する。この起点には国見岩への案内板が立ち、分岐を右に1・6㌔進むと、登山口となる林道ブリコ谷線起点がある。国見岩へは、そ

こから2㌔登るようだ。ちなみに、ブリコ谷に入らず車道を先に進むと、阿曽峠を越えて阿曽に至る。

さて、藤坂峠道は上まで5㌔。（車で20分）の舗装路であるが、古和峠まで以上に緊張を強いられる険路だった。狭い所は幅員2㍍、ヘアピンカーブはコースどりを誤り、一度で曲がれない。常に対向車を想定しながらゆっくり進んだ。

東方にアンテナピークが迫ってくるのを確認して心を落ち着かせると、やがて開けた峠に飛び出した。「NTT藤坂無線中継所」の看板や栃谷山（点名・町奈、784・40㍍）（駅迦ヶ所、二束山）への指導標が立つ。

右（西）に少し入ると、鎖の先には広い林道がのび、左には地形図で三角点方向に向かうダート道が続いている。こちらにも車止ゲートが見えていたので車を降りる。国見山三重鉱山の立入禁止表示があるが、休日で人影も無く物音もしなかったので歩かせてもらうことにした。

稜線から南側を見下ろすと、海岸線は見えたが霞んでいた。山に向かって雲が湧き上がっているのがわかる。道々至る所にオニルリソウが咲いている。お目当ての一つだったヒオウギは所どころに株が見られたが花には早過ぎた。咲いた個体が見られたのは、イワガラミ・クマノミズキ・ヤマボウシ・ホタルブクロ・ハンカイソウなどで、花はまだ先だがアケボノソウ・ヤマトリカブトも多かった。

国見鉱山線から滝原浅間山を望む

石灰岩地形の稜線からは、海辺までのびている鉱山鉄道が俯瞰できる。国見鉱山の採掘場を見渡す断崖上に立つと、広い採掘現場の向かい側に国見岩が、その右遠くには滝原浅間山が見えていた。まだ昼前だったが、前日の午後に雷雨があったことも考え、無理をせず引き返すことにした。

峠と鉱山間の往き帰りに四度鹿を見かけた。最後に出会った子鹿は人が珍しかったのか、不思議そうな目でしばらくこちらをうかがっていた。親鹿の呼ぶ声が、幾度となく聞こえてきた。

7月21日、再び藤坂峠を訪れた。前日梅雨明けが発表されたにもかかわらず曇天だったが、降水確率10%に期待して、前回はパスした三角点山頂を目指した。日差しのないぶん暑くなかったが、カメラのレンズが曇るほど湿度が高かった。

ヒオウギの花

オニルリソウはほぼ咲き終わっていたが、ハンカイソウは前と違う個体が満開だった。さてヒオウギはと探していくと、ちょうど咲き始めており、結局四花見ることができた。どれも一番花だった。以前七洞岳（点名・白岩峰、778・28㍍）で見たぬば玉（射手玉、烏羽玉）と呼ばれるつややかな種を思い出した。林縁には、小さな青い実を付けたオモトもよく育っていた。

前回は横を通り過ぎた石灰岩のガレ上に茂る林内に入ると、あっけなく三等三角点「藤坂山」（683・95㍍）が見つかった。愛山会の割れたプレートには「国見山」と記されていた。ここも展望は良くなかった。

峠への帰途、今回も鹿に出会った。また、アサギマダラの飛ぶ姿も見ることができた。気象台の雨量測定ロボットの横で大きな豆果をぶら下げたジャケツイバラを触っていたら、思わぬ方向からやって来た地元の人が「サルカキイバラやなあ」と、声を掛けてくれた。峠から国見岩方向にのびていた林道のことを尋ねてみると、「行けるとこまで行ってみな」と言われる。

車に乗り、今回は鎖が垂れて通れるようになっていた道を行く。広くて新しいわりにやたら落石の多い道だった。1㌔進んだ所でまた別の人に会ったので話を聞くと、「すぐに行き止まりになる」とのこと。

国見岩へ登るのも、下からでなければだめなようだった。

（平成20年7月6日、21日歩く）

⋀コースタイム⋁
藤坂峠（40分）国見鉱山（5分）三角点（20分）藤坂峠
⋀地形図⋁2万5千＝古和浦
＊平日は、国見山三重鉱山（☎0596・76・0005）に連絡をとったほうがよいと思われる。

紀行

晩秋の開田高原を訪ね

御嶽山を歩く

中澤 與司博

木曾

11月最初の週末、木曾開田高原と御嶽山を訪れた。御嶽山へは二度目で、一度目はもう30年以上も昔のことである。冬山初体験が無謀にも厳冬期の3000㍍級。濁河温泉で露営し、木曾側の黒沢まで2泊で歩いたのだった。寒くて寝れなかったこと、サイの河原の異様な光景、コバルトブルーの二ノ池、2日目の夜は中の湯のバス待合室での露営を余儀なくされたことなどを思い出していた。当時はもちろんロープウェイなど文明の利器は無かった。

今回は、前々日深夜に奈良井宿に入り、昨日は開田高原でのんびりと過ごした。カラマツ・イロハカエデ・シラカバ等が秋色に染まり、すばらしい光景がどこまでも広がっていた。

開田高原、地蔵峠（1400㍍）付近より御嶽山

地蔵峠・九蔵峠の展望地からは、眼下に広がる開田高原と霊峰御嶽山の三段壁の紅葉を満喫した。

開田高原の秋のすばらしさは驚見リーダーより聞いていて、チャンスがあれば晩秋に訪ねてみたいと秘かに狙っていた。

今日もいい天気、奈良井宿の民宿から開田高原を横切り一軒宿の鹿の湯前を過ぎ、御嶽ロープウェイ駅（1570㍍）へ紅黄葉のトンネルを移動すること1時間弱、広大な駐車場のロープウェイ駅に着いた。同行者は新ハイメンバーの森女史。

早速準備を整え、10人前後の後ろに並び9時の運転開始を待った。ロープウェイでの快適な空中散歩は、高度が上がるに従い大展望が広がりだした。木曾谷を挟んで中央アルプスが眼前に横たわり、遠く富士も友情出演か、北東には八ヶ岳、北に大きな山塊の乗鞍岳、その奥に穂高の吊り尾根もはっきりと見渡せる。どの山岳も横一線に雪を頂き秋日に眩しく輝いていた。「やっぱり雪があると迫力が違うわ」と彼女。

やがて山頂駅（2130㍍）に到着。左側に黒沢コースが山頂へと続いている。木の階段から始まり、程なく行場山荘脇を通過。4～5名のグループと単独者以外登山者は見当たらない。

シラビソ林の香りを胸いっぱいに急勾配を亀足状態で女人堂（八合目）の分岐点へとたどり着いた。ここでひと息入れ、三ノ池へと歩き出した。

周りは森林限界で高木が姿を消してハイマツ・ナナカマドが目立ちだし、展望も良くなってきた。足下では大きな霜柱がザクザクと音を立てながら崩れてゆく。その音以外は何も聞こえない。

2600㍍付近ではほぼ水平に道が続いていて雪も見るようになった。この冬初めて踏む雪の感触を確かめながら「白銀の世界になるのもそう遠くはないだろう」と思いを巡らせていた。

山腹を廻り込むと、稜線付近より一気に谷底に落ち込んでいる崩壊地に出た。谷の水量は多くはなく随所に氷が

張っている。飛び石伝いに渡り終え、日当たりの良い岩場で休憩。遠く中アの脊梁を遠望しつつ、山上の風の様子をあれこれ想像していた。

ここより三ノ池までは急傾斜で、岩場には丸太の歩道が取り付けられている。慎重に通過し岩を乗り越すと、山頂付近に雪を頂いた裏燕岳が正面にデーンと居座って、槍の穂先も見えたかな。稜線には三ノ池の避難小屋と真新しいトイレ棟が見えた。安堵感からか、気がつけばコースから外れて岩場を直登していて、ハイマツ帯を歩く羽目に（岩のマーキングに気づかず）なった。三ノ池は半分以上が結氷していて、その脇の溶岩がゴロゴロした所で昼食タイム。

外輪を4～5名の登山者が歩いている。見上げると飛騨頂上の岩壁が大きく被ってきている。主稜線までは岩とハイマツ帯の急登。雪で白く化粧していて、吹き溜まりに足を突っ込みながらも稜線に立った。

サイの河原を横断して二ノ池へと行くが、人影は見られない。二ノ池の大きな山小屋が過ぎし日の賑わいを懐かしんでいるように思われた。積雪もそれ程多くはなく、サイの河原の所どころに石塔も確認できた。

剣ヶ峰が大きく見られるが許された時間は少なく、ロープウェイ駅への下山コースに取り付いた。道は山腹を廻り込んで覚明堂上部の急斜面に続いている。吹き溜まりを慎重にくだると、人の声が聞こえてきた。同世代のご夫婦で、「ここまでしか来れなかった」と、雪の上で休んでいるところであった。ハイマツ帯の岩には雷鳥が二羽。すっかり冬毛姿になり中アを眺めているのだろうか、人間にはまったく無関心であった。

急傾斜のゴロゴロ道が次第にゆるくなってきたので振り返ると、御嶽の荒々しい山肌が不気味に威圧感をもってそびえている。大きな黒い溶岩脇を過ぎると霊場の金剛堂に着き、正面に暮れゆく中アを眺めながら女人堂へと急いだ。

女人堂からは登りに利用した道で、樹林帯の急斜面を小1時間もくだれば駅に着くだろう。あたりは暗くなり始めている。焦りもあって何とかロープウェイの最終便に間に合った。ロープウェイに乗り込んでからは、暮れゆく開田高原を眺めながら安堵と満足感に浸っていた。

木曾温泉の湯に慌ただしく浸かり、権兵衛峠経由で帰路に着いた。休憩らしい休憩もせずに歩き通した晩秋の有意義な1日であった。

（平成19年11月4日歩く）

Aコースタイム▽
奈良井宿（車50分）御嶽ロープウェイ駅（20分）山上（飯森）駅（1時間5分）女人堂（1時間40分）三ノ池（50分）二ノ池（40分）覚明堂（30分）女人堂（40分）山上（飯森）駅（20分）駐車場

△地形図▽
2万5千＝御岳高原・御嶽山

冬春号
パンフレット完成

冬から春の山旅を満載
暖かい南の島から北海道まで、豊富なツアー設定。初心者の方からの雪山ツアーも開催。海外ツアーもあります。

お電話
おはがき
FAX・HP
にて！

送料・本体無料
ご請求ください！

弊社カタログ
ラインナップ

総合カタログ

山歩き教室

見ごたえたっぷり国内・海外・自然観察の旅500コース以上を掲載した総合カタログ。これから登山やハイキングを始める方、初心者の方のためのための、山歩き教室カタログ。それ以外にも、世界遺産やバードウォッチングのツアーもあります！
お気軽にお問い合せください。

大好きな山の中で働いてみませんか！
社員・添乗員・ガイドを募集中
ご興味のある方は下記までご連絡ください。

アミューズトラベル株式会社
国土交通大臣登録旅行業第1366号
日本旅行業協会正会員　ボンド保証会員
〒530－0001 大阪市北区梅田1－11－4 大阪駅前第4ビル7階
☎06－6456－3366
ホームページ http://www.amuse-travel.co.jp
E-mail:antosa@amuse-travel.co.jp
FAX 06-6456-3377

標高による山の紹介シリーズ43

松田敏男

新ハイ関西103号

標高△△03mの山

櫛形山（裸山）（2003㍍ 南アルプス）
小熊山（1303㍍ 北アルプス）
滝山（703㍍ 比良）
上河内岳（2803㍍ 南アルプス）

櫛形山

前日は夜叉神峠へ行き、間近に白峰三山の雄大な姿を眺め、カラマツを前景に配した絵を描いた。夜叉神峠小屋に泊まる予定だったが、閉まっていたので甲府駅前で泊まった。

その日は展望の良い帯那山へ行くことに決めバスの時刻を控えておいたが、いざ朝になると、あまりの快晴に加え疲れもすっかり取れていたので、櫛形山に変更した。

山腹には積雪が50㌢位あり、トレースが無くて少し迷ったが、裸山の山頂に登れた。

白峰三山だけでなく、甲斐駒ヶ岳にアサヨ峰、悪沢岳・赤石岳・聖岳などの南アルプス連峰の壮大な眺めがあった。特に悪沢岳は北面がまともに見える角度なので、真白の雪の姿が神々しいまでに美しかった。

（昭和60年4月1日歩く）

⋀コースタイム⋁
県民の森（3時間30分）櫛形山（裸山）（2時間30分）県民の森

⋀地形図⋁
2万5千＝小笠原・夜叉神峠

小熊山

田淵行男写真集「山の季節」という本は大学生の頃に買った愛蔵書だ。鹿島槍ヶ岳と爺ヶ岳の姿が、憧憬に満ちた眼差しで撮られた写真が何点も載っている。その頃から撮影地の小熊山という名前は知っていて、行きたい気持ちをずっと持ち続けていた。

鹿島槍ヶ岳と爺ヶ岳が最も美しい姿で眺められる季節、それは残雪期だろうと目星をつけ、3月末にテントを持って出かけた。

小熊山の山頂に着いた時は、あいにくの曇り空で、目的の山は見えなかった。山頂は冬枯れの木々が混んでいるので北面を少しくだった。標高1230㍍あたりだと思うが小広くて木がまばらな雪面に出た。スコップで雪を水平にならし、地図と磁石を頼りに鹿島槍ヶ岳の位置の見当をつけて、テントを張った。

翌朝は晴天だった。テントを開けると真正面に鹿島槍ヶ岳が、その右に五竜岳、身を乗り出せば左に爺ヶ岳が見渡せた。

テント場より（左から）爺ヶ岳、鹿島槍ヶ岳、五竜岳を望む

（平成15年3月30～31日歩く）

⋀コースタイム⋁
JR信濃木崎駅（5時間30分）小熊山経由、北緯面標高1230㍍付近（4時間30分）信濃木崎駅

⋀地形図⋁2万5千＝大町

滝山

1994年の秋にJR北小松駅から単独で直接滝山へ登るコースを歩いている。静かな道だったと記憶しているので、1999年6月20日、また単独で同じ道を歩こうと思った。ところが、566㍍峰の牛山へのびている尾根にのるあたりで東へ入ってしまって迷った。前方に樹木の切れ目が見えるので道の無い所を進んで行くと池があった。思いもしない所で遭遇したものだから、泥水の池ではあるけれどとても新鮮な気持ちで写真を撮ったりした。そして翌月の18日には会の友人を案内した。わずか1ヶ月後だったのに梅雨の影響なのか水の量が格段に増え、新緑の草が萌えだしていた。

（平成11年6月20日歩く）

⋀コースタイム⋁
JR北小松駅（2時間30分）牛山西方の池（2時間）北小松駅

⋀地図⋁昭文社＝「比良山系」

上河内岳

上河内岳は聖平小屋から茶臼小屋へ歩いた時、縦走路から少し外れて山頂を往復した。霧が発生していたので展望が無いのはわかっていたけれども。

ここから撮られた写真を見ると、聖岳・赤石岳・悪沢岳の3000㍍峰三山が等間隔に並んでいて、それも縦気味に見えるから非常に重厚な眺めのようだ。そんな圧倒的な風景が見たかった。

（平成3年8月8日歩く）

⋀コースタイム⋁
聖平小屋（8時間）上河内岳経由茶臼小屋

⋀地図⋁昭文社＝「塩見・赤石・聖岳」

随想 山のエッセイ

山中越

編本　逸雄

山中越は古くは志賀山越といった。京都の北白川から比叡山南端の大津市滋賀里にかつて所在した崇福寺への山越道であり、近江へ出る道であった。

崇福寺は志賀寺、志賀山寺ともいい、初見は『万葉集』に「穂積皇子に勅して近江の志賀山寺に遣はしし時に、但馬皇女の作りませる御歌一首　後れ居て恋ひつつあらずは追ひ及かむ道の阿廻に標結へわが背」（巻二・一一五）とある。後に残されて恋い苦しんでいないで、追いかけて行こう。だから道の曲がり角にしるしをつけておいてほしい。わが背の子よ、という意である。

志賀山寺は、『扶桑略記』に「天智七年（668）正月十七日、近江国志賀郡に崇福寺を建つ」と載る。『元亨釈書』『三宝絵』などには、天智帝が夢告で、近江大津京の西北の山を訪ねると「仙雲（仙人）の窟」があるとわかり、崇福寺を立てたと伝える。

『続日本紀』天平一二年（740）一二月条に「乙丑（一三日）。幸二志賀山寺一礼仏」と載り、貴顕が度々参詣している。

寛喜二年（1230）園城寺（三井寺）の所属となり、『拾芥抄』諸寺部には、延喜一七年（798）に定めた10の官寺、10大寺の一つとして「崇福寺、三井寺末」と載る。火災や地震のたびに再建されながらも衰亡の途をたどり、平安末期には山門（延暦寺）と寺門（園城寺）の争いに巻き込まれ壊滅の状態になっていた。現在、志賀山越の滋賀里にくだる手前の山腹に宝塔の礎石を残す。

志賀山越は、京から近江に越える登降の少ない最短の山越道として利用され、また、歌にもよく詠まれた。

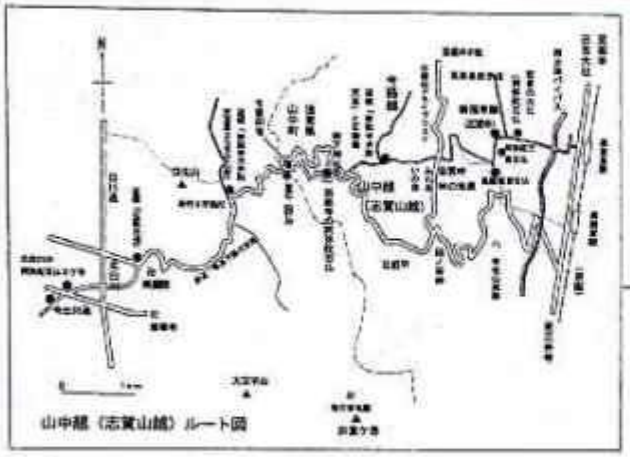
「志賀の山ごえに女の多くあへりけるによみてつかはしける　紀貫之　桙弓巻の山辺をこえくれば道もさりあへず花ぞ散りける」（『古今集』巻二・春歌下、一一五番）

「志賀の山ごえにてよめる　春道列樹　山がはに風のかけたるしがらみは流れもあへぬもみぢなりけり」（同・巻五・秋歌下、三〇三番）

「志賀の山ごえにてよめる　紀秋岑　白雪の所もわかずふりしけば巌にも咲く花とこそみれ」（同・巻六・冬歌、三二四番）

貫之の歌などは虚構性を指摘され、志賀山越の実際の風景だと断言できるかわからないが、四季の花や紅葉、雪などと詠みあわされる歌枕となった。

崇福寺参詣の道は、その盛衰とも関連して本路・支路・新路などの変遷があった。中近世には、志賀山越は山中越・志賀越・今路（道）越・白川越などとも呼ばれた。また、「志賀山　叡山の南より三井寺辺に至るまでの総名」（『近江輿地志略』）だったので、東山北部から近江へ通じる山越の道々は古くから〝志賀山越〟とも称されている。


中越
（志賀山越）
白川通
山中町
大文字山
浄土寺
銀閣寺
哲学の道
南禅寺
法然院
真如堂
吉田山
京都大学
東大路通
出町柳
鴨川
賀茂川
北白川
白川通
東山通
三条通
四条通
五条通
六条通
七条通
八条通
九条通
十条通
東海道本線
京阪本線
近鉄京都線
叡山電鉄
JR奈良線
JR東海道新幹線
JR東海道本線
JR山陰本線
JR湖西線
JR琵琶湖

重なる。車が頻繁に行き交うなか大津市山中町に至る。

山中町西端のバイパスを京都方面へ50㍍程戻り、左側のガードレールが切れた所で石段を下りると川沿いの旧道に出る。すぐ重石（かさねじ）に出会う（左京区北白川重石町）。二つ重ねた巨岩（高さ350㌢、花崗岩）の上部に磨崖仏四体（いずれも高さ約30㌢）を彫る。西面に地蔵坐像、南面に阿弥陀如来坐像とさらに釈迦如来と薬師如来の坐像が追刻されている。風化がみられるが小仏ながら重厚感があり、地蔵と阿弥陀は鎌倉末期の作、あと二体は室町時代の作という。

西面と南面の岩角が、昔から京・近江の境界とされ、現在も府県境になっている。かつては境界石の役割を果たした。『近江輿地志略』『山城名勝志』に「（山中）村の西路の傍に二仏を彫りたる大石あり。是山城近江の国堺なり」と載るが、他の二仏は触れていない。この磨崖仏は「競合地蔵」と呼ばれ、昔、京都と近江の人が石の取い合いをして争ったあげく、京都側に地蔵、近江側に阿弥陀を刻み境界とすることで決着がついたという伝承がある。旧道を隔てた向かいの道標（高さ165㌢）にも、「従是西南山城国、従是東北近江国」と刻む。

また戻って、バイパスと旧山中越道との分岐点に大宝篋印塔（高さ304㌢、花崗岩）が立つ。西面に銘文がある。鳩居堂六代当主熊谷蓮心（直恭）の子、七代目直孝が亡父の追慕と旅する牛馬の道中安全を願って文久元年（1864）一一月に建立した。鳩居堂は寛文三年（1663）創業の薫香・墨筆を商いとする京の老舗である。蓮心は山中越の急坂に喘ぐ牛馬を哀れんで、水飲場や厩舎を設置したという。直孝（1817～75）は幕末の勤皇家として知られ、軍資金を供出したり、岩倉具視の依頼で徳川方の動静を探るなどと奔走した人物である。

しばらくして、西教寺門前に阿弥陀如来坐像（高さ250㌢、花崗岩）がある。舟形光背を負い定印を結んだ厚肉彫りの大石仏だ、請花、敷茄子、反花を完備した蓮華座まで一石で彫成している。大津市教育委員会の説明板（1992）によると、北白川石仏と滋賀里の石仏（志賀の大仏）と合わせて、旅人たちの一里塚とされ、「鎌倉時代末期の作風をよく伝えている。京都白川派の石工の作」とある。しかし、光背上方の先端が突き出ている形などから室町時代の作である。

その先の樹下神社一の鳥居近くの井戸は、歌枕で有名な「山の井」（山中の湧き水）と伝わる。「志賀の山ごえにて、石井のもとにて物いひける人の別れける折りによめる　紀貫之　むすぶ手のしづくに濁る山の井のあかでも人に別れぬるかな」（『古今集』・巻八・離別歌、四〇四番）と詠われた。

山中町東はずれから再び

バイパスに出合う。比叡平、田ノ谷峠を経て大津市錦織町に出るこの道は、永禄一三年（1570）以降開かれた新路である。『多聞院日記』永禄一三年三月二〇日条に「今度今道北ワラ（逢）坂南ニ道ヲトメテ、信長ノ内森ノ山左衛門城用害、此フモトニ新路ヲコシラヘ、余ノ道ハ堅トトムル…新路ノ大ナル坂ヲ越ヘテ山中ト云所ヲ通リ、白川ヘ出、東山ノ辺ヲ通ル」と記す。信長の家臣森可成（森蘭丸の父）が宇佐山城を築く際、山中から田ノ谷峠東側の城に通じる道を新設し、他の道の通行を禁じた。宇佐山城は元亀二年（1571）廃城となる。「安土海道」とも称されたのはこの頃だろう。その後「新路白河越」（『近江国滋賀郡誌』四巻）として生活道路に利用されていた。昭和九年（1934）経路を一部変更して自動車道が山中―錦織間に開通した。

山中町集落東端でバイパスを渡り、東北へ細流に沿って志賀山越の旧道に入る。約1㌔弱の所で分岐点。石燈籠二基と道標「左むどうじ道　弁財天不動明王　是より三十六丁（4㌔）」（高さ240㌢、文政一二年（1829）建立）。「弁財天女」と刻んだ石燈籠は嘉永元年（1848）、富田屋善助ら5名の寄進である。

左手（北側）の無動寺道は今路越である。右手の道をとり鼠谷川の細流沿いに山間に入って行く。砂防用の穴あきダムが建設されて、かつての景観が一変した。大津市立「ふれあいの森」（山上町長寺山）内を一路登って行き、縦走する比叡山ドライブウェイの下をくぐる。トンネルを出ると、琵琶湖の湖面を遠望する。右手傍らの祠に頭部の欠けた「峠の地蔵」（残部像高20㌢）がある。昔、茶店があったが、盗賊に襲われ一家皆殺しに遭い、その菩提を弔ったと伝わる。印相が薬壺印なので薬師如来坐像である。

東麓の流れとともにくだると、右手（南東方）からの道と出合う。馬頭観音の案内板が立つ。かつて道標「右大津三井寺　左坂本からさき」（天保七年（1836）建立）があった。南志賀へ出る古道だったが、馬頭観音を祀った所で山道は寸断されている。

右手に阿弥陀三尊仏を刻んだ大岩（高さ130㌢、幅200㌢、室町期作）を見て、比叡山頂から下りてくる東海自然歩道との合流点に着く。二つの道に挟まれた山腹の平坦部が崇福寺跡（1941年国指定史跡）である。

大津市教育委員会の説明板によると、三つの尾根に礎石・建物跡があるが、この南の尾根の部分は桓武天皇が建立した梵釈寺跡という。

さらに少し進むと、川岸に設けた堂に安置された「志賀の大仏」（高さ350㌢、室町期作）を見る。「見世の大ぼとけ」の愛称がある厚肉彫りの阿弥陀如来坐像。志賀山越の出口である。

紀行

山行記録・角兵衛沢から

鋸岳

山田明男

南アルプス

鋸岳は南アルプスにある二百名山の一つで、その名からしても険しさが想像できる山だが、資料は多くない。手元の資料を読んでも実際はよくわからないから、ルートとタイムだけを参考に行くことにした。希望者は多かったが、余り多くても困るから10人で行った。天候が心配だったし残雪も心配したが、3000㍍級の東駒ヶ岳と仙丈岳には残っていたが、鋸岳に雪は無かった。

本当は、北岳・間ノ岳・東駒ヶ岳・仙丈岳を先に行っているはずだったのだが、一昨年も昨年も今年も予定日が雨等で消化できず、鋸岳が先になってしまった。他の人は何度も来たことがあると言う伊那市の戸台だが、私たち夫婦は初めてだった。

鋸岳山頂

昔の長谷村の入口になり、戸台の少し先に登山基地がある。南アルプス林道を走るバスの駐車場とお風呂、宿泊施設も整っている。戸台川沿いのルートにあった昔の小屋などはほとんど荒廃しているが、バスが北沢峠へ登山者を運ぶようになったから仕方がない。

鋸岳の登山口は、車を停めた所から5㌔程奥にある。駐車場は河原にあり増水すれば流される所なので、自己責任で停める旨の注意書きがあった。登山標識には東駒ヶ岳・仙丈岳方面とあったが、東駒の意味がその時はよくわからなかったが、帰ってからわかった。東駒ヶ岳とは西の木曽駒ヶ岳に対する「甲斐駒ヶ岳」のことだが、伊那谷の

人達には甲斐の国の駒ヶ岳ではなく「伊那谷の駒ヶ岳」なのだと実感した。

登山口は角兵衛沢の合流点で、テントは熊穴沢の合流点がよいと事前に仕入れていてそのつもりで歩く。テント、他の食料・寝袋・マット・水を運ぶのは疲れる。歩き始めが14時30分で一番暑い時で快晴で気温も上がっている。30分程で一度休むが、河原歩きは疲れるし、川の水も多く一度は靴を脱いで渡らざるをえなかった。ピンクのテープがあって、ルートははっきりしているが、表示板が無いのでどこを歩いているかわかりにくい。

歩き始めから2時間30分になるので、まだかと思って地図を見るがどの谷かもわかりにくく、角兵衛沢と思った谷が実際は熊穴沢だった。熊穴沢を示す腐りかけの表示板が見つかり、表示板の先の右岸側にピンクのテープがあって山に入っている道がわかった。そこが熊穴沢の合流点で、左岸側にわりと平らな場所があり、テントを張ることにした。時間は歩き始めから3時間を経過した17時30分だった。

角兵衛沢の入口は右岸側にケルンが詰まれた場所で、左岸からもよくわかるものの、川を渡れる場所ではなかった。流れが急で水深も深かった。テントを張った場所は、下山に熊穴沢を使えばちょうど真正面になる所だ。食事を済ませてすぐに寝たが、快晴で東駒ヶ岳もよく見えていたし、20時になってもまだ薄暗いだけで、真っ暗にはならなかった。

夜中に雷の光で目が覚めた。フラッシュのように何度も何度も光る。音は聞こえないので随分遠くのようだったし、雨が来なくてよかった。

翌日、4時に起きて準備をした。まずは川を渡り角兵衛沢の登山口に向かう。昨日よりも水は引いていて靴を脱がなくても渡れた。ちょうど5時から登り始めたが、表示は無い。

ケルンの詰まれた場所でテープが山に入っていて、踏跡もはっきりしていた。道に入ってすぐに「鋸岳一合目へ」

角兵衛沢

の赤い札があった。長谷村のもので、その後「大岩小屋へ」「角兵衛沢峠へ」「角兵衛沢のコルへ」の札が出てきたが、コルにも表示は無かったし、水場は太い木に「水」の大きな文字が見られただけだった。

1時間で林を抜け、1時間かけてザレ場を登る。水場に水があるかどうかわからなかったから大量の水を持ってきたが、水があるとわかっていたら半分でよかった。水場は100㍍以上の巨大な垂直に切り立った岩場の真下にあった。岩の間から流れ出る水はまさに「南アルプス天然水」だ。冷たくて美味しい。2㍍汲んでまたリュックが重くなった。水場からコルまで2時間で大半は右岸側を登る。一部林に入るがほとんどは小さな岩のザレ場だった。

水場付近から花も多く見られるようになったが、初見の花は名前がわからない。きれいだったのはタカネハンショウズル。ハクサンイチゲやクロユリも咲いていて、角兵衛沢のコル、2600㍍付近になるとお花畑になった。イワカガミも高山タイプのコイワカガミと言われるものだ。サクラソウの残花もあったがシナノコザクラか?、ツマトリソウ・ゴゼンタチバナもきれいに見られた。

コルから左手の三角点には行かず、第一高点（山頂2685㍍）に向かう。急な尾根道で右は切り立った崖だった。20分で100㍍程登って頂上に立った。登山口から4時間30分、コースタイム通りだった。

仙丈岳は登りの途中からずっと見えていて、コルの先からは間ノ岳・北岳・東駒ヶ岳も山頂手前になってやっと見えた。北東側はガスって全く見晴らしは無い。長野側はよく見えて塩見岳も遠望できた。山頂には三角点は無い。御料局の標柱があったが三角点ではなく境界杭だった。南から人の声が聞こえたので見ると、二つ先のピークのその向こうV字のコルに2人いて、こちらへ移動中らしかった。

記念写真を撮り、早めの食事も済ませた後はどうするかと、Tさんが先を見に行かれ、行けると言われたが、第二高点経由で中ノ川乗越までのコースタイムは2時間30分だから時間切れと判断し、戻ることにした。

下りは急斜面だから気をつけながらゆっくりと歩いた。それでも登高時間の6割でくだれた。水場の上で今日初めて人と出会う。同じくらいの年の男女で朝から出てきたそうで、東駒までの縦走だとか。テントは無くてツェルトのみ持参だそうだ。

北沢峠に向かうバスからよく見えるらしい「鹿ノ窓」は、第二高点と第一高点の間にあり、見てみたいが、同じルートでの帰路はもう行かないだろう。

水場で再度冷たい水を汲んだ人がいた。ここから下まで林のなかのルートを大半の人がくだり、私は最後まで朝と同じルートをくだった。斜面が急で足の指先が痛くなってきたのでゆっくりとくだり、一番最後になってしまったが無事に戻れた。

登りは4時間30分で下りは3時間だった。川を渡ってテントを撤収し、13時過ぎに重い荷物を担いで歩き始め、車に戻った。帰りも2時間30分かかり疲りでもけっこう暑かった。

かみさんが用意していたビールはまだ冷たく、皆さん気持ちよく飲まれていた。私は運転するのでコーラを飲んだ。

風呂に入ってからの帰路、伊那市内では土砂降りの激しい雨に遭遇した。山で雨に遭わずによかった。

（平成20年7月5～6日歩く）

鋸山頂から東駒ヶ岳を望む

△コースタイム▽

戸台駐車場（3時間）熊穴沢出合（5分）角兵衛沢登山口（2時間）水場（2時間）角兵衛沢のコル（20分）第一高点・山頂（15分）角兵衛沢のコル（50分）水場（1時間40分）登山口（5分）熊穴沢出合（2時間30分）戸台駐車場

△地形図▽2万5千＝甲斐駒ヶ岳

新刊

ゴローのヒマラヤ回想録

岩坪五郎著 二四四頁 四六判 二一〇〇円

今西錦司、桑原武夫、梅棹忠夫らの先輩の薫陶で数々のヒマラヤ行を体験して、気がつけば京都学(岳)派のリーダーにもなった著者が、先輩と仲間たちのこと、大学や学問のあり方、そして山行の興趣な体験などを軽妙な筆致で回顧する。

新刊

ロープレスキュー技術

（日本ロープレスキュー協会代表）堤 信夫 著

A5判 二一六頁 二一〇〇円

救助・防災関係者、登山家、アウトドア関係者のほか、仕事でロープを使う人たちのために、現場で使えるレスキュー技術を、図解イラスト（七〇〇余点）入りで、その手順や方法を詳しく解説。救助・防災の必携書！

★表示の価格は5%税込です

ナカニシヤ出版

http://www.nakanishiya.co.jp/

京都市左京区一乗寺木ノ本町15

tel 075-723-0111 〒606-8161

随想 山のエッセイ

再び「女人禁制」考

薮木　伸人

本誌101号の「せせらぎ」欄で村田代表が大峰山行に触れられた文を読み、現状を噛いてみえると知って再び筆を執ることにした。未だ「女人、来んせい」と迎えてくれる状況ではないようだ。

「女人禁制」とは、同じ信仰をもって修行する男女が同じ場で修行するのを許されない状態である。

こう書くと、男子校と女子校、男子修道院と女子修道院の区別のようだが、実はそうではない。

決定的に違うのは、「女人禁制」の場合、女性を不浄な者、穢れた者として宗教儀礼の場から締め出すという「性差別」が根底にあることだ。「女性がいたら修行ができない」という、男性の弱さから女性を貶めることによって禁欲を達成しようとしたのである。女性がそばにいるいないにかかわらず達成できてこそ真の修行ではないか。

女人結界石の残る母公堂は、役小角が母と別れた場所だという。峰を巡る修行中には、死・受胎・母体内での成長・誕生を暗示する儀礼がある。これは、母と決別することで「再生」という意味づけをし、成人男性になる修行（通過儀礼）なのだ。「女性が一緒だと修行できない」というが、どうやら教理的には「男性の母との決別（自立）」が本来的意味らしい。

従って、「女人禁制」は宗教などではなく単なる差別事例にすぎないことは明白である。

一方、長年の「伝統」だから開放すべきでないとの意見もある（立看板にもそう書いてある）。だが、これは理屈の後付けだ。

かの柳田國男によれば、「伝統」の意味を知らず言葉に眩惑され有り難がって使っていることになろう。彼の考えを借りれば、「伝統」とは、当然善いものでなくてはならない。今、大勢が認めていても将来認められるとは限らない。その時その時に出来るものであり、極めて漠然たるものである。

富士講の元祖とされる食行身禄は、「生命全て陰陽、雌雄の和合から生まれる。陽を尊び陰を卑しむは誤まりで、女性を穢れた者とするのも間違いである。富士を信仰する者までその説に従っているなら改めなさい」との教えを広めたとされている。

その後大政奉還の2ヶ月前に、英公使夫妻の富士登山があり、さらに1872年には、太政官が女人結界廃止を正式に全国に通達した（太政官布告九八号）。つまり法的には、136年前の時点で「女人禁制」は撤廃されて然るべきだったのである。

触穢思想（ケガレが移るという妄執）から、かつて聖地が穢れるとして女性を排除し、修行の妨げになるとして女性を締め出してきた比叡山・高野山などは、次々に開放されてきた。開放したことで何か不都合があっただろうか。不都合どころか、過去に禁制を解いた多くの霊山は、そのことでむしろ栄えている。

今も「禁制」に固執している大峰山の様は、開国に悩んでいた140年前の江戸幕府を思い起こさせる。当時、開国の流れは必至であった。人権の世紀と呼ばれる21世紀に入って早8年。何故大峰山のみが流れから取り残されているのだろうか。未だに穢れ意識を利用して女性を差別し排除しているのだろうか。私はそのことに悲哀を禁じ得ない。

2004年、大峰山を含む「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界文化遺産に登録された。その折、「女人禁制」の区域を含んだままの登録に反対する市民運動があったが、これはまさに差別撤廃運動である。

山上ヶ岳の東西10㌔、南北24㌔は、今も「女人禁制」とされている。しかしこれは「女性差別撤廃条約」違反、「男女共同参画社会基本法」違反、「奈良県男女共同参画推進条例」違反、「道路法」違反（禁制区域内に公道が含まれているため）である。

女性だけを登らせない側の方が、どう考えても間違っているのだ。

（参考文献）
源淳子編『「女人禁制」Q&A』（2005年刊）

紀行

道迷い山行

太尾・白谷峠よいずこ！

長谷川　雅　俊

鈴鹿

もう何年も前、茶屋川の焼野にある広大な空地から太尾尾根を登った。下山は白谷峠から古語録谷へ下りたのだが、途中でコンパスの指し示す方向と全く違ってきて、あわや遭難？　とパニックになったのだが、ひたすら南に向かって尾根や谷を横切り、林道にたどり着いてホッとした。その後すぐに行ってなぜ迷ったのか確認すべきだったのだが、ズルズルと今日に到ってしまった。

一つの疑問は、下りた峠が本当に白谷峠であったのか？　自分ではわからない。又川谷から白谷を登れば間違いなく白谷峠にたどり着けるのだが、それでは楽しみが少ない。やはり古語録谷側からということで、取付点を地図で調べた。

三重県側から石榑峠を越えて西にくだって行くと、金池谷橋と馬場谷橋がある。その間の標高600㍍位の所から古語録谷に下りれば、堰堤のすぐ上流に名前はわからないが、白谷峠へ突き上げる谷があるはずである。

10月28日、何とか都合をつけて、自宅を21時7分出発。石榑峠（689㍍）に22時37分、高度計を690㍍にセットし、22時43分、高度595㍍でそれらしい左コーナーがあったので車を停めて眠る。

初めての谷なので、ゆっくり起きて6時13分出発。薄暗いなか、ヘッドライトを点けてやぶを掻き分けて尾根を谷へ下りる。しばらくすると、右手から古いが広くて平らな道が合流する。たぶん堰堤をつくった時の道だと思い、これで間違いないと確信する。

古語録谷に着くと、目の前の対岸に小さな支谷があったが、何と堰堤は谷の上部にあった。ライトは不要になってきたので消して、堰堤の上部を探すがそれらしい谷は見かけないので、その小さな谷に入ることにした。

白谷峠への谷は0度に登っている。この谷は70度であったが、すぐに0度の方向へ進むであろうと思って入渓する。時間は6時33分であった。10分程で二俣（570㍍）になり、左354度、右56度なので右へ行く。しばらくすると、谷は左へ曲がっていくのでこれで大丈夫と確信する。585㍍で左岸に炭焼きの釜跡を見る。コンパスをチェックすると39度へ向かっているようだ。6時53分、600㍍で5㍍程の滝が現れたので左岸を高捲くと、またもや釜跡がある。

少し登ってから、コンパスをチェックすると、82度になっていたのでいくら何でもこれはおかしいと感じて、二俣まで戻ることに決定。なかなか雰囲気のよい谷だったので名残り惜しかったのだが、やむをえない。下り始めてから、やはり違う道をということで、左岸尾根から下りた。

二俣から今度は左352度（先程は354度であったが、当然測るたびに、これくらいの誤差はある）へ入って行くが、すぐに左岸は植林帯となり、580㍍で両岸共に植林となる。7時35分、605㍍で右岸植林帯のなかに大きな釜跡があった。こういう釜跡があると心が和むのだが、先程の右俣に比べると、この谷は植林のせいか何となく潤いがないというか、趣に欠けるきらいがある。10分程で左岸が崩壊して白い崖になっており、右岸に釜跡あり。

7時48分、620㍍にてこの谷初めての滝（2㍍）が現れたので、左岸を高捲くとすぐに次の滝（2㍍）が現れ右岸を高捲く。このあたりからは、谷全体がやぶに覆われ歩行困難になってきた。仕方なく左手斜面を攀じ登り右岸尾根に這い上がると、二次林が伐採されて、植林の若木がエンビのパイプで保護されている。たぶん鹿の食害を防ぐためであろう。

8時6分、680㍍で尾根芯にのってようやく道を間違えたことを確信する。竜ヶ岳が26度、石榑峠南のNTTアンテナが135度の所にある。地形図で確認すると、白谷峠への本来登る予定だった谷の一本東の谷を登り、そのまま右岸尾根にたどり着いたようだ。幸いだったのは、天気が良くて四周を見渡せるのと、植林されているということは、ここに人が入っている証拠なのでとりあえず安心感がある。

ここまで来た以上、いまさら引き返すのもアホラシイのでそのまま竜ヶ岳へ行くことにする。樹林の尾根芯を32度へ直登して行くと、720㍍で牡鹿が小生の前を横切っていった。

8時50分、高度875㍍で尾根は無くなり、草原状の広い斜面となる。振り返れば、NTTアンテナが162度に見えた。また205度には一夜を明かした小生の愛車が豆粒のように樹林越しに見られた。

そのままっすぐ32度へノンビリと鼻歌を歌いながら登り、9時22分、太尾から来る尾根にのった。高度計は1015㍍だったので、だいたいこんなものである。ここからは、常緑樹のやぶが所どころにあるので、右や左に避

けながら迂回し、9時33分、石榑峠からの登山道に合流。竜ヶ岳（1099・6㍍）のピークに9時41分到着。高度計は1085㍍だったので1100㍍に修正する。

山頂にはすでに一組のご夫婦がみえたので挨拶をしてお話する。今年リタイアされた方で、それまでは転勤しながら日本全国の山を2人で歩かれたそうで、興味深くお聞きする。小生はおそらく死ぬまで鈴鹿以外の山は経験することがないと思うのでうらやましく感じた。

10時26分、頂上を後にして白谷峠を確認するため、太尾尾根へ下りることにする。コンパスを280度に合わせて962㍍ピークを目指して斜面を下りる。上天気で見晴らしも良いので、静ヶ岳から西にのびる尾根や大井谷をじっくり観察しながら歩いていると、1015㍍でリンドウが二輪咲いていた。今日初めての花に思わず見とれるが、美しさに抗し切れずザックを降ろして写真を撮る。30分程してからコンパスで確認しながら早足にくだって行く、無心になって……。

樹林帯に入ると黄葉し始めた二次林の雰囲気の良い景色にうっとりしながら歩いていたのだが、ふと我に返って高度計をチェックすると、何ともう860㍍まで下りてしまっていた。コンパスをチェックすると、知らないうちに尾根に沿ってずれていて330度に向かっている。このままでは大井谷に下りてしまう。

う～ん、どうしよう。登り返すのも大儀だし、大井谷から又川谷を経て茶屋川林道に出て、八風街道の600㍍地点の車まで歩くのは距離があり過ぎるし……。

結局、しんどいけれども一番無難な962㍍ピークまで戻ることに決定。高度差は100㍍だから時間で15分かな？　たった15分だけだが疲れた身体にはムチャクチャきつい。何でこんなことせんならんねん、と、己のアホさ加減に腹を立てながら登る。いつもなら下山している頃なのに、登るという行為は精神的にもかなりきつい。明るいうちに下山できるのかという不安におののきながら急ぎ足で登るので、息が切れて心臓がバクバクしてきた。

11時38分、何とか962㍍ピークにたどり着けた。高度計は945㍍だったので960㍍に修正する。ちょうど、草原から樹林帯が始まる所であった。早速、コンパスで進むべき方角をチェックすると、242度の方角で、尾根芯ではなく左手の斜面であった。つい無意識のうちに尾根芯を下りてしまったようである、トホホ。

今度は気を引き締めて、コンパスを腕に置いて、常にチェックしながら下りる。小生の場合、無意識のうちに右へずれる癖があるので、左手を意識しながら下りる。850㍍において、斜面が尾根状になりかけたが、右手にも尾根が出てきたので、そちらへトラバースして尾根の向きをチェックする。左の尾根よりこちらの方がコンパスの指し示す方角に近いので、この尾根を下りることにする。

11時56分、765㍍で前方が樹林帯越しに明るくなってきて、抜けると崩壊したガレ場に到着した。地形図をチェックすると、ガレは750㍍から下にあるので高度計は正確である。少し右寄りなので、左へ15㍍程トラバースするがけっこう怖かった。さて、この大ガレをどう下りるかである。登りでは怖いなあと思う程度だが、下りでは目線が高く周りを広く見渡せるせいなのか、かなりの恐怖感がある。白い砂ガレのやせ尾根の両側は急斜面で、落ちたらどこまでも転がっていきそうな雰囲気……。最初、尾根芯を歩きかけたが、すぐに足がすくんで引き返す。どうするか思案する。もし落ちるとしたら、左右どちらに落ちたら助かる確率が高いのか考える。アホはアホなりに。結局、左斜面（南側）を尾根芯から1㍍位下にくだってトラバースすることにした。

白谷峠東方の砂ガレのやせ尾根

何とかやせ尾根を下り切って樹林帯に入りホッとして振り返る。う～ん、ヤッパここは登りが無難だよね。その後もしばらくやせ尾根が続いたが、灌木の間を抜けるので全く問題なく歩け、最低鞍部から少し登って行くと、左にピークを見ながら、12時24分、白谷峠に到着した（実はこのやせ尾根の最低鞍部こそが白谷峠だったのだが、おバカな私は全く気づいていない！）。

この白谷峠（当然ニセ白谷峠）は小生のお気に入りの場所である。南側は深く谷が落ちているが、北側は樹林帯でなだらかな台地状になっており、まさしくコバと呼ぶにふさわしく、いにしえの杣人達が一本とったであろう様子がうかがえる。アンパンを食べながら10分程休憩をとり、12時35分、出発する。

高度計は760㍍だったので、700㍍（当然高度は760㍍で正しいのに、まだ気づかない……）に修正する。コンパスは170度に合わせる。前回、途中でチェックしたらコンパスの針が全く違う方角を指したので、気をつけて下りることにする。下り始めると、すぐに水流が現れる。谷は以前より荒れているようで非常にやぶっぽい。杣人が最近入ったのか、木が切り倒されている所が何箇所かあった。650㍍であまりのやぶに閉口して左岸尾根にのると、杣道があったのでそれを使って下りて行くが、突然立派な角を生やした鹿が左から右へ尾根を横切っていっ

た。

コンパスを確認すると、246度を指す……やはりおかしい。いまさら峠まで戻っても仕方ないのでそのまま進むが、尾根もやぶで身動きできなくなってきた。再び谷の方へ下りて行くと、斜面に柚道が現れたのでそれを歩く。谷はまだかなり下の方であった。またコンパスをチェックすると、196度へ向かっていた。

13時2分、高度535㍍で植林帯が広がり、このあたりはかなり手入れされているようである。13時5分、高度500㍍で古語録谷に出る。500㍍ということは当然この谷は白谷峠へ抜ける谷ではない。ということは、小生がすっかり思い込んでいた場所は、白谷峠ではなかったのである。白谷峠への谷はもっと上流にあるのである。う～ん、そんな峠と呼べる場所なんてあったっけ？　これでは夜も寝られなくなる。

この古語録谷のすぐ上流には大きな堰堤があった。対岸に渡ると大きな釜跡があり。八風街道に向かって急な尾根を攀じ登る。右手には深い谷が落ちてきている。程なく国道に出たので歩き出すと、数分で橋に出会ったので名前を確認すると、「滝谷橋」となっていた。え～…う～ん、するとさっきの谷はクラ谷……愕然としながら、「馬場谷橋」を過ぎて13時44分、駐車地に到着。

己のあまりのアホさ加減に、これでは家に帰ることもできない。こんなこと、山仲間に知られたらまたバカにされるだろうなあ……。掲示板に書き込む意欲も萎えてきちゃった。

とりあえずもう一度白谷峠への谷を確認しようと、古語録谷へ下りる。朝、薄暗いなかで見た風景と同じである。対岸に今朝入った小さな谷があり、すぐ上流に堰堤がある。今度はそのまま古語録谷を下降する。10分程で谷は開け白砂の明るい谷となる。目の前に大堰堤が現れ、右岸に今朝入渓した谷に比べるとかなり大きな谷が合流していた。

ひょっとすると、この谷かも知れないと思って入って行く。入口は伏流であったが、すぐに水が流れ出してきた。程なく大きく左に曲がり、目の前に6㍍位の滝が現れた。結構な水量である。この滝の左岸を高捲き、続いて3㍍の滝を右岸から高捲く。5分程で左岸に大きな釜跡あり。

時間も差し迫ってきたので、今日はここまでにして引き返すことにしたが、間違いなくこの谷が白谷峠への谷であろうと確信する。

（平成18年10月29日歩く）

＜参考タイム＞

国道駐車地（595㍍）6・13―古語録谷6・33―二俣6・42―5㍍滝6・53―戻って二俣左へ7・27―2㍍滝7・48―右岸尾根7・58―太尾尾根からの道と合流9・22―登山道9・33―竜ヶ岳9・41―962㍍ピーク11・38―ガレ場11・56―（ニセ）白谷峠12・24―古語録谷13・05―駐車地13・44

1週間を待ち切れずに、11月3日の金曜日、祭日なので今度こそリベンジと2日夜にまたやってきた。23時30分、先日より50㍍位下の駐車地に車を停めて眠ったが、夜中にポリさんに起こされてしまった。

寝不足状態でノンビリと5時58分、出発。すぐに前回下調べした時と同じ大きな堰堤の上に出る。右岸に渡って支谷に入ると、左にゆるくカーブして進み、右へ90度曲がると行き止まり。右手はかなりの高さの崖状になっており、大雨でも降ればさぞかし立派な滝が出現するのではなかろうかと思われる。左手には6㍍あまりの滝があり、左岸を高捲くとまた3㍍滝がある。前回は右岸を捲いたが今日は左岸を高捲いた。

6時13分、580㍍で左岸の大きな窯跡を通り過ぎて、330度から61度へと谷に沿って右折する。595㍍において左292度から支谷が合流するが主流を32度へ登って行く。続いて支谷が306度から合流するが、左岸はなぜかそこだけ白いガレ状になっている。ここだけ谷芯の黄葉がひときわ美しく、支谷出合上部、本流右岸に立派な窯跡があった。

6時43分、595㍍（先程と高度が同じだが、これ位は高度計の誤差範囲である）にて初めて左岸62度から支谷が合流する。本流に負けないほどなだらかであるが立派な谷であった。そのまま332度へ進むと、15㍍以上も落差のある大きな滝が現れ右岸を高捲く。7時00分、615㍍で2㍍滝の左岸を高捲く。

左岸に薄っすらと柚道が認められて、鹿の毛があたりに散乱していた。柚道はすぐに右岸に渡り、道なりにまっすぐ登って行く。7時06分、640㍍では右手斜面がガレており、左手は緩斜面の二次林で鈴鹿ならではの芬囲気の良い所であった。

突然、イノシシが現れ、谷芯を駆け上がっていく。じっと見送っていたのだが、お尻をモコモコさせて走り去る姿は、なぜか妙に色っぽくてチョッピリ興奮してしまった（オスかも知れないのに、お前は変態か！　と、言われそうだが、メスだとしても……）。

ここでは左右から谷が合流する。右からの谷にはかなりの水流があり、本流は伏流でガレ谷となったが、再び水

白谷峠への谷の二番目の3段滝

流が現れる。今度は左岸からキジ（ヤマドリ?）が飛び立っていった。

7時15分、谷が二俣となる。左294度、右358度で地形図を確認すると353度であったので右へ進むと、鞍部が見えるようになった。7時19分、665㍍で306度より支谷が合流し、ここまでは左岸に続いていた杣道が右岸に渡る。鹿の鳴き声が近くで聞こえる。

7時23分、695㍍でついに長年探し求めていた白谷峠に辿り着いた!。

で、唖然とする。エッー、ウッソー、ここが!?……確かにそこはやせ尾根の最低鞍部で両側は谷である。東には見慣れた白ガレも見える。ガーン……わたしバカよねえー、オバカさんよねえ……と、頭の中を歌が駆け巡る。こんな所では仙人が休むことができないではないか、こんな風情の無い所を白谷峠と呼ぶなんて許せない、自分のアホさ加減を否定する言葉が浮かんでくる……グスン。自分でいくら否定しようともここが実際の白谷峠なのである。高度も正しい。今まで自分が勝手に峠だと思っていた所は、雰囲気も良く、コバとして最高のシチュエーションを誇っているのだが、白谷峠ではなかったのである。

今になって地形図を見ながらよく考えてみると、ニセ白谷峠では、高度も高くていつも修正していた。地形図上では存在しない南東の760㍍＋αのピークを疑問に思わなかった。峠といいながら、北側には谷が無かったのに不思議に思わなかった。いかに地形図をいい加減に見ていたかが如実にうかがえる。ああ、こんな恥ずかしいことが世間に知られたらどうしよう……全くの自信喪失である。と、もろもろのことが頭の中を巡っている間に、7時43分、750㍍にてニセ白谷峠に到着。腰を下ろして、改めて地形図を眺める。770㍍の太尾ピークと南東の760㍍＋αのピークの間がまさしくここなのである。小生が仙人だったら、絶対にここで一本とるけどなあ～、と、惨めったらしく思いを引きずりながら周りのすばらしい黄葉を愛でる。

冷静になって考えてみれば、生きるのに精一杯のいにしえの仙人達にとっては、峠の景色なんかはどうでもよく、いかに早く仕事を済ませてお金をたくさん稼ぐかが大切なことなのであった。

現在の、のんべんだらりんとした社会に生まれて、こうしてすばらしい鈴鹿の山にいだかれている自分が、いかに幸せかということをヒシヒシと感じ、先程の絶望感は次第に消えていった。

7時56分、太尾のピークへと274

度に歩き始める。このあたりは広くなだらかな地形で二重山稜になっている。二次林の黄葉も本当にすばらしく、所どころにある緑のシダ?の葉はよいアクセントとなり、錦秋のじゅうたんの上を歩き廻るのは最高の贅沢である。小生にとってはベルシャじゅうたんなどクソクラエである（持っていないので、何とも言えないが）。

太尾の長池

太尾ピークを通り過ぎて、おなじみの池を訪問しようと291度へくだって行くと、ケモノの足跡が右から左へと続いていた。しばらくして、ヌタバが現れ、すぐに見覚えのある太尾の長池に到着。現実的な女なら、「こんなのただの水溜りジャン」と言いかねないが、そんなアホは相手にせず、夢多きわたくしは幽玄の世界に浸ることにする。

いくばくかの夢の中の彷徨から、ふと目覚めたので帰り支度をする。8時30分、出発、100度へ登り返す。8時55分、ニセ白谷峠を通過。下山は例のいわくつきの760㍍＋αのピークから尾根をくだることにする。砂場を抜けて、9時02分、ピークに到着。高度計は760㍍であった。ザックを降ろし、オニギリを一個食べて、10分後に出発。151度へ尾根をくだる。9時20分、695㍍で尾根が右手に分れたが、まっすぐに151度へ進む。9時22分、685㍍においてピークがあり、174度へくだって行く。松と二次林が混ざった尾根で、左手でガサゴソとケモノの走り去る音が聞こえた。9時34分、580㍍になって、尾根両側から沢音が聞こえだした。

9時37分、555㍍でついに古語録谷に着陸、やはり朝登った谷の右岸尾根であった。

駐車地に9時52分、無事到着。良いこと悪いことを織り交ぜた複雑な心境の山歩きとなってしまった。しかし白谷峠がどこか、はっきりと認識できたので良しとしよう!

（平成18年11月3日歩く）

△コースタイム▽

駐車地（590㍍）5・58—古語録谷6・03—6㍍滝6・08—15㍍滝6・48—二俣7・15—白谷峠7・23—ニセ白谷峠7・43—太尾8・00—太尾の長池8・24—ニセ白谷峠8・55—760㍍＋αピーク9・02—尾根分岐9・20—古語録谷9・37—駐車地9・52

△地形図▽2万5千＝竜ヶ岳

紀行

連載

三角点を訪ねてシリーズ ㊺

和泉葛城山から大石ヶ峰

紀泉

礒部 純

昨夜まで激しく降っていた雨も上がり、大阪府の降水確率は10%と低くなり、雨の心配は全く無さそう。近鉄大久保駅発7時過ぎの橿原神宮前行きの急行に乗り、乗り継いで古市駅に着いた時には太陽が顔を出していた。富田林駅へは8時45分に到着。

京都方面からの電車には2人の登山姿の人を見ただけだったのに、富田林駅へ着くとゾロゾロとザックを背負った人が大勢降りてくる。この日の西上リーダーの例会への参加者は32人だった。

二台の小型バスに分乗して9時5分に出発する。国道を西南へ走って、岸和田から牛滝山貝塚線に入り、最奥の牛滝山バス停へ向かう。この広場で準備・点呼後、10時の出発となった。

和泉葛城山一等三角点

バス停からまっすぐ南へ進めば、役ノ行者の開基で後に弘法大師も修行した寺といわれる、真言宗と天台宗の両方に属する古刹、本尊に火威徳明王・不動明王・阿弥陀如来の三尊を有する牛滝寺とも呼ばれる大威徳寺がある。

カエデやイチョウが色づく頃には紅葉の名所として知られているが、紅

はすでに終わりに近づき、名所見物でもない。広場の南から斜面に刻まれた道へ取り付いた。

登り始めてすぐ赤い前だれをした地蔵尊を見ると、間もなく車道へ出た。車道を左手へ行き、道が大きく右から左手へ曲がる先が、丁石地蔵道と呼ばれる古くから和泉葛城山へ登る参拝道の入口であった。

道標から山道に入ると杉木立の登り。傾斜が急な所には道に横木が置かれ、階段状になっていて歩幅に合わない階段を登るのが煩わしい。思った以上に足が疲れるうえに息も上がり、フウフウ、ハアハア。ジグザグに切られた道を登って行くと、その名の通り一丁毎に赤い前だれの高さ50㌢程の地蔵尊が立っている。同じような杉林の登りが続き地形図を見ながらどこまで登ったのかを確認して行くと、地形図にある破線の尾根ではなく、それより一つ北の尾根を登っていると頭の中のGPSは告げている。

浅い谷の上部を歩いて尾根を右手へ捲いて行くと、左手には深い谷が現れた。十六丁と刻まれた地蔵尊を見て左へ捲くと、左の斜面は若い檜の植林に変わる。これまで光が遮られた林の登りから開放され、明るい斜面を横切る道となった。その先、十八丁の地蔵尊を見て間もなく尾根にのり、林の間から右手には岸和田の平野を、左手には紀泉の山々を垣間見る。そこから急な尾根をひと登りすると車道に飛び出した。二十一丁と刻まれた地蔵尊が立っている。

舗装された車道を南へゆるく登って行く。道脇には殻を星のように広げている物が落ちていた。初めて見るもので、それがツチグリと呼ぶキノコだと教えていただき、こんな形のキノコがあるのかとビックリ。右手に塔原へくだる車道を分けて登って行くと、右手の草むらのアチコチに茶色のキノコが生えている。食べられそうなシメジに見えるキノコだが、名前はわからない。リーダーは手に取って見ていたが、「毒キノコかも知れない」と人に言われると、食べられないのは残念だという顔をして、恨めしそうに見ていた。

その先で、車道がゆるく左手へ廻り込んだ所から、「山頂」と書かれた標識に従い、両側に柵のある山道へ入る。いったん尾根を北へ向かい、スイッチバックして滑りやすい板張りの道を登ると、右手の北斜面は下ザサに覆われたブナの林。

このブナ林は、標高800㍍程の低い山地にブナの林を形成している南限とも言われ、大正12年に国がこのブナ林を天然記念物に指定した。大正7年の調査で8㌶のブナ林に、直径30㌢以上のブナが1800本もあったが、現在ではその10分の1の180本にまで減っているという。これは、行政がこの山系の開発に力を入れ、山頂まで自動車道を開設したことと無関係ではないとされている。このブナ林を見て、北の葛城神社の階段下まで来ると、サブリーダーが倒木の陰にこの時期珍しく花を付けているカンアオイを見つける。見ただけでは普通のカンアオイの

葛城神社への石段（大阪側）

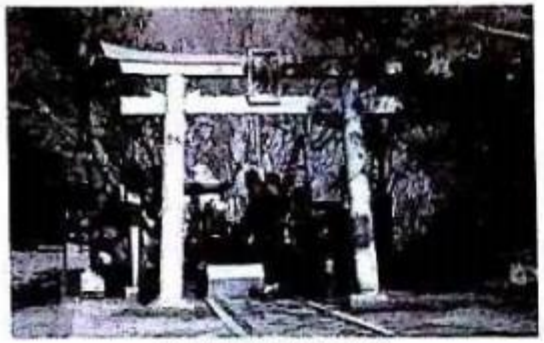
ように見えるが、これは「イズミカンアオイ」と呼ばれる種類だと言う。

石の階段を上ると葛城神社がある。参拝後、神社横を通って南側へ廻ると、葛城神社と背中合わせの紀州側に八大龍王社が鎮座している。「八大龍王」と掲げられた鳥居奥には、文化財指定建造物に指定されている石祠があり、その横には龍王神社の石碑が立っている。鳥居の横には「法華経授栄無学人記品第九経塚」と書かれた標柱が立っている。

『葛城雑記』によると、葛城修験では、葛城山系から二十八ヶ所を選び、ここに法華経二十八品を配し、各宿にそれぞれ写経を埋納して経塚を立て、修験者の行場や遥拝所とその付近に祈拝所・宿所を設けたとされている。そのうちの葛城二十八宿の第九之地の行場がここであることから第九経塚と書かれたものだという。

葛城山は、今から1300余年前、一言主命が山頂を極められて以来、雄略天皇が狩猟されて、その後、役ノ小角が山頂を修験道場として修行をし、神示により霊術を体得したと伝えられる場所である。それ以来、葛城修験道場として信仰を集めてきた山であり、伝説によれば、享保年間（1716～1736）に、岸和田藩主岡部氏が狩りに来られた時、白鹿を射殺するとたちまち雷が鳴り豪雨となった。そこで

藩主は巨石で社殿を造り、葛城一言主命八大龍王を祀って山を鎮めたと伝えられている。それ以来、今でも干ばつの時には雨乞いを祈願して、松明を点じ、神霊にすがると霊験があると伝えられ、塔原・相川・河合・葛原・木積の五ヶ荘の御社とされ、特に雨の神として信仰されている。



八大龍王社鳥居（和歌山側）

そんな神社に、北と南からとそれぞれに参拝して西へ向かい、展望台の下で展望を眺めながらの昼食となった。時間は12時15分までの35分間で、西上リーダーの昼食時間にしては幾分長め。日の光を浴びながら眼前に広がる紀ノ川の流れる粉河を見て、微かに輪郭を描く飯盛山と竜門山を見ながらの食事。ただ残念なことは、天気が良ければ見えるはずの淡路島や高野山、大峰の山々までは見えなかった。

リーダーが、いつも用意してくれる人からコーヒーを貰って飲み終わると、昼食タイムは終了。時間通り12時15分に出発し、下にある車道へ下りて東へ歩く。龍王神社下の広場でトイレへ寄った後、車道が右手へ曲がる所からアンテナ塔へ向かう山道へ入る。三つ目のアンテナ塔の手前から、大阪と和歌山の府県境の尾根道へ踏み込む。杉林へ入ってゆるく登ったピークが南葛城山と呼ばれ、一等三角点が埋められている。

「20年も前に来た時には、山頂に櫛が立っていただけ」と、関西の一等三角点を全部踏んだという長老が話していたが、今見ると、山頂には巨大なアンテナ塔が立っていて、その西の狭い広場に一等三角点が埋められている。

標高は865・7㍍で、点名は「葛城山」。標石は西を除いた三つの保護石に囲まれ、シッカリと磁石の南を向いている。この三角点へ登る山行は、これまで新ハイの例会で何度か企画されていたが、参加する機会がなく、今回初めて訪れたものだ。

広場が狭かったので、三回に分けて集合写真を撮った後、杉の林に覆われた府県境尾根を東へ歩く。道は尾根の北端を通ることがあるが、林の隙間から時折吹き抜けてくる風が冷たい。ゆるくアップダウンを繰り返し、小さなピークを三つ越えて、山腹を右へ捲く道を見て、斜面を登ると標高点860㍍の大石ヶ峰。杉の林に囲まれた暗い山頂で展望は全く無い。あたりの木には山名標示板が煩わしいほどに掛けられている。

大石ヶ峰の山名標識

大石ヶ峰から方向を東南へとり、急斜面をくだる。道跡はえぐれていて滑りやすく落ち葉に覆われた斜面をくだって行く。急斜面を下りると勾配もゆるくなり、広い尾根になったが、あたりは相変わらず杉や檜の林が続いている。日が出ているとわかっていても、薄暗くて気分の晴れない林中の歩きだった。やがてピークとは思えない標高点739㍍のコブを越え、ゆるく登った平坦なピークを小堂峰とリーダーが言っていたが、山名標識はどこにも無い。このピークも杉の林に囲まれて、展望は全く無かった。

山頂から右手へくだり、前方にコンター（約）700㍍の山を見る鞍部からバックするように右手の斜面に付けられた道を斜めにくだって行くと、しっかりした道に下りた。

この道が近畿自然歩道だと聞いた。近畿自然歩道とは、環境庁が、基点を福井県敦賀市松島町、終点を兵庫県南淡町鳥取とし、平成9年10月に福井県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県の二府七県に跨がる全長3258㌔に及ぶ自然歩道を計画・整備したものを指す。名前は聞いているが歩いたことはない。

この道を東へくだって行くと、昔の鍋谷峠（なべだに）を越える紀州街道。今では車道（国道480号線）になっている鍋谷峠南（和歌山県側）のヘアピンカーブの下に出た。そこには二つの記念碑が立てられており、右手の下津川環状線道路完成記念碑はわかったが、山中一見頌徳碑と彫られている碑は何の碑かわからなかった。

時間は13時55分。予定より1時間早かったが、この日の山行はここで終了。ここで待っていたバスに乗って富田林駅へと向かった。

この日のリーダーは、どうしたわけかバスの中で好きなアルコールもあまり受けず、富田林で忘年会をすることもなく、西上さんの本年最後の例会は解散となった。

（平成18年12月15日歩く）

△コースタイム▽

牛滝山バス停（1時間10分）車道（20分）ブナ林散策路入口（10分）葛城神社（5分）展望台（15分）葛城山一等三角点（25分）大石ヶ峰（20分）小堂峰（20分）鍋谷峠下の車道

△地形図▽2万5千㍍内畑

歩き遍路の独り言

― あなたも歩ける四国遍路みち　1200キロ ―

A5判・176頁　定価1200円（税込）

後藤　典重 著

私は「歩き遍路」を十八年五月に終えて、歩いた遍路旅の喜怒哀楽など数多い思い出を日記風にまとめました。歩かなければわからない四国の素晴らしさ、地元の人々との関わりを通した体験・体得を多くの方々にお伝えできればと思い、出版しました。

四国には、人との会話、心のふれあいなど、今忘れられている心暖まる貴重な何かが残っており、豊かな心の旅になりました。

第1回	おへんろを知る歩行行の苦悩旅	（第1～23番）
第2回	土佐人の心に触れた喜びの旅	（第24～36番）
第3回	猛暑を体験し、克服した努力の旅	（第37～40番）
第4回	紅葉を楽しみ、歩行行を見直す旅	（第41～59番）
第5回	早春に芽吹きを求めた触れ合い旅	（第60～83番）
第6回	新緑と花の美しい結願・感激の旅	（第84～88番と高野山）

その他、歩くための参考になる四国遍路の歴史・コースタイム（距離・時間・歩数等）・宿泊先一覧（住所・電話）など必要な資料を掲載。
「遍路とは」「お接待とは」何か？と疑問に思う方、また四国遍路に興味のある方、そして「歩き遍路」を実行したい方は、是非お読みください。
四国遍路を発心されるよう念願しています。

●本誌の振替でのご注文は送料当社負担

新ハイキング関西

〒610－0121 城陽市寺田大峠10－10　TeL／Fax 0774－53－2754

韓国登山シリーズ ⑥

連載

ソウル郊外

水落山（スラクサン）

ヨシミスポーツ　吉見英樹

韓国

水落山はソウルの北方北漢山（プカンサン）の東にあり、市内中心部から簡単に登れる便利な山である。ソウル近郊の山では北漢山・道峰山（ドボンサン）が有名で多くの人はこれらの山を勧める。見た目がとても派手でダイナミックな岩稜が露出し、難しそうに見えるからである。

水落山は二山に比べて見た目にあまり派手さがないので、第三の山として認識されているようだ。しかし、頂上往復のコースなら、私は水落山が一番と思っている。その理由は、難所～平坦～難所が次から次へと展開して変化に富み、気がつけば下山しているというぐらい、登山者を飽きさせないからである。

危険でハラハラドキドキの山だと言うが、実際はそれほど危険ではない。「安全が十分確保されている危険に見える山？」、変な表現だが、正しく感想を述べるならこのようになる。

水落山

山容

標高638㍍、遠くから見ると、白い岩肌が山頂部に見える程度で一見平凡な山であるが、「能ある鷹は爪を隠す」のたとえ通り、外観からは登山道のおもしろさがわからないところがミソだ。

山頂部への岩場歩きの連続は最高にスリリングで楽しい。また下山路の渓谷も、ソウルの山の中では深くて水量も豊富で美しい。渓谷遊山だけでもけっこう堪能できるほどでお勧めだ。

山麓の渓谷沿いには韓国式川床食堂が軒を連ねていて、下山後の反省会も場所探しに心配ない。

水落山付近略図

交通アクセス

ソウルの中心地より約1時間のスラク山駅で下車する。ここより直接登山開始できる。

山をぐるっと廻って地下鉄マンウォル寺駅から乗車すると、夕刻にはソウルの中心地まで帰ることができる。

コース

9月初旬、大阪は34度でとても暑く、早くソウルに着いて涼しい空気を吸いたいと思っていた。

仁川（インチョン）空港に着くと、期待を裏切らず24度位でとても涼しい。早速605番市内行きバスに乗り、その日の宿泊先東大門運動場に到着。知人に会って、まず最初の用事を済ませた。

翌日の登山日は7時起床。日帰り登山なので簡単に用意を済ませ、宿の外に出ると空は肯く澄み渡っている。韓国の9月は、もう秋の気配が忍びより筋雲が刷毛ではいたように空に浮かんでいる。朝の気温は18度と長袖を着ないと寒くてとてもいられない。天気は快晴、抜群の登山日和である。

気をよくして地下鉄に乗り込むと、登山者と思われる人が大勢乗っている。この路線には白雲台（ペクウンデ）・道峰山など有名な山が揃っているので、多くて当然だが、車内はほとんど登山者でぎゅうぎゅう詰め、ラッシュアワーのような状態だ。時間はまだ7時30分、山の特性（余裕で日帰り）からして、今から12時位までの電車は登山客で埋め尽くされるはずである。

小1時間走り、スラク山駅で下車する。地上に出ると、バスで来た人も混じって登山者が絶え間なく歩いているので、登山路を尋ねる必要など全くない。入山口の森林公園までは舗装道路であるが、両側には登山専門店が軒を連ね、路上には屋台が所狭しと山の上へとのびている。

人気のある山だなあと感じるのだが、その屋台は食べ物・飲み物だけではなく、登山用品や登山服まで売っている。屋台型の登山用品店を見るのは初めての経験である。私は早速、昼食用にキ

ンパブ（韓国風海苔巻き）を三本（一本170円程）とキュウリ三本セット、下山後用にメクチュ（麦酒）を買った。

しばらく歩き汗ばむ頃、道は渓流に合流し、本格的な山道になっていった。渓流には川床居酒屋が店を構えている。渓流は次第に渓谷らしくなり、水量や谷の深さが迫力を増してくる。郊外の山としては十分すぎる迫力だといってよいだろう。

分岐点（安心尾根コースと岩稜ドキドキコース）にさしかかる頃には、もうすでに下山者の波が押し寄せている。決してオーバーでなく本当に波のように見えるのだ。もちろん私はドキドキコースを選択。分岐点からは急勾配になる。道は渓谷から離れて尾根歩きになっていく。

岩道をホイホイと歩を進びながら20分も登ると、広く切り開いた場所に多くの人が集会をしている。話を聞いていると、会社ハイキング・学校クラス会など多様多様な若者が山中でミーティングをしているようである。装備は登山専用具でしっかり決めていて、決して適当な普段着では集まっていない。私の目はアメリカ漫画のごとく、ジャーンとレジ状態になってしまった。韓国アウトドア業界を誤ましく感じたのだ。

もうひと頑張りすると峠に到着。ここは最初の展望地点でドボン区の街並みを見下ろすポイントになる。風がよく通るナイスポイントで休憩するには最適である。何とアイスクリーム売りが、下からアイスクリームとドライアイス、特性耐熱ドラム缶まで運び上げて行商しているではないか！　いくらタフガイでも片道2時間はかかるはずだ。そういえば、デカイ荷物を持ったアジョシ（おニイさん）が登ったりくだったりしているのを見ていた。この商売は人気があり、子供から大人まで大変よく売れている。これだけの労力をかけても、売価は150円、絶対に安いのだ。

さあ、ひと休みの後、峠から頂上までのこの山の核心部へGO！だ。峠からは、核心部（ワイヤー付き岩稜急勾配

アタッテ痛い靴の巾広げします
JR天王寺駅
OUTDOORS SHOP
とスキーのヨシミ
YOSHIMI スポーツ
〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町4-70
http://www.yoshimisports.co.jp/
TEL. 06-6772-7231
毎週木曜日定休

ドキドキ）コースと、子供も歩ける（安全木の階段）コースに分かれる。私はもちろんドキドキコースだ。勾配は50度位、ピカピカ岩に二本のブッというワイヤーが垂れ下がり、これをつかみながらドンドンと登って行くのだ。途中で離せば、天国行きは確実。

50～100ｍ程毎に狭い休憩場が設けられ、休憩場でひと息入れながら一本また一本と上がって行くのだ。これが何本もあり、40分位シゴかれるのだから堪らない。頂上に着く頃には腕が震えて、息はゼイゼイ、心臓はバコバコ状態だ。

やっとこさ頂上に到着すると、これまた人だらけ、頂上へは四方向から登れるので、それは賑やかだ。危なそうな岩に登りヤッホーする人、写真を撮る人、食事する人……など、見ていてとても楽しい。頂上からの展望は360度遮るもの全く無し、すばらしいの一語だ。道峰山・北漢山、ソウルの街並み、私は時間を忘れ、1時間は韓国人達といっしょに、山頂で楽しませてもらった。

下山コースは北へ道をとり、スラク山荘横を通り西へ。ソクリン寺への渓谷へ抜けるコースをとった。山荘周辺の平坦な林のなかは、昼食を兼ねての山上大反省会集団でいっぱいだ。

いくら安全コースがあるとはいえ、その飲みっぷり食べっぷりはやはりわが日本では考えられない光景である。日本でこれをやると大ヒンシュクだろうが、この国ではごく当たり前。私はこの韓国登山スタイルの大らかさが本当に好きで性分に合っている。これを見たさに韓国の山に行くといっても、よいぐらいである。

安全コースは多少鎖場はあるが、危険箇所には階段が設けられていて、問題なく下山できる。50分程で渓谷と合流し、道は歩きやすくなり、緊張がとれてくる。渓谷はなかなかに深くて真っ白い花崗岩が連続し、とてもソウル市にあるとは思えないほど美しいのである。登山者は靴を脱いだり、渓流に足を浸したり、岩の上で日光浴したりして、ノンビリとやっている。歩行速度が早く休憩が長いのも韓国スタイルといってよいだろう。

流れがゆるやかになるソクリン寺からは、川床居酒屋街が軒を連ねだし、どの店も反省会や二次会で大賑わっている。

国道を渡り、田んぼの中をしばらく歩くと、地下鉄マンウォル寺駅に着く。

ホームのイスにゆっくりと腰を掛け、今日1日を振り返った。見上げると後ろに水落山、正面には道峰山の白い巨大岩壁が夕陽でオレンジ色に輝き、とても美しい。

帰路、車窓から見る夕焼けの山々はビールの味をさらに旨くしてくれた。

▲コースタイム▼

地下鉄スラク山駅（40分）森林公園入口（1時間15分）分岐（40分）峠尾根（40分）水落山（20分）スラク山荘分岐（50分）渓谷合流点（30分）ソクリン寺（50分）地下鉄マンウォル寺駅

文学歴史探訪ハイク ㉓

平城の飛鳥（瑜伽山）を訪ねて

松永恵一

平城の飛鳥

大伴坂上郎女の元興寺の里を詠む歌

古郷の飛鳥はあれど青丹よし
奈良の明日香を見らくしよしも

『万葉集』巻六―九九二

古いゆかりのある飛鳥の里も良いけれど、今が盛りの奈良の明日香を見るのはすばらしいものです。

元興寺は蘇我馬子が建てた飛鳥の法興寺を平城京遷都後に移転したもの。そのため奈良の明日香（平城の飛鳥）と呼ばれた。

都が遷ると、住む人々はもちろん、寺院も神社も引っ越しする。飛鳥神奈備に飛鳥京の鎮守として斎き奉っていた神社を、平城遷都と共に遷し祀った。

奈良公園の南西、奈良ホテルと道路をへだてた東向かいの小高い丘、瑜伽山の南の中腹に瑜伽神社・飛鳥神社は鎮座されている。瑜伽山全域が国指定名勝・平城の飛鳥。元興寺の鬼門除けの鎮守として崇められた。

万葉人はこの丘から、たたなずく青垣に擁された大和のまほろばを一望する絶景を楽しんだ。南を望めば吉野の山を背景にして大和三山が鼎立する。東に巻向山、三輪山、音羽山、多武峯、その奥に宇陀の山々。西に金剛山、葛城山、二上山、生駒山など、万葉故地の山々の青垣が高く連なる。

奈良ホテルは明治の廃仏毀釈によって廃絶した大乗院という興福寺の門跡寺院の跡地に建つ。南側に旧大乗院庭園が残る。その大乗院の発願により備前の国（岡山県倉敷市）の由加神社から瑜伽大権現が勧請された。祭神として手置帆負神と彦狭知神が祀られ、さらに宇迦御魂大神を祀ることになった。急な石段を上ると朱塗りも鮮やかな拝殿が迎えてくれる。

瑜伽神社

奈良の鹿

奈良公園に生息する鹿は国の天然記念物に指定されている野生動物。

和銅十三年（710）、藤原不比等は国土安穏、国民繁栄を祈り祀るため春日大社を創建し、常陸の国鹿島神宮（茨城県鹿島郡）から武甕槌命を勧請した。神は白鹿に乗って春日山（御蓋山）に降臨した。奈良の鹿はその乗ってきた鹿の子孫。神のお使い（神鹿）として神聖視し、保護敬愛されてきた。鹿を傷つけたり、殺したりすると石子詰等、とても重い罪に問われた。

奈良の鹿愛護会が保護し、現在約1200頭を保っている。餌は芝生や笹、木の芽など。30～100頭ほどのグループをつくって、泊場・休場・餌場を巡廻している。行動範囲は3～4㌔。発情期以外、雄・雌が行動を共にすることはない。東大寺や浮御堂、春日大社周辺や飛火野若草山の林のなかで寝ている。

体調をこわすので鹿せんべい以外の食べ物を与えないでください。

十三鐘の石子詰

菩提院大御堂は奈良時代の玄昉僧正の創建と伝える。本尊は阿弥陀如来坐像（重要文化財）。鐘楼に掛かる梵鐘は永享八年（1436）の鋳造で、十三鐘の通称で親しまれる。前庭には、鹿を過って殺傷した少年、三作を石子詰の刑に処したと伝える塚が残る。

昔、三作（13歳）という子供が手習をしていたところ、鹿が来て紙を食った。三作が文鎮を投げると、鹿の急所に命中し倒れた。鹿を殺した三作は、子供といえども許されることなく、石子詰の刑に処せられた。一丈三尺の井戸を掘り、死んだ鹿と抱き合わせにして、生き埋めにされた。三作は早くに父親に死に別れ、母一人子一人。三作の母は明けの七つ暮れの六つに鐘をついて供養に努め、生まれ変われば長生きできるようにと亀の形の供養塔をつくり、永年の花としてモミジの木を植えた。

この話をもとにして、近松門左衛門は浄瑠璃『十三鐘』を草している。

奈良ホテル

明治四三年（1909）、関西の迎賓館として開業した。創業百年の歴史と伝統を誇るホテルは、鹿が群れ遊ぶ荒池の畔の高台、大乗院跡地に建つ。創業時の面影を今に伝える本館は、辰野金吾・片岡安による設計で、桃山御殿風造の木造二階建て瓦葺。クラシカルな雰囲気のホテルは、まるでそこだけ時がとまっていたかのような錯覚に陥る。新館は奈良吉野地方の独自の建築様式「吉野建て」を取り入れている。

本館玄関を入ると格天井の吹き抜け。重厚な雰囲気の赤い絨毯の階段。歩く度、軋む木の音色。釣灯籠を模した和製のシャンデリア。鳥居とマントルピース（暖炉）。大時計の15分に一度奏でられる美しい音色。

奈良の伝統工芸赤膚焼でつくられた擬宝珠は、大塩正人氏の製作。部屋の天井の高さに驚かされる。圧迫感がなく気持ちいい。木造の窓枠とドア。明治時代そのままの雰囲気と浪漫が満喫できる。

奈良ホテル

コース概観

古都奈良の散策には歴史との対話がある。奈良町のはずれをゆっくり歩く。雑踏とは無縁の静けさ。春には緑、秋には紅に染まる小径。心地よい懐かしさに包まれる。天平の時代から現代まで生きてきた建物や遺跡が、天平人の謳歌した奈良の都を彷彿とよみがえらせてくれる。近鉄奈良駅からぶらぶら歩きを楽しみ瑜伽山を訪ねてみた。

近鉄奈良駅下車。東向商店街から興福寺への坂を上る。正岡子規が「秋風や囲いもなしに興福寺」と詠んだように塀や門がない。中金堂の再建が進められている。平成二十二年（2010）興福寺創建千三百年という記念すべき年に創建当初の姿で甦る。左に北円堂。華麗で力強く、優美な建物。悲運の左大臣長屋王が舅藤原不比等の鎮魂のために建てた八角堂。右に新能金春発祥地の石碑。西国第九番札所南円堂の不空羂索観世音菩薩に願ずく。

春の日は南円堂にかがやきて
三笠の山に晴るるうす雲

南へ石段をくだる。右に三重の塔を見る。目の前が猿沢池。采女神社が慎ましやかに鎮座している。

我妹子が寝くたれ髪を猿沢の
池の玉藻と見るぞ悲しき

『拾遺集』柿本人麻呂

猿沢の池は、采女の身投げたるをきこしめして、行幸などありけむこそ、いみじうめでたけれ。「寝くたれ髪を」と、人麿が詠みけむほどなど思ふに、いふもおろかなり。

『枕草子』第三十五段

池の東畔に九重塔と采女地蔵を祀る。采女が衣を掛けたという衣掛柳。池畔、東北の角に会津八一の歌碑。

わぎもこがきぬかけやなぎみまくほりいけをめぐりぬかささしながら

南へ行くと奈良町の元興寺はすぐ。北は仏門に入る修行の階段、善財童子が52人の知識人を訪ねて廻った故事に由来する五十二段の石段。石段の下は東西南北、石段も含めて放射状に六筋の道が交差することから六道の辻といわれる。六道とは、生前の善悪の行いによって導かれる冥界で、天上、人間、修羅、鬼畜、餓鬼、地獄のこと。

段を登り切った三条通りに、幕末に奈良奉行を勤めた川路聖謨の植桜楓之碑が建つ。彼の呼びかけで数千本の桜や楓を寺社境内、佐保、高円の山々に植えた功績を讃えている。

三作石子詰の伝説で有名な菩提院大御堂。近松門左衛門の芝居唄の一節。「せめて我が子の菩提のためと、子ゆえの闇にかきくもる、心は真如の月鏡を一つついては一人涙の雨やさめ、二つついては再び我が子を三つ見たやね四つ夜毎に泣き明かす、五つ命をかえてやりたや、六つ報いは何のとがぞ、七つ涙で八つ九つ、心も乱れ、問うも語るも、恋しなつかし、我が子の年は、十一、十二、十三鐘の、鐘の響きを聞く毎に、可愛々々々々々と共に泣きに、なくは冥途のカラスかえ。」

奈良の迎賓館といわれた菊水楼の表門は、円成寺塔頭にあったものを移築したと伝える。春日大社の一の鳥居が建つ。安芸（広島）の宮島の厳島神社、若狭（敦賀市）の気比神宮と共に日本三大木造鳥居の一つで、承知三年（836）創建。鳥居を潜ってすぐ右に影向の松が植わる。ここから春日大社の表参道で、両側に大小さまざまな石灯籠が千基以上並ぶ。南へ向かうと荒池越しに奈良ホテルが見える。市街地を見ると興福寺の五重塔が美しい。奈良ホテルの前からなら和み館の方に渡る。北側の細い道に入る。左に瑜伽神社。反対側の角際には、映画監督河瀬直美さんが制作のためひととき住んでおられた。

鮮やかな朱塗りの鳥居をくぐる。井戸と手水舎があり、瑜伽山と刻まれている。静けさのなか、瑜伽はヨーガ、戦国時代には鬼瀧山と呼ばれる城が築かれていたんだなと思いながら階段を上る。瑜伽山の桜、瑜伽山の紅葉といわれた古来桜楓の名所。見晴らしのいい中腹右側に飛鳥神並社と瑜伽山櫻楓歌碑がある。

春は又花にとひこん瑜伽の山
けふのもみちのかへさ惜しみて

夕陽に映える紅葉に感嘆し、去り難い思いで、春にはここへ来て花見をしたいものだと詠んだ柿野土佐守藤原良材は、奈良奉行を勤め『山城大和見聞随筆』を著している。本殿の右に建つ大伴坂上郎女の歌碑は、万葉仮名で書かれている。

東に向かって少し登り坂になっている。古びた石階段を上って行くと天神社がある。御祭神は少彦名命と菅原道真。本殿は、一間社春日造で檜皮葺。江戸時代の中期頃の建物で、横に張り出した壁に絵が描かれている。南に展望が開け、西は市街地を見下ろす。東の斜面は公園になっている。草木の匂う風を受けていると、ブランコで遊んだ昔の自分の姿が頭をよぎった。

近鉄奈良駅付近略図

≪コースタイム≫

近鉄奈良駅（20分）瑜伽神社

≪地形図≫2万5千＝奈良

≪費用≫

近鉄難波駅～近鉄奈良駅　540円

（問い合わせ先）

奈良ホテル　0742（26）3300

山のレポート

山の地名を歩く ㊷

岩手山（イワテサン）

西尾 寿一

東北地方北部の第一級の名山であることに異議を唱える人はいないと思う。北上川を遡って最後の都市盛岡に近ずくと、ポプラ並木の背後に意外な距離感でスクッと立つ黒々とした巨峰が視界を埋める。

2000㍍余の山がこれほど巨きく見えるのはおそらく高度差によるもので、麓へ引く長い山足はコニーデ火山の特徴をよく表し、山麓に多くの牧場をつくり、代表的なものに小岩井牧場がある。

南部富士と呼ばれるが、独立峰ではない。西側は八幡平から秋田駒ヶ岳の大山塊へ繋がっており、この山は見る方向によって全く違った顔を見せてくれる。

南部藩時代から現代に到るまで岩手山は強烈な郷土意識をかきたてるシンボルであった。その代表的なものが石川啄木の詩である。

ふるさとの山に向いて
言うことなし
ふるさとの山はありがたきかな

啄木は盛岡中学に在学中、岩手山にずっと護られていたのであろう。親友の金田一京助や郷土の人々に「借金魔」と言われるほど常人を超えた感覚の持ち主だったのも、おそらく岩手山が育む強烈な郷土愛による人脈が形成されていった結果、あり得たものだろう。

余談になるが、その啄木も東京生活が長びくにつれ変化してくる。「故郷は遠くから想うべき処、帰るべき処ぢゃない」と、最後の小説『我等の一国と彼』の中で高橋彦太郎に語らせている。郷里の人間関係の破壊によるものと察せられるが、「遠く想うもの」の中におそらく「岩手山」がドスンと座していたことは想像に難くない。

さらに余談になるが、室生犀星は先の啄木の詩をリメークし、「ふるさとは遠きにありて思うもの、帰るところにあるまじや」と「小景異情」の中で発表している。

岩手の新聞記者と話したとき、岩手人の特徴はたぶんに盛岡の自然風土に根ざしたもの、特に岩手山の存在が遠因である可能性にふれたが、あるとき温かく、あるとき冷厳なのも実感として受け取れなくもない。「雄偉にして重厚」という東北人の価値も地域性があるというわけである。

岩手山の名は、山が先か地名が先かの論争がある。大地名の部は昔から土地風土から命名されるのが大筋だが、今だに決着がついていないようだ。そこで山麓一帯か山頂の部分か、の話になる。これは平福百穂の歌に「岩鷲山」があるからで、これは「ガンジュ」と読めるから「ガンジュサン」となる。

しかし、これはおそらく付会で岩手の名が生じた後のことで、この歌の後に「岩手の国は傾きて見ゆ」とあるからだ。山頂部分は火山特有の溶岩地帯で、この部分を「岩が湧き出る」とみてイワデとみるのもわからぬではないが、問題は「岩手の国」が生じたとき、いかなる理由で名が生じたかが主題となるべきである。わざわざ山頂まで登って山名を考えることはまず考えられない。開拓者（和人）たちが北上川を遡って盛岡付近に至り、巨峰に接して何を考えたか、が問題とされ、次にどのような行動に移ったか、である。

アイヌが先住する地に来た和人は、その地がアイヌ語でウアッテ・コタン（人の多い村）と呼ばれたことから、ウアッテがイワテになった可能性がある。そして盛岡の古地名「岩手郡」が生じたと考えられるが、地元では岩手山から生まれた郡名だとする。おそらく源初の地名がアイヌ語とすることに抵抗があったとも考えられよう。

その岩手郡の名も「志波郡」から分かれたもので、その志波の地は盛岡の南東部に現存し、これもアイヌ語の「シワッカ」（大きい川）で、北上川であることを疑う余地は少ない。

実は岩手山の名は江戸末期まで「岩鷲山」（先出参照）で和人の作であった。明治以後岩手山となったのは郡名と同化したもので、アイヌが岩手山のことをどう呼んでいたかが判明しない限り、大本はアイヌ語の村落名（おそらく山と山麓一帯を含む）から生じたとする説に傾むかざるを得ない。

岩手山の由来を考えるとき、当然のことアイヌ語に注意しなければならないのに、先学諸氏の山名論にこの点が欠落しているのは残念なことだ。

イワテを「岩出」としたり「岩鷲」をガンジュと読ませたりするのは、大本を見逃した途中から判断する結果の産物のように思えてならないのである。

岩手山の人気の秘密は山域の多様さにある。正式の登山道は岩手山神社のある柳沢からのものだが、現在では北の松川か南の網張の両温泉がよく利用されている。

小生は若い頃、単独で網張から登ったがほとんど人に会わなかった。最近山頂付近で中年登山者が2名遭難死されたが、この山は見た目よりはるかに複雑で甘くみるのは危険である。

05年の夏、松川の温泉付きキャンプ場を利用して松川渓谷に遊び、岩手山の反対側の葛根田渓谷の最奥を楽しんだ後、広大な小岩井農場を訪ねたりして相ノ沢キャンプ場に長期滞在した。

背後の鞍掛山（897㍍）に登山道があり登ってみた。朝早く霧のなかを思ったより複雑な登路をたどって行くと山頂に出た。そのとき眼前の深い谷の霧が溶けるように消え去り、その先に黒い巨体が迫ってきた。

霧が晴れてきてしばらくの時間、山頂でゆっくり楽しむことができた。岩手山は厳然として鎮座している。これこそ北上川の水源の大家主としての風格をにじませた姿であった。

コースガイド①

（里山シリーズ47　月ヶ瀬）

読図を楽しむ
高山ダムと三府県境交点
（京都・奈良・三重）

一般コース（★★）

長宗　清司

南山城

高山ダムに立ち寄ってから、（京都・奈良・三重）三府県境の交点を探る、「読図を楽しむ」里山歩きである。

JR関西本線月ヶ瀬口駅あたりは地形に高低差があり道路が複雑にからんでいる。駅前からだらだら坂をくだって左へ行くと川沿いの道に出る。この道は「東海自然歩道」の一部である。下流へ100㍍程くだると伊賀川に架かる笹瀬橋に出る（伊賀川は、高山ダムの堰堤のすぐ下流で名張川と合流して「木津川」と名を変える）。

橋を渡って右折すれば、往復約4㌔（1時間）で高山ダムに行ける。

高山ダムは、昭和28年の南山城村災害を教訓に計画され、昭和35年から43年につくられた多目的ダムである。高さ67㍍、長さ209㍍のアーチ式コンクリートダムで、ダムによって出来た「月ヶ瀬湖」の底には約200世帯が眠っている。湖は、冬場は水を貯えているが、田植え時から秋の台風シーズンが終わる頃まで水を落としてしまう。洪水調整が主目的だから、夏場は水を落としておかないと、降った雨を貯える余裕がなくなるからである。

本コースは、先程の笹瀬橋から（高山ダムと反対に）左折して府道を南下する。しばらくアスファルト道を行くと右側に「地蔵」がまつられている。その少し先に反対側（左）に入る林道がある。この道はすぐ突き当たり、右折してしばらく雑木林のなかを行くと、明るい墓地に出る。

この先の十字路に標識があり、「茶畑・田」の方向へ左折する。小さな川を渡り、少し上り切ると正面に茶畑が広がる。右に道をとり、成り行きで高みに向かう。このあたりから読図の力量が試される。目標はあくまで「島ヶ原ゴルフ場」と接する県境のゆるやかな小谷である。

十字路の標識

この日、月ヶ瀬口駅出発時には霧雨があたりに立ち込めていて遠望はきかなかったが、1時間も経つと晴れ間も見えてきた。若葉の美しい季節、緑に

埋まって二番茶を刈り込む茶摘み風景に出会えた。茶畑の作業道は複雑で、次の変則十字路とさらにV字路で思案、検討。やがて、京都府大河原村と三重県伊賀市の境界と思われる明るくてゆるい谷筋に出る。

なぜかこのあたり、境界杭を見かけない（一説には、戦国時代、三重県（伊賀）側の藤堂高虎藩と奈良県（笠置）側の柳生藩の力関係で領地や境界がいつもはっきりせず、いまだに地元の人でもわからないという）。

地形図とコンパスで判読し、谷芯からゴルフ場の道路に出る。あとは、道路を利用してゴルフ場の南脇を寄ったり離れたりして、最後に、ようやく県境を示す赤い表示杭にしたがい、標高260から270㍍の尾根に取り付く。

起伏のある尾根はわかりやすく楽しい。ようやくここにきて山屋のホームグランドを歩く感触に浸る。境界杭を忠実に追って、紛らわしい二箇所を地図上で間違いと確認し、最終の目的地の三府県境交点にたどり着いた。

樹木に覆われた薄暗いこの場所は、すぐそばにKOMAゴルフ場のコースが見える。

帰路は、島ヶ原～白樫船の府道に出て40分。島ヶ原ゴルフ場の入口を過ぎてからは人家もなく、アスファルト道路をひたすら歩き、佃集落を経てJR島ヶ原駅に向かう。

（平成20年5月8日歩く）

《コースタイム》

JR月ヶ瀬口駅（15分）笹瀬橋【高山ダムへは往復1時間】（15分）林道入口（15分）十字路（10分）茶畑中央（25分）県境谷筋（20分）ゴルフ場道（20分）県境尾根（30分）三府県境交点（40分）府道（40分）JR島ヶ原駅

《地形図》2万5千＝月ヶ瀬・島ヶ原

コースガイド㉒

泉南

珍しい名前の山
提灯講山

一般コース（★★）

柴田　昭彦

提灯講山という一風変わった名前の山が泉南飯盛山の近くにあることをご存知の方も多いことであろう。

この山が初めて紹介されたのは、筆者の知る限りでは、創元社編集部編『新版　ハイキングノート　―近畿の山川―』（創元社、昭和36年）の「泉南飯盛山へ」のガイド記事であろう。これは、泉州山岳会の会長（当時）の仲西政一郎氏によるもので、「提灯講という変てこな名前の山」と書かれ、徒歩距離は、飯盛山から2・5㌔、みさき公園駅から2・5㌔という。つまり、その位置は、みさき公園駅の南東1・5㌔、飯盛山の北1・7㌔にある198㍍の独標と考えられる。

ところが、泉州山岳会・仲西政一郎調査・執筆『岩湧山・紀泉高原　和泉山脈・友ヶ島』（登山・ハイキング53、日地出版、昭和36年初版、昭和41年9月版）の解説（小冊子）には次のように記載されていた（36～37頁）。

「下りは北へ道を変えて起伏をつたう。途中202メートルのピークは提燈講山とか、めずらしい名前である。このピークのわずか西側から右へ岐れて谷間を下り、上夕野池の側をぬけると国道26号線に出る。」

この202㍍のピークは、2万5千分の1地形図「淡輪」（大正11年測図、同15年発行）に「202・2」の標高が記載されていた地点である。みさき公園駅の南東1・1㌔に位置していて、この辺りの最高地点である。

さらに、仲西政一郎編著『近畿の山』（アルパインガイド39、山と渓谷社、昭和49年版ほか）を見ると、何と、提灯講山は、現在の地形図の190㍍独標に同定されており、みさき公園駅の南南東1㌔に位置する。

提灯講山（中央）

仲西氏は、おそらく、淡輪の南方に広がる山塊そのものを提灯講山と考えたのだろう。

筆者は、仲西氏に従って、山塊を広義の提灯講山としてとらえ、最近のガイドに従って、198㍍独標を狭義の提灯講山として位置づけることにしたいと思う。

提灯講山付近図

南海本線淡輪駅で降りる。駅前の道を進むと左に「岬町歴史の散歩道」の案内図がある。最初の信号で左折する。ほどなく左に「淡輪邸址」の案内板があり、南側の畑一帯に土塁が残されている。そこから西へ四つ目の辺で左折すると、船守神社がある。醍醐天皇の勅命により、延喜十一年（911）に創建されたと伝わる。境内には大きな樟樹（府指定天然記念物）があり、推定樹齢七百年という。

船守神社から南へ100㍍進むと、東側が払殿座神社（祓殿社）で、境内には椋木（府指定天然記念物）がある。湯川橋を渡り、線路を越える。右手に西陵古墳（国指定史跡）があり、あぜ道をたどるのもよい。全長約210㍍で、中期の前方後円墳である。

国道を横断して、孝子街道を西へ進む。次の分岐で左へ上がる。さらに次の分岐で左に進むと、みさきヶ丘団地の入口に出る。左に上がり、すぐ右に入る。出合で右に折れてからは、ずっと道なりに進む。いったん下がって上がり、山の方向に向かう。突き当たりで左に進み、正面の「火の用心」の所から鉄塔巡視路に入り、階段を上がる。尾根をたどると鉄塔のそばに出る。尾根の急登を上り切ると、そこが190㍍独標である。道標が立ち、その主柱には『近畿の山』に従ったものと思われる「提灯講山」の表示がある。現在、ここを提灯講山とするガイドはない。

独標から左へ下降し、鞍部からササを漕いで登ると、一般向きのハイキングコースに出る。右をとり、尾根道を上がり切ると、そこが202㍍ピークで、仲西氏が小冊子に「提燈講山」と紹介されていた地点であるが、今では、提灯講山とするガイドはない。ここは付近の縦走コースにおける最高地点で、大阪湾を望むことのできる随一の展望台でもある。ピークのすぐ手前に休憩場所が設けられている。

いったん鞍部にくだり、登り返すと、保安林の看板がある193㍍ピークに出る。再び、鞍部にくだるとササが密生しているが、尾根を登り返すと、そこが201㍍ピークで、山塊で二番目

に高い場所である。ここから縦走路は南に向かう。二つの小さなピークを経て下降して、鞍部から東へ登り返すと、そこが、198㍍独標である。ここが通常、提灯講山として一般に紹介されている地点であるが、ピークには、山名プレートは見当たらない。

ピークから南へ下降して、鞍部に着く。少し先で、左手に「飯盛山登山口バス停へ」という案内がある。深いシダくぐりが嫌でなければ、この谷間の道を下降してもよいが、ここでは、右の縦走路を進もう。やがて、154㍍ピークに出る。いわゆる「飯盛山展望地」として知られている場所で、真っ正面に飯盛山が見えており、休憩にちょうどよい。

展望地から鞍部にくだる。赤テープの目印があるので、左手に下降する。足下に注意しよう。谷に出て、先ほどの谷間の道と合流する。右へ谷沿いにくだる。左岸に、やや荒れた道が続く。左側に谷が見えた所で、道が不明瞭になるが、右の沢を渡り、左に進む。左に畑や水田を見ながら地道をたどり、コンクリート舗装の道から車道に出る。そこが飯盛山登山口バス停で、左手に八王子社が見えるが、右へ車道を進んで西谷寺に寄っていこう。

西谷寺は、もとは「阿弥陀堂」と呼ばれ、阿弥陀如来立像（南北朝期）を本尊とする浄土宗の寺院である。開基は不明という。十四世紀頃と思われる五輪塔があるが、もとは医王寺（廃寺）にあったものと伝承されている。

寺の左手の道を進むと、信浄院・飯盛山へのハイキングコースだが、その入口に建武地蔵がある。後背の右下に建武五年（1338）の銘があり、砂岩（岬町の歴史）で出来ている（現地の案内板では花崗岩とある）。この地蔵は、飯盛山から出土したものと伝わる。

西谷寺から戻り、八王子社に立ち寄る。江戸時代の年号を刻んだ灯籠や百度石などがある。車道を北に向かう。大渡橋を渡ってすぐ右折し、老人ホーム淡輪園の案内に従って、左へ折れて右に向かい、その手前まで進む。左側のフェンスのそばの狭い道に入る。

白いフェンスに沿って、右に老人ホームの敷地を見ながら歩こう。最初に地蔵があり、さらに進むと墓地があり、その先の敷地の尽きる辺りで、手前の左側を見ると、石造物があって、淡輪医王寺跡とわかる。本堂や庫裏のあった平坦地が広がり、鎌倉時代から江戸時代にかけての石造物（宝塔、宝篋印塔、五輪塔、板碑、無縫塔、石仏、墓碑）が遺存している。近世の遺物に刻まれた銘文から、医王寺は浄土宗系の寺院と考えられている。

フェンス沿いに引き返し、今度は、入口からまっすぐに進む。境界を示す標柱が三本あり、そこから踏跡を道なりにたどる。最後の標柱から30㍍余り進むと土塁状になった場所に出る。正面は掘れた溝になっている。

土塁に沿って右に10㍍歩き、そこで左に15㍍進んだ所に立つのが「小祥忌」板碑である。この板碑から右へ5㍍の所に「大祥忌」板碑が立っている。ここが、淡輪別所中世墓地で、二つの板碑が主体をなし、平坦地には石造物（宝篋印塔基礎、五輪塔、板碑、地蔵石仏、灯籠、門柱）が散在している。

応永八年（1401）の「小祥忌」板碑は、高さ150㌢の砂岩製で、一周忌に建立され、梵字の種子サクが本地仏の勢至菩薩を表している。一方、応永九年（1402）の「大祥忌」板碑は、高さ137㌢の砂岩製で、三回忌に建立されたもので、梵字の種子キリークが本地仏の阿弥陀如来を表している。

これらは室町時代の十三仏信仰に即したものである。このような一周忌・三回忌の銘文を刻んだ供養塔は全国的に見ても類例は少なく、大変珍しいものである。西谷寺の五輪塔は、医王寺から移されたと畑の集落では伝承されているが、この中世墓地にあった可能性もあるという（「大阪府泉南郡岬町淡輪別所中世墓地実測調査報告」泉州泉地域史研究会、平成7年）。中世墓地を後にして、宇土墓古墳の横を通って、淡輪駅に戻る。

「小祥忌」板碑（1401年）

ところで、「提灯講」とはいったい何なのであろうか。ガイドブックに山名の由来にふれたものは見当たらないが、インターネット情報に「珍しい名前ですが、この辺りの有力社、茅渟神社の祭礼を支える講の一つに提灯講というのがあったそうですので、あるいは関係があるのかもしれません」（平成20年5月3日のヤフー―掲示板への投稿）とあった。

岬町淡輪地区の大束組の櫓（地車・だんじり・壇尻）は、毎年10月中旬の祭礼で船守神社に宮入りするが、明治30年代に新調されたものである。これは、古老の話では、泉南市樽井地区の提灯講の櫓を明治30年頃に購入したものだという（HP「樽井の櫓の起源」「佐野川くんのやぐら談議」ほか）。

樽井地区の宮元講（茅渟神社に宮入り）は明治初期に吾妻中（東講）と提灯講が合併して出来た講で、現在の櫓は吾妻中の櫓を引き継ぎ、提灯講の櫓は売却されたというから、古老の話は辻褄が合うようだ（「泉南だんじりとやぐら」堺泉州出版会、平成15年）。

淡輪地区に提灯講の櫓がもたらされ、祭礼に使われるようになった頃から、背後の山が提灯講山と呼ばれ始めたのかもしれない。提灯行列のように同じくらいの高さの山が連なる山並は、宮入りする船守神社からよく見えていたことだろう。提灯講の呼称は今では耳慣れないが、江戸・明治時代では、なじみのある言葉であり、親しまれていたのである。

（平成20年5月17日・6月14日歩く）

◇コースタイム▽

南海淡輪駅（15分）船守神社（45分）巡視路入口（1時間）提灯講山（45分）西谷寺（45分）中世墓地（30分）淡輪駅

◇地形図▽2万5千＝淡輪

コースガイド図

北白川・地蔵谷から 比叡アルプス・一本杉(登仙台)へ

比叡

一般コース（★★）

松尾　一郎

このコースには道標がほとんど無い。花崗岩が風化した白砂状の明るい尾根道に落葉広葉樹が茂り、比良や湖北の山を彷彿させ、秋は紅（黄）葉、初夏の新緑も美しい。ただ、登り側の地蔵谷は少々荒れ気味で、登り口がややわかりづらい。

京阪出街柳駅④番出口より地上（今出川通北側）に出て、交番東側の出街柳駅口バス停より比叡山頂行き京阪（京都）バスに乗車し、20分程で地蔵谷バス停で下車する。

バス停を少し東へ移動して白川に架かるコンクリート橋を渡り、白川支流の地蔵谷川右岸沿いに付けられた遊歩道を上流に向かって進む。最初の古い堰堤に続いて二つ目の新しい堰堤が現れると、遊歩道は河原に下り、流れに沿って行けばやがて地蔵谷左岸の山道に移る。沢沿いの山道をしばらく行くと、道は二手に分かれるが、右の山道へ登る（道標なし。木に黄色テープ）。

第一分岐登り口（右の山道へ登る）

比叡アルプス広葉樹林の尾根道

杉植林のなか、コースは地蔵谷左岸を高捲き気味に測るが、谷を見下ろすと「東山トレイル(4)」尾根道への登り口が確認（注1）できる。さらに左岸踏跡を行くといったん地蔵谷河原近くに下り、朽ちた木橋を見て道は二手に分岐（道標なし）するので、右の鮮明な登り道（枯木に赤・黄色テープ）（注

比叡アルプス・一本杉（登仙台）付近図

2）に入る。

いよいよ比叡アルプスへの登山道だ。登路は湿れた小沢を捲き気味に主稜より派生する支尾根に取り付いてぐんぐん高度を稼ぐ。倒木を跨ぎ小さな岩場を越し、支尾根斜面をトラバース気味に行くと、明るい広葉樹林帯の比叡アルプス主稜三差路（地蔵谷下降点）に出る。樹木の枝に木製の標識が掛けられており、それぞれ三方向を示している。一本杉（登仙台）へは左（北）の道に入る。右（南）への道は3

83ピークを乗越し、主稜尾根を忠実にたどり北白川ラジウム鉱泉（地蔵谷バス停）へくだるルートだが難路である。

三差路から左へ主稜尾根道（比叡アルプス）に入り、すぐ左脇の木枝には可愛い標識が二枚（一本杉・地蔵谷を示す）ぶら下がっており、次の岩場は右に捲く。登路は尾根道の縦走とはいえ、起伏も多く案外と手間どる。時折木の枝にブルーの目印が掛かっており、それを目安に明るい広葉樹林の道を行けば、けっこう大木も多く、ミズナラ・サワグルミなどの巨木も見られる。中世城跡の石垣が現れるとしばらくで、高圧鉄塔の下に登り着く。

鉄塔のすぐ上部（北東）で登路は三方向（四差路。道標はない）に分かれており、一本杉（登仙台）へはまっすぐの尾根道を進む。右へ捲き気味にくだって行く道は比叡南部縦走路の一部で山中町（注3）への下山路。左への踏跡は大鳥居へくだるルートだが今は廃道に近い。

一本杉の巨木

鉄塔からは登りも少しゆるくなり、快適な雑木林の尾根道を行く。一つの小ピークに登り着くと、左（西）より大鳥居（東山トレイル柳）からの白鳥越道が合流（注4）する。登路をなおも進むと、やや薄暗い踏跡不鮮明な箇所は左にとり、低い境界石柱で右に向きを変え、左（北方向）に樹間から比叡山頂が遠望されると、大きな無人テレビ中継塔の裏に着く。中継塔壁の左沿い（北側）に踏跡をたどれば、叡山閣の裏庭に飛び出し、コンクリート橋を渡り叡山閣の前庭に出て、一本杉の巨木がそびえる登仙台（590㍍）に着く。

ここは比叡山ドライブウェイの展望休憩所を兼ねており、晴れていれば琵琶湖、大津から京都市街方面の眺望が期待でき、清涼飲料の自販機もある。ただしトイレは無い。

下りは、登仙台から左（北）へドライブウェイ沿いの遊歩道に入り、ホテル「ロテル・ド比叡」前の横断歩道を渡り、車道脇を左（北）へ料金所近くまで進み、「東海自然歩道入口」道標に従い自然歩道に入る。すぐに「比叡山・延暦寺」の石碑が建ち、やがて三差路（道標あり）に着く。左（北）へは桜茶屋跡を経て無動寺・弁天堂へのコース。右（東方向）へしばらく行くと、木で土止めされた長い階段状の急坂道が断続しており、標高差にして約150㍍をくだれば、四ツ谷川源流の小宅谷出合（道標あり）に下り立つ。ここには二筋の清流が流れており、植生豊かな明るい平池で、ひと息入れたい所だ。

唐橋へは小宅谷に懸かる堰堤の左岸沿からくだる山道に入り、谷沿い（東方向）にくだって行くと山道は平小谷林道（未舗装）となる（注5）。小宅谷へは左から桜谷、弁天谷の流れを併せ四ツ谷川となり、林道は谷右岸沿いから左岸沿いを行き、右脇に穴太古墳群を見て墓場が現れると舗装路となり、車が行き交う滋賀県道47号に出る。

京阪穴太駅へは右（南）へ県道沿いを200㍍少々、JR唐崎駅へは穴太駅よりさらに南へ約700㍍、湖西道路のガードを潜るとすぐだ。

（平成20年5月17日、6月7日・14日、7月12日歩く）

Aコースタイム

地蔵谷バス停（5分）第二堰堤（5分）第一分岐（5分）第二分岐（20分）主稜三差路（地蔵谷下降点）（35分）石垣（3分）高圧鉄塔（15分）白鳥越道合流（20分）テレビ中継塔（4分）三本杉（登仙台）（5分）ドライブウェイ横断歩道（3分）東海自然歩道分岐（20分）小宅谷出合（45分）穴太古墳（7分）県道（5分）京阪穴太駅（10分）JR唐崎駅

〈地形図〉2万5千＝京都東北部

（注1）…先程の分岐を通り過ぎ、ここ（東山トレイル柳への登り口、標識あり）まで来たら戻らず、流れを渡って左岸のゆるい法面をよじ登れば、このコース踏跡に出られる。

急な階段の東海自然歩道（下方が小宅谷）

（注2）…左のやや不鮮明な谷沿いの道は地蔵谷（荒廃気味）を渡って坂端林道の大鳥居（東山トレイル柳）に達するが、大鳥居は崩壊の可能性があり極めて危険である。

（注3）…右へくだる山中道には枝に小さな白色の「山中町」の標識が掛かっている。このルートは急変時のエスケープルートに利用できるが、コース状況は不明瞭な箇所もあり特に尾根二股（左へ下る）で迷いやすく、一般向きではない。Aコースタイム▼鉄塔（30分）林道下山口（10分）山中町（10分）山中バス停。

（注4）…コースを下りにとる場合、右の白鳥越ルートに入りやすい。北白川・地蔵谷へは、左側の木の幹に緑色「比叡アルプス」と表示のある左への尾根道にくだること。なお、白鳥越ルートは、尾根道で道標は無いがよく踏まれており、分岐から大鳥居まで約20分でくだれ、さらに雲母坂の水飲対陣跡（東山トレイル柳）まで約20分。

（注5）…平小谷林道下山が物足りない向きには、小宅谷出合から標高差100㍍を登り直して夢見ヶ丘に達し、東海自然歩道を京阪滋賀里駅までの下山コースを勧める。Aコースタイム▼小宅谷出合（15分）夢見ヶ丘（15分）遊笠山分岐（35分）慈福寺跡分岐（30分）京阪滋賀里駅

＊コース状況は道標も完備し問題ないが、小宅谷からジグザグの木枠の道で夢見ヶ丘まで登り返し、さらに遊笠分岐から藤川源流部の左岸まで長い急坂の木の階段道を下りるので、相当アルバイトを強いられる。ただし荒天時は沢筋コースなので要注意である。藤川右岸の自然歩道から林道に下りるまでに五つの堰堤（下流側の三つの堰堤は近年設置された）を高捲くが、四つ目の堰堤のみ右岸を高捲き、流れ（通常は涸沢）を二回渡渉せねばならず、豪雨のときなどは対岸に渡れないおそれもある。なお、神輿山・遊笠山を越え、穴太へくだるルートは旧白鳥越の一部であるが、中級向きコース。

沿線ハイキングガイド

近鉄　京阪　阪急　南海　神鉄　山陽電車　叡電・京福
公開ハイク　歩け歩け大会　文学散歩　歴史散歩　その他

近鉄

▽駅長お薦めフリーハイキング「道俗律師と役行者ゆかりの地を行く」　11月2日(日)雨天決行（集合）平群駅9時30分～11時（コース）平群駅―法隆寺―白山神社―生駒山口神社―千光寺―東山駅（約11㌔一般向・係員は同行しません）参加自由・無料（拝観料別途）、王子駅0745（72）2330

▽近鉄万歩ハイキング「暮井寺から河内ワインへ（河内ヌーボーを楽しみませんか！）」　11月3日(祝)小雨決行（集合）暮井寺駅9時30分～10時（コース）暮井寺駅―暮坂寺―応神天皇陵―誉田八幡宮―河内ワイン（試飲・販売・解散）―駒ヶ谷駅（約10㌔一般向）参加自由・無料（拝観料別途）、近鉄大阪イベント係06（6775）3566

▽近鉄万歩ハイキング「紅葉深まるみたらい渓谷」　11月5日(水)小雨決行（集合）下市口駅9時40分～10時10分（コース）下市口駅（バス）天川川合―弁天洞橋―関電吊橋―白倉橋―みたらい滝―光の滝―観音峰橋―洞川温泉（バス）下市口駅（約7㌔一般向）参加自由・無料（バス往復2330円は各自）、近鉄大阪イベント係06（6775）3566

▽駅長お薦めハイキング「秋の初雅から山道を抜ける奇岩群を目指す」　11月9日(日)小雨決行（集合）長谷寺駅9時30分～11時（コース）長谷寺駅―地蔵尊―野外観音堂―隠れ谷神社―岩屋延命地蔵菩薩―十二神社―熊谷三輪神社―天王山古墳―倉橋溜池―石位寺―大和朝倉駅（約11㌔健脚向）参加自由・無料（拝観料別途）、榛原駅0745（82）0021

▽金剛生駒紀泉ハイキング2008「第7回（最終回）秋深まる金剛山へ」　11月9日(日)小雨決行（集合）忍海駅9時～10時（コース）忍海駅（バス）青崩―青崩道―国見城跡―転法輪寺―高木神社―まつまき（ゴール・解散）―金剛登山口（バス）河内長野駅（約9㌔健脚向）参加自由・無料（バス代1070円は各自）、近鉄大阪イベント係06（6775）3566

▽近鉄万歩ハイキング「山の辺の道を歩く」　11月14日(水)小雨決行（集合）天理駅9時30分～10時（コース）天理駅―石上神宮―内山永久寺跡―天理観光農園―夜都伎神社―天理市トレイルセンター―長岳寺―岩屋天皇陵―桜井駅（約16㌔一般向）参加自由・無料（拝観料別途）、近鉄大阪イベント係06（6775）3566

▽駅長お薦めフリーハイキング「高槻山城古墳巡り」　11月16日(日)雨天決行（集合）新庄駅10時～11時（コース）新庄駅―柿本神社―村井邸―新庄陣屋町―屋敷山古墳―神明社古墳―万葉の丘―二塚古墳―高槻山城公園―並木神社―山田里遺跡―忍海駅（約13㌔一般向・係員は同行しません）参加自由・無料（拝観料別途）、高田市駅0745（53）2531

▽朝日・五私鉄リレーハイキング「春日山原始林から奈良公園へ」　11月23日(祝)雨天決行（集合）登大路園地（近鉄奈良駅徒歩5分）9時30分～10時30分（コース）登大路園地―春日大社―境坂の道―春日山石窟仏―春日山原始林―若草山―仏頭石―手向山八幡宮―東大寺（二月堂・三月堂・大仏殿）―登大路園地（約14㌔）参加自由・無料（拝観料別途）、近鉄大阪イベント係06（6775）3566

6

▽駅長お薦めフリーハイキング「河内街道の史跡を訪ねて行基ゆかりの道を歩く」　12月20日(日)雨天決行（集合）河内花園駅9時30分～11時（コース）河内花園駅―津堂神社―岩崎美隆生家地―往原神社右鳥居―貝塚橋詰地蔵―山口重信墓―若江鏡神社―若江城址碑―蓮浄寺―石田神社―観音寺―三十八神社―石田墓地―若江岩田駅（約8㌔一般向・係員は同行しません）参加自由・無料（拝観料別途）、八戸ノ里駅06（6788）0866

京阪

▽朝日・五私鉄リレーハイキング「鴨川河畔から深泥池・宝ヶ池を訪ねて」　11月2日(日)雨天決行（集合）鴨川河川敷五条大橋上流側（五条駅下車）9時30分～10時30分（コース）五条駅―五条大橋上流―鴨川―丸太町橋―丸太町通―白川通―吉田山―北白川疎水道―深泥池―宝ヶ池公園―叡電宝ヶ池駅（約15㌔）参加自由・無料、京阪電車ハイキング担当06（6947）3702

▽スポニチファミリーハイク「紅葉狩りハイク・淀川三川合流のまち八幡から天下分け目の天王山へ」　11月30日(日)小雨決行（集合）八幡市駅（ケーブルのりば前）9時30分～10時（コース）八幡市駅―御幸橋（木津川）―御幸橋（宇治川）―天王山大橋―小倉神社―天王山山頂―酒解神社―弥立禅院跡―石―宝積寺―阪急大山崎駅（約10㌔一般向）参加自由・無料、京阪電車ハイキング担当06（6947）3702

叡山電車

▽叡電ハイク「峠を歩く貴船山・鞍ノ水峠」　12月17日(水)・20日(日)小雨決行（集合）貴船口駅9時30分～10時（コース）貴船口駅―二ノ瀬ユリ―大岩分岐―鞍ノ水分岐―貴船山―鞍ノ水峠―夜叉峠―二ノ瀬駅（約9㌔一般向）参加自由・無料、叡山電車営業課075（702）8111

京都バス

▽三角点トレック「百里ヶ岳コース」　11月1日(土)雨天中止（集合）京阪出町柳駅地下コンコース⑧出口付近8時～8時30分（コース）出町柳駅（バス）小入谷越―ヤセ尾根―シチクレ峠―県境尾根―出合―百里ヶ岳―県境尾根―根来坂峠―焼尾谷―小入谷橋―ルネッサンス（バス）出町柳駅（約11㌔健脚向）参加定員200名（電話申込者10月1日(水)9時より）無料（バス代4000円別途）（申込先）京都バス運輸部075（871）7521～222

神戸電鉄・北神急行電鉄

▽火曜ハイク「炭ヶ谷・紅葉谷道コース」　11月4日(火)雨天中止（集合）谷上駅9時30分（コース）谷上駅―炭ヶ谷―シェール道―横尾湖―サウスロード―記念碑台―紅葉谷道―有馬温泉駅（約16㌔健脚向）参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078（592）4611

▽駅長ハイク「地獄谷西尾根コース」　11月15日(日)雨天中止（集合）地獄谷登山口（大池駅下車南）（約1・7㌔）10時（コース）大池駅―地獄谷西尾根―ダイヤモンドポイント―記念碑台―シュラインロード―有馬口駅（約11㌔健脚向）参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078（592）4611

▽火曜ハイク「逢山峡・魚屋道コース」　11月18日(火)雨天中止（集合）有馬口駅9時30分（コース）有馬口駅―逢山峡―書写屋敷尾根―六甲最高峰（魚屋道―瑞宝寺公園―有馬温泉駅（約13㌔健脚向）参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078（592）4611

▽火曜ハイク「丹生山・藍那古道コース」　12月9日(火)雨天中止（集合）栄駅9時30分（コース）栄駅―つくはら湖―シビレ山―丹生山―藍那古道―藍那駅（約15㌔健脚向）参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078（592）4611

▽神鉄ハイク「千苅水源池と大岩岳コース」　12月14日(日)雨天中止（集合）神鉄岡場駅9時20分（コース）道場駅―千苅水源池―大岩岳―JR道場駅（約12㌔一般向）参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078（592）4611

□これ以外にも多数の催しがあります。各社の広報も見て下さい。

せせらぎ

山に関する最新の情報を随時お寄せください。1行15字詰め、30行程度です。原稿用紙下部に、ご自分の会員番号・氏名をお書きください。都合により掲載できないことがあります。

題字　小林坡璃三

梅雨の中休みの7月上旬、手軽に登れる山として、南総門山（三重県大台町）に登った。

総門山林間コース入口に駐車し、総門山を経て南総門山へ。南総門山頂は樹林に囲まれ展望は無いとされているが、山頂西面に大規模な土砂崩れが生じていて、高見山地方面が広く望まれた。総門山も見える。

この時期の花はバイケイソウと地に落ちたヒメシャラの花。帰路は総門山尾根コースをくだり、往復3時間かかった。

奥伊勢フォレストピア温泉の脱衣場で裸になると、ナメクジ位の大きさの一匹のヒルが床に落ち、腹部に五ヶ所の出血点があった。（名古屋市　酒井勝彦）

約800㍍のミノガ峠を越える鈴鹿の御池林道は全線が舗装されていて、バイクでのツーリングは最高だ。年に三～四回は楽しんでいるが、今年も6月末に楽しんだ。

小又谷分岐から上りにかかると、山側の谷がほとんど、つまり道目体が川となっていた。ミノガ峠の上りでは、左の谷の両斜面は白布をかぶせたような木が続き、よく見るとヤマボウシの花が谷全体に咲き誇っている。

峠を越え、近江故の峠に着くと、東に向かう尾根に新しい林道がのびている。この尾根の先の稜部が幻のユリゴ峠だ。地図を見ると往復約2時間と見てアタックした。

登り上がった右斜面に蒼々とした森の広場があった。ゆったりとした尾根は杉の大木の疎林が続き、P678に向かってゆるく登ると、オニルリソウの葉の花が続き、通行手形を二本もゲットした。

P678を中心に植林が進んで、大きく茂げる檜林の先の稜部がキラリと光っている。近づくとかなり大きな池になっている。その先で急に明るくなり、送電鉄塔の下に飛び出して展望が開けた。その先は尾根と右斜面の下刈りと伐打ちが終わっていて南に大きく展望が開け、滝谷山山系が望めた。

尾根には古い道が続き、ギンリョウソウとアキノギンリョウソウを愛でながら細尾根から下りた所が幻のユリゴ峠だ。

深く掘り込まれた峠は、人が山の大地に深く刻みつけた芸術作品で、両斜面の道はほとんど消えている感じだ。

御池林道が出来たために忘れ去られてしまったユリゴ峠。昔を忍びながらぜひ歩いていただきたいと思う。

（近江八幡市　岩野　明）

5月下旬、鈴鹿山系を代表する御在所岳の前山、藤野富士（369㍍）へ登った。御在所岳へは以前に裏道と中道から登っており、残るは表道だ。それよりも近年ふるさと富士に注目している自分としては、藤野富士から御在所岳を展望したいと思ったのである。

登山口のうぐいす橋から登り始め、大石公園への東海自然歩道と分かれた後、尾根伝いに進んで藤野富士山頂に到着した。360度開けていて遮るものが

無く、実にすばらしい展望だ。先ず注目したのは西方間近に眺められる御在所岳と鎌ヶ花だった。

平成5年に家内と湯ノ山温泉からロープウェイを利用して御在所岳へ上り、三角点を確認した後、武平峠へくだり、そこから鎌ヶ岳へ往復し、湯ノ山温泉へくだった思い出があったからである。晴天下にそれら二山を近々と眺められたことに感謝し、早速、携帯にて家内へ報告したのであった。

反対側を眺めると、下方に菰野町、遠方に四日市市街、さらに伊勢湾まで見渡される。大した苦労もなく登り、陽光を全身に浴びながら、誰もやって来ない頂上にて展望を独占して楽しんだのである。

目陸に坐り込み、持参の資料頻を広げる。この山が日露戦争後の明治43年に名古屋の陸軍から野戦演習場の指定を受け、昭和20年の終戦まで軍靴の音の絶え間ない場となっていたことを再認識する。登山の始めに地元の夫婦とすれ違ったとき、この山は陸軍33連隊の演習場だったのでその石碑が絶えず出てくると教えられ、それを認識しながら進み、そしてこの頂上においてもその存在を確認したのだった。

再度の展望確認に移る。南側下方に小さく認められるのは湯ノ山温泉駅に於けるレールの終点らしい。一方、狭い山頂なのに三角点は探し廻っても確認できなかった。

（枚方市　東谷　宏）

猛暑が続く8月9日、青春18きっぷ片手に、新快速で姫路へ。駅前から神姫バスに乗る。目的地は、西国霊場第26番一乗寺、その正門前で下車。人影はちらほら。

入山。三重塔から金堂、さらに奥の院へ。開山堂に手を合わせ引き返そうとしたその時、石造九重塔のはるか上に赤い何かが小さく光った。時間もあるのでと近寄ってみる。「法華山頂上へ」と書かれた矢形赤札が一枚。この先も赤札（道標）は次々とある模様。そこで、気の向くままよ頼れかしと登ってみることに。

シダが茂っていて、近時は歩かれたとも思えない細道を一歩一歩踏みしめて行く。お寺参りは、一転して山歩きモードに切り替わる。今日も酷暑、照りつける陽ざしは覚悟のうえながら、吹き出る汗も引っ掻く傷も、全く容赦なしとは。探訪の季節を誤ったと後悔しても始まらない。

遠くで鳴るは正午の鐘か、やっとの思いで頂上到着。展望は思案の外、でも何とまあ、渡る風のさわやかなことよ。思いがけなく右書きの三等三角点標石に会い、全く傷無しの姿に感激。また、赤板に白文字で「243・3m法華山裏山」と手書の山名札が樹幹に。登り道の剣所にあった赤形矢札は、同じ筆になるとお見受けした。そのご労作に感謝合掌。

下山は、もと来た道を引き返す。藤蓮の花咲く放生池でひと休みしてのち、帰途につく。

今日の山は、既登の書写山よりもかなり手強かったぞ、と独り言。播磨の低山は、遠いがゆえに引きつけるものあり、か。

（伊賀市　高田榮久）

熊谷では連日35度を超え、オレも連夜庭でビアガーデン。これでは身体にいいわけない、と熊谷を脱出し、中央アルプスの経ヶ峰に登ってきた。

津市のみかちゃんから「仕事に熱中すると熱中症になるよ」と後押しされ、1週間の休暇をとっての山行きだ。

初日、黒戸山へ突き上げる桑ノ木沢の黒戸噴水滝を見に行ったが、林道にゲートがあり入渓点までの林道歩きが長いので諦める。根性無しの失敗である。

次の日、みかちゃんから「いい山だった」と聞いていた戸倉山に登った。この山はポジションがよく前面には南アルプスが横一線にずらり、後ろを向けば中央アルプスがずらり、槍穂も遠くにのぞいていた。

経ヶ峰登山当日は曇りがちだ

が暑い。仲仙寺の横には公民館の大きな駐車場があり、参道の横から山に入る。「熊注意」の看板は無い。東にのびる長い稜線上に登り着くと、そこが五合目。そこからは合目毎の標識が出てきて、この山は全山がカラマツに覆われている。これでは熊は棲めないだろう。

林床にはササが生え、道にかぶっているので霧で下半身ずぶ濡れ、最初の稜線上のピークに着くと七合目。2000㍍地点で涼しさを感じる。新しい四等三角点があり平成元年の設置。ここは展望が良く行く手には大泉山の奥に本峰が初めて大きく姿を見せた。

八合目を過ぎるとササの高さが増してきて、胸で押して歩く。ササを揺らすと無数の小さな虫がとび出てくる。吸い込まないよう鼻を押えて歩くが身体に付いた虫を払うとつぶれてシミになる。前を見ると飛び交っているこの虫がかすみのように広がっている、やる気をなくしてくれるやつらだ。「ここまで来たんだからいいじゃないか帰ろう」と、身体のどこかで言っている。頭の中では「せっかくここまで来たのに帰るのかよう」と言っていて頭と身体の喧嘩がしばらく続き頭が勝った。この虫の帯は50㍍ほどで他にはいなかった。

山頂には二等三角点があり、カラマツ林のなかで展望は無い。道は山頂を乗っ越して反対側へくだっている。おそらく権兵衛峠へ通じているのだろう。「今度は権兵衛峠から登ってみよう」と頭のどこかで言っているが、身体のほうは「ヤブがひどいんじゃないのか」とまたまた喧嘩が始まった。

この山は中央アルプスの一角にありながら全く趣を異にする静かな山で誰にも会わず、このデカい山を今日一日独り占めにしてしまった。

（熊谷市　山形　明）

今年の夏は2000㍍級の山に四度登った。

7月には、谷川連山最高峰の仙ノ倉山。誰一人空であったがニッコウキスゲが咲き誇っていた。下旬には南八ヶ岳場に泊まり、翌日に白山の別山に登った。クロユリやクルマユリ・ハクサンコザクラ・ハクサンチドリなどちょうど花時。下山はチブリ尾根をコースにとった。

8月は、中央アルプスの三ノ沢岳へ。ロープウェイで千畳敷へ上がり、頂上往復。遠く北アルプスや富士山も見え、大展望が楽しめた。下旬には美ヶ原の武石峰に登るが雨。ヤナギランやマツムシソウなどの秋の花を見た。

さあ、来夏はどこに行こうかと今から思案している。

（大東市　阪上義次）

7月5日、南アルプスの展望台「シラビソ高原」に行き、すぐ近くの御池山に行った。日本で唯一開石クレーターが見える場所だが、クレーターははっきりしなかった。シラビソ峠から大沢岳・赤石岳・光岳・兎岳・上河内岳・池口岳等がよく見えた。

6日、南アルプスの鋸岳に行った。5日夜はテント泊。きつい鳥衛兵沢を登って下りるが、穂高の白出沢よりも岩が小さく登りにくかった。テントを担いでの往復10㌔5時間の戸台川の歩きもきつかった。

12日、夜叉ヶ池から三国岳に行くが、ササがはびこり1時間30分もかかった。三国ヶ岳へは1時間15分だったそうだ。

13日、例会でこつぶり山から取立山に行く。ササユリは100本以上見られたが、見頃なのは75本くらいだった。

20日、甲斐駒ヶ岳・仙丈岳の予定を仕事の都合でキャンセル。シラビソ峠から前尾高山・尾高山・奥尾高山・岩本山・奥茶臼山を縦走。往復10時間半かけた。長い（8・1㌔）が歩きは楽だった。

21日、蛇峠山・三国山と経く二山を歩く。蛇峠山にはクガイソウ・ヤマオダマキ・ノリウツギが多く、7月6日に熊が出たと書かれていた。シャクジョウソウも見た。

27日、百名山の焼岳に行った。山頂付近で雷が鳴り少し降られてすぐに止むも、下山中最後の所で土砂降りになった。新穂高温泉では台風のような荒れ模様だった。（海津市　山田明男）

7月15～19日にかけて北海道の百名山三山に女7人で出かけた。メンバーはいつも山に行く名古屋地区の人達ですが、その中の久米さんの百名山の百山達成の山行に同行しました。

まずはトムラウシ。天気も良く花もとても多く見られ、12時間もの長丁場だったが、一同感激した。花がきれいなので次回は大雪山の方から縦走してみたい。花も少しわかるようになりましたが、北海道の花は特にきれいです。トムラウシに何度も来られる方がいるとも聞きましたが、わかる気がする。

私は北海道・上富良野育ちでも、まともに北海道の山は登ったことがなく、ほとんど初めてと言ってよい山歩きでした。結婚前は十勝岳には何度も登っているが、時間の関係で山頂には行けてなかったし、その頃花には全く興味もなく、ただ黙々と歩くのみでした。

二山目は十勝岳。少しガスが出ていて見晴らしが特別に良かったわけではないが、全員山頂に立てた。都合で3人くだる。4人は富良野岳方面に少し縦走を試み、花がきれいだったと聞きました。

三山目は大雪山（旭岳）。私は実家に行っていて、久米さんの百山達成には居合わせることができず残念。天候が悪く、山頂を踏んだだけで戻ったと言うことでした。

私はその足で岐阜に帰りましたが、4人は東北の山にも向かわれた。女だけの山歩きも楽しかったので、道のはっきりした百名山ならまた行ってみたいとみんな言っていました。

（海津市　山田妙子）

8月31日から9月3日、サークルの仲間と梅海新道を歩いた。このトレイルは地元のサワガニ会と地域の方々が切り開き整備されたコース、北アルプスの3000㍍から親不知のゼロ㍍までくだる縦走路である。

北又小屋で1泊し、小屋番のアドバイスに勇気づけられた。朝日小屋に泊まり、天空のお花畑を満喫しながら梅海新道に入った。

梅海山荘に泊るのに手前の北又の水場で各自2㍑を補給して上がる。梅海山荘からの展望はすばらしく、ご来光も拝むことができたのに、下り始めて2時間ほどで雨中の行軍になってしまった。下りのコースとはいえ、かなりのアップダウンの連続である。ことに下駒岳の急登には参った。白鳥山を目指すがなかなか姿を見せてくれなかった。

白鳥小屋でお昼をかねて休憩。雨が強くなり、時間的なことと疲労度を考慮して坂田峠をゴールに決めた。峠の手前の金時坂の急降下には気が抜けなかった。梯子ロープを使って峠の車道に出た時には、脚がいっぱいになった。

尻高山・入道山を残して坂田峠でエスケープしたが、達成感と充実感は十分持つことができたと自負している。

梅海新道縦走は長年思い続けてきたがやっと実現できた。大変な超健脚コースを5人が無事に下山できたのが何よりだった。

北又の小屋番さん、朝日小屋の方々、サワガニ会の方々に深謝。（神戸市　福本愛子）

10月6日から4日間、韓国の山を視察に行ってきます。

日本人に韓国の山を登ってもらいたいと、韓国から招待された団体の一員として、新ハイ関西を代表して行くことになりました。

本誌に吉見英樹氏が連載されているように、韓国の山は日本の山とは違い、若者から高年者まで登山する人が大変に多く、いまや大登山ブームと聞きます。そこらあたりの登山事情もじっくり観察しようとワクワクしています。（城陽市　村田義雄）

山行計画
(11・12月)

新ハイキングクラブ関西

山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ（夫婦は一枚）往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するよう、申込み先を確認のうえ申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。

「実費費用」のほかに、本部の「山行運営費」として400円をお支払いください。申し込み後、参加できなくなった場合はすぐ申し込み先に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りは遠慮願います。なお、例会の参加安全員に傷害保険がかけられています。出発点呼の際、係に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円（数行日帰りの場合は2日になり200円）を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。（損害保険ジャパンと契約）

	金額
・死亡・後遺障害保険	1000万円
・入院保険金	5000円
・通院保険金	3000円
	日額

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登はんを目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病気の場合（詳細は本部まで）

（記入例）

（往復ハガキを使用）

例会申込み書

山行名（正確に記入すること）

期日

住所 〒

氏名

会員番号
（会員でない方は会員外と記入）

血液型

電話番号・FAX番号

生年月日

緊急時の連絡先　TEL
（山行中の連絡先を記入）

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所・氏名に「様」と必ず記入しておいてください。

11月	行先	実費	リーダー	サブ
2(日)	鈴鹿・釋ヶ岳～四方峯山～三子山	*	岩野	
2(日)～3(祝)	奥美濃・洞の天井～平家岳	10	山田	
6(木)	三重・逢岳	26	西上	
8(土)	三重・サイクリング～赤目青山～比奈知ダム一周			
8(土)	鈴鹿・霊仙山		山口	
9(日)	鈴鹿・天狗堂		村田	
9(日)	京都北山・貴船山～二ノ瀬ユリ	24	森脇	
11(水)	奥高野・荒神岳～護摩壇山		堀元	
14(土)	湖東・安土城～綿山～箱子山	26	西上	
15(土)	丹後・大江山		村田	
15(土)	北神戸・有馬富士	24	狩野	
15(土)	奥美濃・小津権現山		阪上	
15(土)	飯高・熊ヶ池	20	鷲見	
15(土)		*	岡垣	
18(日)	鈴鹿・滝谷山～大見清～万野	*	岩野	
16(日)	比良・打見山～堂満岳		桑	
20(木)	大峰・三本栂～大栂山	26	西上	
21(金)～23(日)	大峰奥駈・葛川辻～熊野本宮大社	25	村田	
22(土)	敦賀・池内山	*	高島	
25(火)	京都東山・第1峰～第4峰		仲谷	
26(水)	京都東山・大文字山～打越峠～越塚山		金谷	

＊＝サイカー山行

山行計画の実施と申し込みについて

① 山行例会は、前もって保険を掛け、登山届を提出しますので、必ず実施日の7日前までに、「往復はがき」で申し込んでください。人数によっては事前にバスやタクシーをチャーターする必要があります。また、山ではいかなる事態が発生するかもしれません。緊急時の連絡先、および生年月日など必ずご記入ください。

② 返信の山行案内は、実施日の10日前頃にします。直前にならないと参加人数がはっきりせず、交通機関への手配等、費用もはっきりしないからです。また、早くから返信すると、コースの状況等、何か変更になった場合に再連絡するのが大変だからです。早くから申し込まれた方はそれまでお待ちください。

③ 定員制の計画は先着順に受け付けます。すでに定員に達し、キャンセル待ちの場合はその旨をすぐに返信します。お断りが無い場合は、定員枠に入っているものと判断ください。

④ 山行のグレードは、次の5ランクに決めています。

（初級向き）初心者でも安全に歩けるコース（3～4時間コース）
（一般向き）日頃山歩きしておられる方なら誰でも歩ける標準コース。あまり危険のない山（5時間コース）
（中級向き）かなり経験を要するコース。危険な所はないが距離が長いコース（6～7時間コース）
（やや健脚向き）距離は中級だが危険な所があり、登り・下りが長く続くコース（6～7時間コース）
（健脚向き）距離が長く、つらい急な登り、危険な岩場、谷の渡渉、やぶ漕ぎの連続など、ハードなコース（7時間以上）

⑤ 雨天中止・決行の判断は、前夜（17時発表）に当地の気象情報を確認し、返信案内の判断基準の降水確率を見て各自で判断ください（係から連絡はしません）。降雨山行の嫌いな方は、雨天・小雨決行の計画には申し込まれないようにお願いします。

12月	行先	実費	リーダー	サブ
4(木)	台高・菊山	26	西上	
6(土)	美濃・金華山		鷲見	
6(土)	湖北・己高山	24	狩野	
6(土)	京都北山・花背の三本杉～峰床山	40	村田	
6(土)～7(日)	朽木・行者山	*	高島	
7(日)	鈴鹿・梵天（犬の塔）	25	山田	
7(日)	鈴鹿・権現谷北尾根P712計	*	岩野	
9(火)	京都東山・第5峰～第14峰	23	仲谷	
11(木)	台高・小楢山	26	西上	
12(金)	奈良・春日山原始林～若草山		村田	
13(土)～14(日)	三重・サイクリング～赤目青山～青蓮寺ダム	10	山口	
14(日)	湖西・箱館山	40	森脇	
17(水)	嵯峨嵐山・鳥居大文字～小倉山		金谷	
18(木)	三重・白猪山	26	西上	
21(日)	鈴鹿・熊野滝	*	岩野	
21(日)	裏六甲・有馬三山		村田	
28(日)	北摂・中山寺～大峰山～武庫川渓谷		村田	
30(火)	北河内・旗振山～千鉢山		阪上	
1/10(土)～12(日)	八ヶ岳・白駒池～天狗岳	25	村田	

＊各計画の概要は次ページ以降に紹介している。

鈴鹿を歩く298
霧ヶ岳・四方草山・三子山
（やや健脚向き）

11月2日(日)　日帰り　マイカー
集　合　国道1号線鈴鹿峠トンネル西口（鈴鹿峠駅8時00分
コース　広場（車）安楽越―霧ヶ岳―四方草山―三子山―鈴鹿峠（車）安楽越（解散）
費　用　交通費各自
地　図　昭文社＝「御在所・雲仙・伊吹」
係　◎吉野　明　○山田登二　○後藤康幸
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　村田智俊まで

6月は雨天中止になり、再度アタックします。安楽越から鈴鹿峠までは低山ながら岩場やキレットがあり、大パノラマと変化に富んだ尾根を縦走します。雨天中止

展望の山50
奥美濃・洞の天井と平家岳
（健脚向き）

11月2日(日)～3日(祝)　1泊2日　レンタカー
集　合　（2日）JR西岐阜駅6時50分
（2日）西岐阜駅（車）板取・川浦渓谷―洞の天井―（往路）―板取（車）民宿（泊）
（3日）民宿（車）新深山トンネル―遠視路―平家岳―（往路）―新深山トンネル（車）板取川温泉（入浴・車）西岐阜駅（解散）
費　用　約15000円（車・宿泊・入浴代等）
地形図　2万5千＝平家岳
係　◎山田明男
申込み　〒503―0535　海津市南濃町松山624の19　山田明男まで

＊定員24名
木地師の里、君ヶ畑のコースを往復します。頂上からは御池岳が大きく見えます。雨天中止

＊定員10名（2日のみ日帰り6名追加可）
奥美濃の紅葉はきれいです。なかなか行けない山です。ぜひご参加ください。時間があれば、洞の天井から明神山を目指す。雨天決行（コース変更あり）

三重・迷岳（中級向き）

11月6日(祝)　日帰り　貸切バス
集　合　近鉄榎原神宮前駅中央口8時05分
コース　榎原神宮前駅（バス）リフレッシュパーク跡―唐谷林道―一の滝―尾根出合―迷岳―（往路）―リフレッシュパーク跡（バス）榎原神宮前駅（解散18時00分）
費　用　約3500円（バス代）
地形図　2万5千＝七日市
係　◎西上利和　○前川和佳子
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10

新ハイキング関西まで
＊定員26名（会員に限る）
京阪神の市人に人気のある台高の展望峰です。山頂の眺望もすばらしく、比較的登りやすい唐谷林道から目指します。雨天中止

サイクリング&登山04
赤岩尾山と比奈知ダム一周
（一般向き）

11月8日(土)　日帰り
集　合　近鉄桃俣駅西口8時30分
コース　桃俣駅（サイクリング・～下比奈知～神原～山―下長瀬（往路）―赤岩尾山―下長瀬（サイクリング・～比奈知ダム一周～下比奈知～）桃俣駅（解散15時30分頃）
費　用　交通費各自（サイクリングは保険対象外）
地形図　5万＝名張
係　◎山口敏明
申込み　〒518―0755　名張市赤が丘中144　山口敏明まで

静かな農道と山間をサイクリングし、桃俣岩と紅葉の赤岩尾山（492m）に登山後、比奈知ダムを一周します。MTBレンタル（300円）希望の方は申し込み順に2台まで。雨天中止

鈴鹿・雲仙山（一般向き）

11月8日(土)　日帰り
集　合　JR柏原駅9時10分
コース　柏原駅―合目―四合目―雲雀小屋―桂河内道出合―四―桃俣―雲雀小屋―桂坂峠―雲仙山―汗フキ峠―椿ヶ畑―解井貴婦場（バス）解井駅（解散17時頃）
費　用　交通費各自
地　図　昭文社＝「御在所・雲仙・伊吹」
係　◎吉野　明　○山田登二　○後藤康幸
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　村田智俊まで

6月は雨天中止になり、再度アタックします。安楽越から鈴鹿峠までは低山ながら岩場やキレットがあり、大パノラマと変化に富んだ尾根を縦走します。雨天中止

近江の山シリーズ49
鈴鹿・天狗堂
（一般向き）

11月9日(日)　日帰り　貸切バス
集　合　JR京都駅八条口団体バスのりば7時30分
コース　京都駅（バス）君ヶ畑―若地若神社―尾根分岐―天狗堂―（往路）―君ヶ畑（バス）京都駅（解散17時頃）
費　用　約3000円（京都駅からバス代）
地　図　昭文社＝「御在所・雲仙・伊吹」
係　◎森脇良義
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10

地図読み山行89
京都北山
貴船山から二ノ瀬コリ
（一般向き）

11月9日(日)　日帰り
集　合　叡電出町柳駅9時30分
コース　出町柳駅（電車）貴船口駅―貴船神社―奥貴船橋―滝谷峠―貴船山―樋ノ水峠―夜泣峠―富士神社―二ノ瀬駅（解散）
費　用　交通費各自
地形図　2万5千＝大原（昭文社＝「京都北山」）
係　◎堅元一彦　○中村　登
申込み　〒536―0008　大阪市城東区関目4の14の9の901　堅元一彦まで

新ハイキング関西支部と合同地形図を正しく読んで、山の楽しさを二倍にしましょう。シルバー皿型コンパスを持参ください。初心者歓迎。雨天中止

奥高野・荒神岳と護摩壇山
（初級向き）

11月11日(火)　日帰り　貸切バス
集　合　近鉄富田林駅北口8時05分
コース　富田林駅（バス）立理荒神社―神社本殿（登山口）―荒神岳―（往路）―立理荒神社（バス）護摩壇山スカイタワー―護摩壇山（最高ピーク点）―護摩壇山スカイタワー（バス）富田林駅（解散17時30分）
費　用　約3000円（バス代）
地形図　2万5千＝上垣内・護摩壇山
係　◎西上利和　○前川和佳子
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10

新ハイキング関西まで
＊定員26名（会員に限る）
立理荒神社は火の神・かまどの神として人々に信仰を集めていて、神社本殿の奥に荒神岳の三角点があります。護摩壇山は近畿の調査により東に派生する1382mのピークが和歌山県の最高峰とされています。雨天中止

金剛里山ハイキング11
安土城から畝山・猪子山
（一般向き）

11月14日(金)　日帰り
集　合　JR安土駅9時30分
コース　安土駅―大手門口―安土城―北腰峠―畝山―地獄越―猪子山―能登川駅（解散16時頃）
費　用　交通費各自
地形図　2万5千＝八日市・能登川
係　◎村田智俊
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　村田智俊まで

安土城址を訪ね、紅葉と大パノラマの尾根道を歩く。雨天中止

週末ハイク86
丹後・大江山
（一般向き）

11月15日(土)　日帰り　貸切バス
集　合　JR京都駅八条口団体バスのりば7時40分
コース　京都駅（バス）大江山の家―鬼塚西ピーク―鬼塚―コル―烏ヶ峰―大江山（千丈ヶ嶽）―鬼嶽稲荷

神社―大江山の家（バス）
京都駅（解散19時頃）
費　用　約3000円（京都駅からバス代）
地形図　2万5千＝大江山・内宮
係　◎岩野東彦
申込み　〒610-0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊定員24名
晩秋に、酒呑童子が棲んでいたという大江山を歩きます。
雨天中止

北摂戸の山
三田・有馬富士（一般向き）

11月15日(土)　日帰り
集　合　JR三田駅9時30分
コース　三田駅（バス）志手原―清水山―行者山―山饅公園―有馬富士―福島大池―新三田駅（解散）
費　用　交通費各自
地形図　2万5千＝藍本・三田
係　◎坂上義次
申込み　〒574-0017
大東市泉の辺町9―15
坂上義次まで
雨天中止

自然観察山行259
奥美濃・小津権現山（一般向き）

11月15日(土)　日帰り　貸切バス
集　合　JR大垣駅9時00分
コース　大垣駅（バス）藤波谷登山口―権現の森―小津権現山―高草山―杉谷林道登山口（バス）大垣駅（解散）
費　用　約4500円（大垣駅からバス代等）
地形図　2万5千＝美濃広瀬・横山・樽見・谷汲
係　◎鷲見守康
申込み　〒504-0828
各務原市蘇原村南町1の19の5　鷲見守康まで
＊定員20名（申込状況により減員あり）
小津権現への新ルートを歩きます。小雨決行

三重の山100
飯高・熊ヶ池（一般向き）

11月15日(土)　日帰り　マイカー
集　合　国道166号線道の駅「飯高駅」9時30分
コース　道の駅（車）飯高町富永―大谷橋―飯高西中学校―（尾根）―熊ヶ池―（往路）―富永（車）道の駅（解散15時30分頃）
＊道の駅に温泉あり。
＊当夜は、有志は山の家「無静庵」で1泊します（寝袋必要）。
費　用　交通費各自、150円
地形図　2万5千＝江馬・七日市
係　◎福田逸夫
申込み　〒519-0311
鈴鹿市大久保町2065
福田逸夫まで
久しぶりの三重の山です。17年間のんびり歩き続けて100回目です。山頂というよりも標高740mの山中にある池を訪ねます。
雨天決行

鈴鹿を歩く299
滝谷山・大貫峠・万野（やや健脚向き）

11月16日(日)　日帰り　マイカー
集　合　国道307号線多賀町役場広場8時00分
コース　広場（車）御池林道滝谷源流広場―滝谷山―ユリゴ峠―滝谷山―ミノガ峠―大貫峠―万野―滝谷源流広場（解散）
費　用　交通費各自
地　図　明文社＝「園在市・常佐・伊吹」
係　◎岩野　明　○山田基三　○後藤坂平
申込み　〒610-0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
近江盆の稜線は、幻のユリゴ峠から滝谷山へと突き上げている。これを登り、ミノガ峠から大貫峠、万野へと稜線を歩く新ルートです。
雨天中止

比良を歩く71
打見山から金糞岳（一般向き）

11月16日(日)　日帰り
集　合　JR志賀駅9時00分（9時02分発びわ湖バレイ前行き乗車）
コース　志賀駅（バス）びわ湖バレイ前（ロープウェイ）―打見山―江谷―木戸峠―比良岳―蓬川越―烏谷山―荒川峠―南比良峠―笠磨峠―ノタノホリ―桜のコバ―比良駅（解散16時30分頃）
＊歩行5時間30分
費　用　約2500円（京都から）
地形図　2万5千＝比良山（昭文社＝「比良山系」）
係　◎桑　康夫
申込み　〒610-0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊定員25名（会費に限る）
大峰山脈の雰囲から東に派生する長大な支尾根。静寂な晩秋の尾根を歩く。雨天中止

紀伊山地の参詣道を歩く22
大峰奥駈道⑥（最終回）
⑥葛川辻から玉置山
⑦玉置山から熊野本宮大社（中級向き）

11月21日(土)夜～23日(日)
前夜発1泊2日　貸切バス
集　合　JR京都駅八条口団体バスのりば22時30分／近鉄橿原神宮前駅24時00分
コース　橿原神宮前駅（バス）（21日）京都駅（バス）橿原神宮前駅（バス）（22日）（バス）上葛川登山口―葛川辻―地蔵岳―香精山―貝吹金剛―花折峠―玉置山（神社泊）（23日）玉置山―大森山―切畑辻―五大尊岳―六道ノ辻―七越峠―本宮大社（バス）わたらせ温泉（入浴）大阪駅（解散19時）
費　用　約15000円（バス・宿泊・入浴代等）
地　図　昭文社＝「大峰山脈」
係　◎村田智俊　○安倉正勝
申込み　〒610-0121
城陽市寺田大畔10の10
村田智俊まで
＊定員25名
'04年12月より始め、丸4年間で延43日間を費した熊野古道歩きのフィナーレ。今までたどったいろいろな古道を思いだしながら歩く。
雨天決行

敦賀の山
池内山（一般向き）

11月22日(日)　日帰り　マイカー
集　合　余呉町中河内中央広場9時00分
コース　中河内―長野峠―池内山―P441―池河内湿原―池河内―長野峠―中河内（解散）
費　用　交通費各自
地形図　2万5千＝中河内
係　◎菅原伸浩
申込み　〒610-0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
中河内～長野峠、長野峠～池河内は今春、長野峠～池内山は今秋開いた新しいルートです。
雨天決行

火曜ハイク47
私の東山36峰（第1回）
第1峰～第4峰（中級向き）

11月25日(火)　日帰り
集　合　叡電八瀬比叡山口駅9時00分
コース　八瀬比叡山口駅―御蔭神社（御生山）―大比叡―鷲峰学院（鷲峰学院山）―赤山神社（赤山）―鷲森神社（解散16時頃）
費　用　交通費各自、資料代100円
地　図　昭文社＝「京都北山」
係　◎伊谷孔司　○神　伸
申込み　〒610-0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
3年前に実施したものと同じ内容です。東山36峰は、定説のない山々ですので解釈の違いはあると思いますが挑戦してみます。今回は一般山行に堕じますが、次回からは、街の中の神社巡りもありま

すので人数制限をさせてもらいます。5回に分けて案内します。
雨天中止

北山ちょっと歩き103
大文字山・打越滝と経塚山
（一般向き）

11月26日(水)　日帰り
集　合　銀閣寺山門前9時30分
コース　銀閣寺―中尾城跡―打越滝―大文字山―如意越―経塚東尾根―経塚山―経塚東尾根―毘沙門堂―山科駅（解散15時30分頃）
費　用　交通費各自
地形図　2万5千＝京都東北部
係　◎金谷　昭　○磯部　純　○谷　守
申込み　〒610-0101 21
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで

静かな裏大文字の打越滝より大文字山に登り、経塚山を経て山科にくだります。雨天中止

台高・鎧岳（一般向き）
12月4日(水)　日帰り　貸切バス

集　合　近鉄橿原神宮前駅中央口8時05分
コース　橿原神宮前駅（バス）畝傍神社―大鏡池―鎧岳（487m）―（鎧岳）―木ノ実ヤ塚―二階岳―県道表合線（バス）橿原神宮前駅（解散17時）
費　用　約3000円（バス代）
地形図　2万5千＝大豆生
係　◎西上和和　○新川和佳子
申込み　〒610-0101 21
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊定員26名（会員に限る）

新しい峰が出来た大鏡池から畝傍連峰の山頂へ登り、ブナ林が続く支尾根を南下して紅葉を楽しみます。雨天中止

自然観察山行260（忘年山行）
美濃・金華山
（一般向き）

12月6日(土)　日帰り
集　合　JR岐阜駅9時15分
コース　岐阜駅（バス）白山比咩神社―梅現山―洞山―岩戸東山―金華山―水道山―梅林公園―動労福祉センター（忘年会）―岐阜駅（解散）
費　用　約6500円（岐阜駅からバス代・忘年会費等）
地形図　2万5千＝岐阜北部
係　◎鷲見守康
申込み　〒504-0828
各務原市鵜沼東町1の19の5　鷲見守康まで
＊11月6日まで

金華山を中心とした最も長大な里山縦走コースです。雨天決行（コース変更あり）

週末ハイク87（忘年山行）
湖北・己高山
（一般向き）

12月6日(土)　日帰り　貸切バス
集　合　JR京都駅八条口団体バスのりば7時30分
コース　京都駅（バス）己高庵―登山口―六地蔵―牛止め展望台―鶏足寺跡―己高山―鶏足寺跡―鉄塔―登山口―己高庵（入谷・忘年会・バス）京都駅（解散20時頃）
費　用　約8500円（バス代・忘年会費）
地形図　2万5千＝近江川合
係　◎資野東彦
申込み　〒610-0101 21
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊定員24名

初冬の湖北の山を歩き、下山後、入浴・忘年会を開催します。雨天決行

京都北山歩き129
花背の三本杉から峰床山
（一般向き）

12月6日(土)　日帰り　貸切バス
集　合　JR京都駅八条口団体バスのりば8時00分
コース　京都駅（バス）峰定寺―三本杉―緑風の森―こもれびの森展望所―葛坂峠―峰床山―オグロ坂峠―八丁平―中村集落―伊賀谷林道―高川小学校前（バス）京都駅（解散18時）
費　用　約3000円（京都駅からバス代）
地　図　昭文社＝「京都北山」
係　◎村田智俊　○安倉正勝
申込み　〒610-0101 21
城陽市寺田大畔10の10
村田智俊まで

＊定員40名

古木の三本杉を見てから交流の森へ登り、尾根歩道を峰床山から八丁平へたどる。雨天中止

朽木の山（忘年山行）
行者山
（初級向き）

12月6日(土)～7日(日)朝　1泊2日　マイカー
集　合　（6日）高島市朽木支庁13時15分
（6日）朽木支庁（車）
コース　検川入口登山口―堀谷谷―行者山―（往路）―登山口（車）朽木温泉「てんくうの湯」（忘年会・泊）
（7日）朝（自由解散）
費　用　約9000円（宿泊・忘年会費、交通費各自）
地形図　2万5千＝饗庭野
係　◎高島停志
申込み　〒610-0101 21
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで

往復約3時間の行者山に登り、朽木温泉で忘年会を行います。
＊6日のみ日帰りの方はその旨明記ください。マイカー以外で参加の方はJR安曇川駅12時45分発「細川行き」に乗車ください。
雨天決行

展望の山51（忘年山行）
鈴鹿・梵天（犬の尾）
（一般向き）

12月7日(日)　日帰り　レンタカー
集　合　JR関ヶ原駅8時25分／三岐西野尻駅8時30分
集合駅（車）上石津町大羽支所（車）林道―梵天―（往路）―林道（車）
コース　藤原町山口忘年会会場（忘年会・車）集合地（解散）
費　用　約2000円（車・会場費・忘年会費等）、交通費各自
地形図　2万5千＝雲仙山
係　◎山田明男
申込み　〒503-0535
海津市南濃町松山624の19
山田明男まで
＊定員25名程度

午前中に登れる軽い山。下山後に忘年会。＊車の方は禁酒、飲酒で運転する方は会場で泊まる（寝袋持参）。雨天決行

鈴鹿を歩く300
（300回記念山行）
権現谷北尾根P712
（やや健脚向き）

12月7日(日)　日帰り　マイカー
集　合　河内観寺院前広場8時00分
コース　広場―奥ノ権現―行者谷―乗谷―横道―長サコー―P712―行者の森―あけん原―広場（解散）
費　用　交通費各自
地　図　昭文社＝「御在所・雲山・伊吹」
係　◎岩野　明　○山田景三　○後藤康幸
申込み　〒610-0101 21
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで

雲仙山の南権現谷の北の山域はほとんど知られていない。昔は行者谷に林道があり、西南尾根の南斜面を伐採した時の横道が残り、ワイヤーやレール等が散乱している。鈴鹿に残る最後の秘境ともいえるこの山域をのんびり歩きます。
雨天中止

火曜ハイク48
私の東山36峰（第2回）
第5峰―第14峰
（一般向き）

12月9日(火)　日帰り
集　合　京阪電鉄三条駅ホーム9時00分
コース　修学院駅―茶山周辺（茶山）―一乗寺山―瓜生山―北白川山―茶山―銀閣寺（月待山）―法然院（善気山）―大文字山―銀閣寺（解散15時30分頃）
費　用　交通費各自、資料代100円
地　図　1万＝国土地理院「京都」と「京都御所」
係　◎仲谷礼司　○戸　伸
申込み　〒610-0101 21
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊定員23名（会員に限る）

12・13峰は次回です。神社巡りも入りますので変則な歩き方になります。雨天中止

台高・小桧山（一般向き）
12月11日(水)　日帰り　貸切バス
集　合　近鉄橿原神宮前駅中央口

コース　8時05分
櫻原神宮前駅（バス）道の駅「吉野路上北山」―登山口―尼祖出合―P790m―道の駅（バス）櫻原神宮前駅（解散16時30分）
費用　約3000円（バス代）
地形図　2万5千＝河合
係　◎西上利和　○岡川和佳子
申込み　〒610-0101 城陽市寺田大畔10の10 新ハイキング関西まで
＊定員26名（会員に限る）
地元の人でも山頂までは登ったことがないというマイナーな山ですが、登山道もしっかりと踏跡があり登りやすいと思います。道の駅に温泉はありますが、営業時間が遅いので入浴しません。
雨天中止

金剛里山ハイキング12
奈良・春日山原始林と若草山
（一般向き）

12月12日(日)　日帰り
集合　近鉄奈良駅9時30分
コース　奈良駅―春日大社―南部交番―首切地蔵―休憩小屋―鷲ノ滝―春日奥山ドライブウェイ―若草山―若草道路付口―志賀直哉旧居―奈良駅（解散16時頃）
費用　交通費各自
地形図　2万5千＝奈良・柳生
係　◎村田智俊
申込み　〒610-0101 城陽市寺田大畔10の10 村田智俊まで
春日山原始林をたどり、大和原の若草山で憩う。雨天中止

サイクリング&登山⑲
（忘年山行）
赤目四十八滝と青蓮寺ダム
（一般向き）

12月13日(土)～14日(日)　1泊2日
集合　近鉄名張駅東口8時30分（13日）名張駅（車・送迎バス）青蓮寺レークホテル（サイクリング・～赤目見川～）赤目四十八滝駐輪）―赤目四十八滝入口（サイクリング・～赤目見川～）青蓮寺レークホテル（泊・忘年会）（14日）青蓮寺レークホテル（サイクリング・～青蓮寺湖ロマンの森～落合橋～弁天橋～）青蓮寺レークホテル（入浴・車・送迎バス）名張駅（解散12時）
費用　約18000円（宿泊・忘年会費等、＊自転車は保険費要外）
地形図　5万＝名張
係　◎山口敏明
申込み　〒518-0755 名張市緑が丘中144 山口敏明まで
＊定員10名
静かな冬の赤目四十八滝を散策し、伊賀路と青蓮寺湖畔をサイクリングする。ダム湖を見下ろす青蓮寺レークホテルで忘年会を開きます。＊MTBレンタル（300円）希望の方は申し込み順に2名まで。雨天決行

近江の山シリーズ⑲（忘年山行）
湖西・箱館山
（一般向き）

12月14日(日)　日帰り　貸切バス
集合　JR京都駅八条口（休日はバスのりば）8時00分
コース　京都駅（バス）箱館山スキー場登山口―箱館山―箱館山駐車場（バス）マキノ高原（忘年会・バス）京都駅（解散16時頃）
費用　約3000円（京都駅からバス代）
地形図　2万5千＝熊川・海津
係　◎森脇貞義
申込み　〒610-0101 城陽市寺田大畔10の10 新ハイキング関西まで
＊定員40名
一等三角点の箱館山に登り、下山後には忘年会。恒例の鍋を用意します。弁当・飲み物は持参ください。雨天決行

北山ちょっと歩き104
（忘年山行）
嵯峨嵐山・鳥居大文字と小倉山
（一般向き）

12月17日(水)　日帰り
集合　JR嵯峨嵐山駅9時00分
コース　嵯峨車山駅―嵯峨天竜院―鳥居大文字―西山パークウェイ展望台―試峠―嵯峨陵―六丁峠―小倉山―嵐山公園（解散15時30分頃）

費用　交通費各自
地図　昭文社＝「京都北山」
係　◎谷　昭　○熊部　純　○谷　守
申込み　〒610-0101 城陽市寺田大畔10の10 新ハイキング関西まで
風望の良い鳥居大文字に登り、棲線伝いに小倉山を経て嵐山公園にくだります。解散後、嵐山渡月橋公園にて有志で忘年会をします（各自負担持参、近くにコンビニあり）。小雨決行

三重・白猪山（初級向き）

12月18日(水)　日帰り　貸切バス
集合　近鉄櫻原神宮前駅中央口8時05分
コース　櫻原神宮前駅（バス）都集落―矢下道分岐―白猪山―右尊大権現―都集落（バス）櫻原神宮前駅（解散17時）
費用　約3500円（バス代）
地形図　2万5千＝大河内
係　◎西上利和　○岡川和佳子
申込み　〒610-0101 城陽市寺田大畔10の10 新ハイキング関西まで
＊定員26名（会員に限る）
局ヶ岳・堀坂山と共に伊勢三山と呼ばれ、松阪の最高峰で展望良し。雨天中止

鈴鹿を歩く301（忘年山行）
熊野滝
（一般向き）

12月21日(日)　日帰り　マイカー
集合　国道477号線鎌王ダム広場8時30分
コース　広場（車）熊野―熊野滝―（往路）―熊野（車）水無山専用ロッジ（長食忘年会・解散）
費用　交通費各自
地図　昭文社＝「鈴鹿・伊吹」
係　◎長野　明　○山田誉三　○後藤康幸
申込み　〒610-0101 城陽市寺田大畔10の10 新ハイキング関西まで
熊野滝往復後、専用ロッジで昼食忘年会とミーティング（鈴鹿サミット）等を行います。料理は各自持参（マイカー運転の方禁酒）。雨天決行

裏六甲・有馬三山（一般向き）

12月21日(日)　日帰り
集合　神鉄有馬温泉駅10時00分
コース　有馬温泉駅―落葉山―灰形山―湯槽谷山―湯槽谷峠―極楽茶屋―紅葉谷―ロープウェイ有馬駅―温泉会館（解散・入浴）
費用　交通費各自
地図　昭文社＝「六甲・摩耶」
係　◎村田智俊　○安倉正勝
申込み　〒610-0101 城陽市寺田大畔10の10 村田智俊まで
静かな裏六甲、落葉の尾根道をたどって三山を巡り、香炉岩谷尾根から六甲最北端の極楽茶屋へ。紅葉谷を下山し、有馬の湯で汗を流す。雨天中止

年末にロングコースを歩く
北摂
中山寺から大峰山・武庫川渓谷
（一般向き）

12月28日(日)　日帰り
集合　阪急宝塚線中山駅8時00分
コース　中山駅―中山寺―奥の院参道―中山最高峰―十万辻―大峰山―桜の園―武庫川渓谷廃線―JR生瀬駅（解散17時頃）
費用　交通費各自
地図　昭文社＝「北摂・京都西山」
係　◎村田智俊
申込み　〒610-0101 城陽市寺田大畔10の10 村田智俊まで
中山寺から奥の院を訪ねて中山最高峰へ。十万辻から大峰山に登頂し、北摂の山々を眺める。桜の園から武庫川渓谷沿いの廃線のトンネルをいくつか抜けて生瀬駅へ戻る。トンネル内は暗いので懐中電灯を持参ください。雨天中止

北河内・城振山から千蛾山
（一般向き）

12月30日(木)　日帰り
集合　JR津田駅9時00分
コース　津田駅―国見山―高槻山―楊平―千蛾山―くろんど池―京阪私市駅（解散）
費用　交通費各自
地形図　2万5千＝枚方
係　◎坂上義次

申込み　〒574-0017
大東市泉の辺町9-15
阪上義次まで
「幽玄の山」を2山歩きます。
雨天中止

八ヶ岳・白駒池から天狗岳
（健脚向き）

1月10日(土)～12日(日)　2泊3日
貸切バス

集合　(10日) 京都駅八条口団体バスのりば7時30分
コース　(10日) 京都駅（バス）麦草峠―白駒池―高見石小屋―中山―奥見石ヒュッテ（泊）
(11日) ヒュッテ―中山峠―東天狗―樹石岳―夏沢峠―本沢温泉（泊）
(12日) 本沢温泉―しらびそ小屋―稲子湯（バス）京都駅（解散19時30分）
費用　約30000円（バス・宿泊代等）
地図　昭文社＝「八ヶ岳」
係　◎村田智俊
申込み　〒610-0121
城陽市寺田大峰10の10
村田智俊まで

＊定員25名
冬山でもトレースのしっかりした八ヶ岳を歩く。樹氷や白く輝やく山岳を見ながら雪上を歩き、本沢温泉でゆっくりする。雨天決行（コース変更あり）

山行報告
（7・8月号）
新ハイキングクラブ関西

丹後・太鼓山
（ファミリーハイク123）

7月2日(日)　晴れ
(集合) JR新大阪駅7・30（バス）スイス村駐車場11・00―太鼓山11・20～30―風車の道展望広場11・55（昼食）12・40―（風車の道散策）―風車の道駐車場13・30（バス）経ヶ岬公園14・10―（灯台の道散策）―経ヶ岬公園15・05（バス）宇山温泉「よし野の里」15・20（入浴）16・30（バス）新大阪駅20・10（解散）

太鼓山から磯砂山や依遅ヶ尾山を眺めたが、天気が良すぎて若狭湾は霞んでいた。ナデシコなどの花を愛で高原の情緒に浸り、巨大風車が回る遊歩道を歩いた。

（参加者）中谷峯子　中澤ちず子　本間明恵　村上嘉子　伊東ナナ子　川上大堅　加藤哲一　小柴大直　堅田　弘　柳川常雄　田中三恵子　渡部和美　渡田幸子　武部美美子　大谷章子　小林博子　佐々木輝子　阪上義次　藤村勝彦　岩城登子　○荻尾一正　○巻田　晃　◎木村太郎　（計23名）

台高・白髭岳

7月3日(日)　◎西上利和
＊雨天のため中止しました。

北アルプス
八方尾根から唐松岳・五竜岳

7月4日(土)夜～7日(四)朝
前夜発1泊2日（夜行2泊）
(4日)（集合）JR京都駅22・00（バス）JR一宮駅24・10（バス）
(5日　晴れ)（バス）黒菱平5・00（朝食）5・40（バス）八方ゴンドラ山麓駅6・10～8・00（ゴンドラ・リフト）第一ケルン8・30～45―八方池10・00～20―丸山ケルン11・30（昼食）12・00―唐松岳頂上山荘13・00～14・00―唐松岳14・15～30―頂上山荘14・40（泊）
(6日　晴れ) 頂上山荘6・00―五竜山荘8・30～45―五竜岳9・45～10・00―五竜山荘10・45（昼食）11・20―中遊見山14・00―小遊見山分岐14・20―地蔵の頭15・20―アルプス平15・40～16・00（テレキャビン）とおみ駅16・20（バス）十郎の湯16・30（浴・夕食）18・30（バス）
(7日)（バス）京都駅4・50（解散）

黒菱平から見上げる後立山連峰は残雪を纏い雪渓が美しい。これからあの峰々を歩くのかと思うと胸がワクワクした。二山共に順調に登高し、予定通り遊見尾根をくだった。五竜山荘から下の雪渓上をすごいスピードで滑り上がる黒いクマの姿を見てびっくり。樹には初夏の花が咲き、イワカガミの花が多かった。

（参加者）小林　修　野末あや子　岡崎知子　上田眞代　河本美千子　藤本紀子　岩本彩子　安田文美江　小林　桂　湊谷節枝　水見真砂子　今泉　勲　東　明美　有原八郎　内田康夫　岩鶴健司　伊藤則男　遠藤　串　○安倉正勝　◎村田智俊　（計20名）

若狭・青葉山（週末ハイク83）

7月5日(土)　晴れ時々くもり・にわか雨
(集合) JR新大阪駅7・30（バス）青葉山青少年旅行村9・55～10・05―高野分岐10・25―展望台11・00～10―馬の背11・45―青葉山東峰12・00（昼食）12・45―西峰13・30（雨やどり）14・00―松尾寺15・00～20（バス）道の駅「シーサイド高浜」15・45（入浴）16・45（バス）大阪駅19・00（解散）

梅雨の晴れ間に恵まれたが、風は無く蒸し暑い日になった。東峰から西峰への岩場はロープ・鎖・ハシゴが整備されていて、ホタルブクロを見ながら安心して歩けた。ササユリ・イブキジャコウソウなどけっこう花も楽しめた。西峰でティータイム中に突然のにわか雨に遭ったが、休憩小屋に避難してやり過ごした。道の駅の風呂は空いていてリフレッシュできた。

（参加者）金森節子　網木美恵子　小柴大直　渡部和美　中嶋日出男　加藤哲一　下都正年　船本裕巳子　林　正義　多田　徳　渡辺芳美江　三上伸夫　出比裕美　里見綽生　関田孝紘　横原良彦　伊東ナナ子　高木中天　小山誠次　加納山紀子　若林文夫　夏山春子　○仲谷礼司　◎狩野東彦　（計23名）

奥美濃・大日ケ岳
（自然観察山行2552）

7月5日(土)　晴れ
(集合) JR岐阜駅7・15（車）ウイングヒルズ白鳥リゾート8・55（ゴンドラ）終点地9・20―水後山10・15～25―鎌ヶ峰10・50～11・00―大日ヶ岳11・35（昼食）12・25―鎌ヶ峰13・10～20―水後山13・45―ゴンドラ終点地14・30（ゴンドラ）ウイングヒルズ白鳥リゾート14・50（車）南宮の湯15・00（入浴）15・45（車）岐阜駅18・00（解散）

梅雨明けを思わせる暑さのなか、尾根縦走コースを往復した。鎌ヶ峰は堂々たる山塊である。竹田さんがブナの大木にヤシャビシャクを見つけてくれた。稀少種で、出会えたらとても幸運な小低木だ。そして、思いがけずオオヤマレンゲの花にも出会えた。

（参加者）岩田智鶴　荻野美紀恵　竹田勝英　堀田輝子　村田はる江　松村雅子　○福田義博　◎饗見守康　（計8名）

宮生・曽爾高原から古光山

7月10日(日)　晴れ
(集合) 近鉄榛原神宮前駅8・05～10（バス）曽爾高原9・30―亀山峠―亀山10・00―長尾峠10・25―城古光山11・00―古光山12・00（昼食）13・00―南峰13・10―ふきあげ茶屋13・50（バス）榛原神宮前駅15・30（解散）

高原の緑は美しいが、日陰の無い尾根道はともかく暑かった。幾つかの岩峰も無事に登り切り予定タイムより早く下山でき、迎えのバスが来るまで思い思いに幸福の時を過ごした。

（参加者）神　伸　佐々木輝子　金森節子　入江　勲　関田孝紘　堀江房蔵　友田　毅　友田美保子　岩村春子　多田　徳　船本裕巳子　加藤弘子　林　正義　松上美代子　岩本彩子　島田　廣　須藤治子　○竹田勝英　○前川和佳子　◎西上利和　（計20名）

浜名湖一周と館山ハイキング
（サイクリング＆ハイキング⑪）

7月12日(土)～13日(日)　1泊2日
(12日　晴れ)（集合）JR弁天島駅14・30～15・00（サイクリング・～湖東廻り～）館山寺温泉「仲屋旅館」16・15（駐輪）16・20―館山―仲屋旅館17・00（泊）
(13日　晴れ) 仲屋旅館8・30（サイクリング・～奥浜名湖～瀬戸11・00（昼食）12・30～湖西廻―旅古光山11・00―古光山12・00（昼食）13・00―南峰13・10―ふきあげ茶屋13・50（バス）榛原神宮前駅15・30（解散）

り〜）井天島駅14・30（解散）
30度を超える猛暑日だったが、湖畔沿いの自転車専用道路をペダルを踏んで風を切る快適さは暑さを忘れ、また館山の岩の上から眺める浜名湖の風景は疲れを癒してくれた。2日目は坂道もあり自動車道もあったが、浜名湖一周70㎞を無事に完走できた。
（参加者）寺井博子　池田　茂　呉比裕美　長尾一令　船本裕巳子　夏山春子　◎山口敏明（計7名）

鈴鹿・銚子ケ口
（近江の山シリーズ⑪）

7月13日（日）　晴れ
（集合）JR京都駅7・20〜25（バス）杠葉尾登山口8・53〜9・05—（休憩二回）—東峰11・43（昼食）12・40—三角点12・45—南峰12・58—東峰13・14〜25—杠葉尾登山口15・15〜55（バス）京都駅17・31（解散）
暑い一日だったが、東峰からの展望はすばらしい。西峰へ行くつもりだったが、南峰へ行った。南峰からの展望も良かった。
（参加者）岡崎知子　岩佐　修　小柴大直　木村　豊　野末あや子　宮野哲郎　宮野桂子　禅谷恵美子　林　正義　今泉　勲　竹内喜久子　下都正年　福隅　章　渡部和美　上田裕子　三野　旭　鹿田則夫　三井基一　牧　和夫　三輪武文　堀江房雄　加藤俊宣　◎森脇貞義（計23名）

白山南西・取立山とこつぶり山
（展望の山46）

7月13日（日）　晴れ
（集合）JR関ヶ原駅7・20（電）取立山登山口9・40〜45—大滝10・20—こつぶり山11・30（昼食）12・00—取立峠—取立山12・35—登山口13・40〜55（電）柚山花はす公園経由米原駅16・50（電）大垣駅17・50（解散）
ササユリを白当てに行くも少し時期が遅く、100以上見られたがきれいな花は75本程だった。白山はガスに包まれていて見えず残念だった。
（参加者）高原芳彦　生越恵美子　竹内正子　小林一世　伊藤恵美子　梁瀬岩子　竹田敦英　村田紀生　川島勝美　柴田小夜子　山田乙三　高橋洋子　◎山田明男（計14名）

元越谷（沢歩き）

（鈴鹿を歩く290）

7月13日（日）　晴れ
（集合）元越谷林道手前広場8・20—元越谷9・00—大滝9・30—（昼）伏谷伏谷出10・30—伏谷左俣11・30—左俣大滝上部12・00（昼食）12・45—源頭尾根13・35—水沢峠14・00—元越谷林道14・55—集合広場16・00（解散）
連日の猛暑だが谷に入ると冷んやりとして生き返った。大滝の下でヒザまで入って集合写真。深山幽谷のトロで泳ぎ、シャワーを浴びて滝を直登する人も。深い樹林の伏谷左俣を源頭の尾根近まで突き上げ、最高の沢歩きを楽しんだ。
（参加者）谷口義治　貴堂雅路　一之瀬知子　永戸鉄治　一之瀬雄　塘野太一郎　武村千鶴　北村正美　国原田幸弘　谷　守　多田　徳　国原田幸弘　栗本敏夫　小林　修　大西橋郎　○後藤康幸　○山田景三　◎岩野　明（計17名）

越前・日野山

7月20日（日）　晴れ
（集合）JR京都駅7・40（バス）柚山花はす公園10・00（バス）日野神社10・20〜40—焼鮒岩11・10—室堂休憩小屋11・30〜40—比丘尼ころがし展望平広場12・20〜30—日野山13・00（昼食）13・50—宮谷分岐14・20—宮谷登山口15・40〜50（バス）花はす観原「そまやま」16・20（入浴）17・30（バス）京都駅19・40（解散）
午前中に開花する見事な花はす公園を見学し、日野神社へ行った。比丘尼ころがしは汗と我慢の登高になった。山頂に着くと風もあり、日陰を選んで昼にした。宮谷への下山路も急だが、途中から樹林帯になってゆるくなった。味噌鮒見物は暑いのでカットして温泉へ直行した。
（参加者）井　伸　中嶋日出男　多賀久子　長沢佑美　安田文美江　小柴大直　塚本忠次　岩佐　修　金森節子　渡部和美　武部美美子　岡崎知子　後藤移子　横原良彦　馬場忠男　小池一郎　松井明忠　岩本彩子　宮西和子　都築由美子　志水明美　佐野信江　巻田　晃　仲谷礼司　福隅　章　小林　桂　前田栄三　林　信別　三野　旭　福田義博　岡本佳子　村岡雄志郎　大槻一夫　吉野栄子　谷内智恵美　市岡晴美　須藤治子　朝倉益雄　○安倉正勝　◎村田智俊（計40名）

奈良・大国見山
（金剛里山ハイキング7）

7月26日（土）　晴れ
（集合）JR・近鉄天理駅10・30〜35（バス）石上神宮前10・45—石上神宮10・50〜11・00—桃尾の滝11・50〜12・00—大親寺（竜福寺跡）12・15—大国見山12・50（昼食）14・00—岩屋磨崖仏15・00—天理駅16・00（解散）
暑い日になったので石上神宮までバスを利用した。桃尾の滝で涼み、山道になると風もあり楽に歩けた。山頂でゆっくり憩い、岩屋へ下山すると車道歩き。大汗を流しながら天理駅まで歩き通した。
（参加者）岩佐　修　中嶋日出男　君塚節子　木村　豊　都築由美子　今泉　勲　川俣　勲　辻　宜序　永富律子　鮫田二郎　後藤智之　和田直樹　朽名生石　河内正治　堀内雅智　加藤弘子　福井清之　岩本彩子　川上久聖　松上美代子　今村四郎　森　和久　宮路ちへ子　岩城敬子　青木一雄　◎村田智俊（計26名）

若狭の山・大日岳

7月26日（土）　晴れ
（集合）三十三間山宮登山口8・40（車）大日岳能登野登山口8・55—林道終点9・40—能登野越10・45—天増川林道出合11・10—電波塔跡地11・25—大日岳11・50—P784付12・00（昼食）13・20—天増川林道13・55—能登野越14・10—林道終点15・10—大日岳能登野登山口16・05（解散）
35度を超える猛暑日であったが、涼しい大日岳のブナ林で楽しい食事会をし、暑さを忘れた。
（参加者）神野孝允　中橋エルサ　岩本彩子　谷　守　加藤義計　◎岩島伸治（計6名）

下谷尻谷からお金明神（沢歩き）
（鈴鹿を歩く291）

7月27日（日）　晴れ
（集合）杠葉尾神崎橋広場7・40（車）神崎川林道終点手前8・20—神崎川8・35—谷尻谷出合9・40—コリカキ場11・40（昼食）12・30—お金明12・50—塔尾金明神13・00—神崎川13・40—天狗滝14・40—林道広場16・50（解散）
神崎川の大トロはザイルに浮輪を付けて引き上げてもらったり、谷尻谷ではザイルで下りたり登ったり。赤紫のシモツケソウやイワタバコなどの花を愛で、コリカキ場の昼食ではスイカのデザートが出て大感激。塔尾金明神はヒグラシの声のなか、東を眺めている。天狗滝は浅くなっていて水量も少なかったが、ほとんどの人が飛び込んで泳ぎ、猛暑を忘れる楽しい1日となった。
（参加者）高原芳彦　南　智恵子　武村千鶴　多田　徳　市井ユリエ　貴堂雅路　池田陸一　塘野太一郎　永戸鉄治　一之瀬雄　一之瀬知子　北村正美　大西橋郎　国原田幸弘　小林　桂　谷　守　梁本敏夫　○後藤康幸　○山田景三　◎岩野　明（計20名）

北アルプス
徳本峠から蝶ケ岳・常念岳

7月31日（木）夜〜8月4日（月）朝
前夜発2泊3日（夜行バス2泊）
（31日）（集合）JR京都駅22・00（バス）JR一宮駅24・20（バス）
〈1日　晴れ〉（バス）島々宿4・30〜50—林道広場6・20（朝食）6・40—二俣7・00〜10—岩魚留小屋10・10〜30—小南沢出合11・20（昼食）12・00—力水13・30—徳本峠小屋14・30（泊）
〈2日　晴れ〉徳本峠小屋6・30—明神見晴台7・40—大滝山見台9・00〜30—大滝山南峰12・30（昼食）13・10—蝶ケ岳15・30〜40—蝶ヶ岳ヒュッテ15・50（泊）
〈3日　晴れ〉ヒュッテ6・30—蝶槍7・15—P2592付8・30〜40—P2511付9・30〜50—常念岳11・25（昼食）12・00—常念小屋13・30〜45—水場14・30—河原広場15・20〜30—主滝ベンチ16・20—一ノ沢林道終点ヒュ平17・30〜40（タクシー）蝶ヶ岳温泉「ほりでーゆ〜四季の郷18・10（浴・夕食）20・40（バス）
（4日）（バス）京都駅4・50
（解散）
連日快晴に恵まれ、思い通りに標高・地などの大展望を満喫した。徳本峠への旧い道も整備され、岩魚留小屋もこの日の午後から屋根を葺替えるとか、われわれが古い小屋を最後に見たことになった。徳本峠から大滝山までは深い樹林に包まれ涼しい縦走だった。常念岳の下りで一人が負傷し、常念小屋の診療所で診てもらったが、上腕だったので何んとか下山できた。
（参加者）内田康夫　武部美美子　傍田治美　傍田昌子　岡崎知子　宮野哲郎　宮野桂子　小林　桂

岩本彩子　高木忠夫　木下朝子
加藤國計　朝倉松雄　氷室真砂子
松村雅子　岡坂陽子　夏山春子
豊田智子　宮崎靖久　宮崎由美子
辻　宣序　○安倉正勝
◎村田智彦　（計23名）

白山南方
三ノ峰・別山と荒島岳
（展望の山47）

8月1日(金)夜～3日(日)
◎山田明男
＊リーダーの都合で中止しました。

湖北・伊吹山
（自然観察山行253）

8月2日(土)　晴れ
（集合）JR大垣駅8・30～40（バス）JR関ヶ原駅9・00～15（バス）伊吹山九合目10・10—頂上部周遊—伊吹山12・10（昼食）13・00—八合目13・30—五合目14・10～25—三合目14・40（ヨンドラ）山麓駅—伊吹山登山口バス停15・00（解散）
猛暑のなか、定期バスで伊吹山九合目へ。観光客に混じり涼風の吹く頂上部のお花畑を周遊。標高1300ｍにしては見事な高山性の花を愛でた。

（参加者）今井北子　蒲野美紀恵
繁田広美　浜崎瑞巳　加納由紀子
藤岡啓子　松尾幹生　松尾恵理子
宮西和子　佐々木三千代
○花尾一令　◎鷲見宇康（計12名）

北アルプス・馬場島に遊ぶ

8月2日(土)～4日(月)　2泊3日
（2日　晴れ）（集合）JR富山駅5・00（車）ブナグラ谷取水口6・20～35—尾根上9・20—池塘の草原9・45—大笹山11・00（昼食）11・47—千蛇山12・18—猫又山14・00～15—ブナグラ峠15・50—取水口18・10（車）馬場島荘18・20（泊）
（3日　晴れ）馬場島荘7・38—中山登山口7・45—大杉9・05—中山9・40～10・30—上部丸太橋11・00—立山川11・20—早月尾根登山口・馬場島キャンプ場11・30（昼食）12・50—白萩川取水口13・30（水遊び）15・00—馬場島荘15・30（泊）
（4日　雨）馬場島荘8・00（車）名神・深草バス停13・10（解散）
厳しい登りの大笹山はうっかり通り過ぎてしまいそうな山頂だが、展望はすばらしい。大日岳～剱岳～三ノ窓～小窓、さらに鹿島槍～五竜岳と大展望。指呼に鹿又山が、行ける所まで……と、お花畑や雪渓を楽しみながら山頂へ到着。ガスで展望は無かったが山頂を踏めたことで大満足。雪渓・岩場・沢と変化に富んだ長い下りもがんばって歩いた。2日目は早朝中に中山に登り、午後は白萩川で京心に返って思いっきり水と戯れた。3日目、明け方から激しい雨。早月川は濁い茶色の激流と化した。（村田）

（参加者）金森節子　佐々木輝子
遠藤　準　林　弘毅　小川富士雄
◎村田智彦　（計18名）

若狭の山・久須夜ケ岳

8月9日(土)　晴れ
（集合）小浜市役所9・00（車）蘇洞門入口9・45—蘇洞門11・30（昼食）13・20—久須夜ヶ岳15・00（解散）
エンゼルラインから天下の名勝「蘇洞門」へ先にくだる。途中でオオキツネノカミソリの大群生地に酔いしれた。蘇洞門の絶天下で昼食後、一等三角点の久須夜ヶ岳へ登り返した。

（参加者）谷　守　神谷恵美子
神野孝允　木下朝子　岩本彩子
◎高島伸治　（計6名）

佐目小谷（沢歩き）
（鈴鹿を歩く292）

8月10日(日)　晴れ
（集合）国道421号線佐目小谷出合広場7・30—出合広場8・00—姫ヶ滝9・10—ダイジョウ北西尾根取付11・00—尾根広場13・00（昼食）13・40—ダイジョウ14・10—カクレグラ16・00—佐目小谷出合広場18・40（解散）
出合広場の横にはハグロソウ・オオハンゲ、ヤマボウシの紅色の花を確認。登り口の岩に蛙の巣があり刺される人もいてひと騒ぎ。佐目峠を目指したが、年寄り組は無理でダイジョウに突き上げた。風は無く湿度が高い。高温での急斜面の登りでバテバテ。しかし秘境の北西尾根とカクレグラまでの深い樹林は最高だった。

（参加者）木戸喜郎　左近健一朗
高原光彦　武村千鶴　南　智恵子
永戸鉄治　一ツ瀬雄　一ツ瀬知子
多田　徳　北村北美　農野太一郎
池田隆一　井口俊介　市井ユリエ
櫻田勝利　谷　守　池田繁美
○後藤康幸　○山田喜三
◎岩野　明　（計20名）

霧生・ダム湖畔と布生山
（サイクリング&登山82）

8月10日(日)　晴れ
（集合）近鉄桔梗が丘駅8・40（車）青蓮寺ダム9・00（サイクリング・～ダム湖畔～百々橋9・35～林道分岐10・25～渓流11・00（昼食）12・20～）布生山登山口12・30—布生山12・50—登山口13・10（サイクリング・～布生バス停14・00～）青蓮寺ダム14・30～45（車）桔梗が丘駅15・00（解散）
ダム湖畔から林道をMTBで猛暑を避ける木陰の渓流をサイクリングし、渓流での流しソーメンで活力をつけた。やぶ漕ぎ・沢・倒木等の登山道をMTBで乗り越え、布生山に登った。下山後は林道や通行量の少ない車道のゆるやかな下り坂を青蓮寺ダムまでサイクリングを楽しんだ。

（参加者）池田　茂　船本喜巳子
長比裕美　長尾一令　宮路ちへ子
◎山口敏明　（計6名）

湖北・ブンゲン
（近江の山シリーズ82）

8月10日(日)　晴れ
（集合）JR京都駅7・20～31（バス）奥伊吹スキー場9・37～50—スキーリフト終点10・09—広場11・50（昼食）12・35—ブンゲン13・07～25—奥伊吹スキー場14・55～15・14（バス）京都駅17・45（解散）
奥伊吹スキー場のゲレンデを登り、途中から品又峠からの展望をたどったが、最近通る人があまりいないようだった。ブンゲン頂上からは伊吹山や琵琶湖の山が見えされて通れるようになり、フルコースでの暑さを忘れるスリル満点の滝めぐり。すっかり姿を変えて静かになった八雲ヶ原や北比良峠を廻ってきた。

（参加者）入江　勲　島田　廣
畑　秀明　山内至次　紀田信生
西村敏夫　和田純子　山本文雄
中島　隆　堀方雅子　○大東　哲
◎秦　康夫　（計12名）

大峰・無双洞から行者還岳

8月7日(水)　くもり一時小雨
（集合）近鉄橿原神宮前駅8・05～10（バス）水太谷林道9・35—登山口10・10—水簾の滝—無双洞10・30—奥駈道分岐12・20（昼食）12・45—行者還岳13・50—行者還小屋14・15—林道出合14・55—中ノ股谷16・30（バス）橿原神宮前駅18・00（解散）
無双洞で水補給と休憩を十分にとって急登に備えた。汗だくになりながらも後続まで登りつめたら薄曇りのせいか意外と涼しく、快調に行者還岳まで足をのばした。

（参加者）神　伸　平　龍一
平　幸子　上田久子　池田　茂
板庭　栄　渡部和美　小柴大直
持野東彦　須藤治子　武部美美子

た。帰路はブナ林のすばらしい尾根をくだった。

（参加者）神　伸　川田洋子
狩野東彦　渡部和美　塚本忠次
長沢佑美　蓮井洋子　仲谷礼司
君塚郁子　岩田育士　林　正義
志水明美　三野　旭　松上美代子
福隅　章　岩本彩子　神谷忠美子
高木忠夫　牧　和夫　竹内喜久子
堀江房勝　三輪貞文　中澤眞司博
辻中　貢　西村敏夫　森　美香子
◎森脇直義　（計27名）

北アルプス
新穂高温泉から双六岳・三俣蓮華岳・黒部五郎岳

8月13日(土)夜～17日(日)
前夜発3泊4日
（13日）（集合）JR京都駅22・00（バス）JR一宮駅24・15（バス）
（14日　くもり）（バス）新穂高温泉4・10～40—わさび平小屋6・00（朝食）6・40—シシウドヶ原9・15—鏡平山荘10・30（昼食）11・00—弓折乗越12・20～40—双六小屋14・00（泊）
（15日　くもりのち晴れ）双六小屋6・30—抜き道お花畑コース—三俣蓮華岳8・30—三俣蓮華岳9・00～20—三俣峰9・40—三俣山荘10・30（昼食）11・15—抜き道コース—黒部乗越12・30（コーヒータイム）13・10—黒部五郎小舎14・20（泊）
（16日　晴れのち雷雨）黒部五郎小舎6・10—五郎カール雪渓7・50～8・00—黒部五郎岳8・30～40—黒部五郎岳9・00～20—肩9・30—卓越山荘10・10（昼食）10・50—赤木岳11・40—北ノ俣岳13・20～40—太郎平小屋15・30（泊）
（17日　くもりのち晴れ）太郎平小屋6・00—折立9・30～10・00（バス）ウェルサンピア立山11・00（浴・昼食）13・00（バス）京都駅18・30（解散）
乗天候の予報だったが、太郎平での雷雨以外雨に遭うことなく歩け、青空が広がる日もあった。今夏の北アは残雪が多く、お花畑は7月下旬頃の様相。チングルマが群れ咲いていて、多種の花も見頃だった。大展望には恵まれなかったが、抜き道のお花畑コースをゆっくりたどり、花を楽しんだ山旅となった。

（参加者）岡崎知子　西谷真美子
川田洋子　多賀岳二　多賀久子
高橋森治　伊藤則男　内田康夫
岩嶋健司　木村純恵　呉比佐美
岩田育士　上田裕子　加納由紀子
徳田暢子　朝倉松雄　畑　秀明
金森節子　小林　桂　森村　守
堀田昌子　宮野敏子　○宮野哲郎
◎村田智俊　（計23名）

京都西山・太閤道からギロバチ峠（金毘羅山ハイキング8）

8月22日(日)　晴れ
（集合）JR高槻駅8・10～15（バス）磐手橋8・25—太閤道登山口8・30～45—金毘羅寺跡9・10～20—展望見晴台9・45～10・00—若山二角点10・05—三川合流展望地10・20～30—若山神社11・15（昼食）12・05—尺代12・20—乙女の滝12・40—分岐登り口12・50～13・00—ギロバチ峠14・00～15—ベニーカントリー入口横断道路尾根入口14・25—柳谷観音駐車場14・40～15・05—奥海印寺15・40～16・12（バス・車内解散）阪急長岡天神駅・JR長岡京駅16・30
残暑も和らぎ比較的涼しいなかを歩いた。太閤道からの展望地で楽しみ、渓谷沿いをつめてギロバチ峠を越え、柳谷観音にくだった。里山ハイクにしてはややロングだったが、涼しい日で助かった。

（参加者）川俣　勲　中嶋日出男
堀内預智　河内正治　佐藤優美子
磯田安弘　磯部　純　西　悦子
後藤智之　塚本忠次　木下朝子
岩本彩子　今泉　勲　今村あやの
瀧尾健治　森　和久　久馬麻登珂
中川光郎　安良陽子　◎村田智俊
（計20名）

越美・能郷白山
（自然観察山行254）

8月23日(土)　雨
（集合）JR大垣駅9・00（バス）温見峠11・55～12・00—P1499.5付12・55～13・00—能郷白山13・35（昼食）14・00—P1495付14・25—温見峠15・00～35（バス）大野温泉17・50（入浴）18・30（バス）大垣駅19・00（解散）
雨のなか大垣を出発。国道156号は通行止。迂回路も工事車両等とのすれ違いで時間を費し、温見峠まで3時間もかかった。悪条件にもかかわらず参加者の意気は高く、降りしきる雨のなかを予定通り登頂した。

（参加者）小柴大直　網木美恵子
上嶋秀夫　川田位子　佐々木幸子
藍田義博　志水明美　竹田勝美
佐々木三千代　森　美香子

堀田輝子　和田喜弓　○小林　桂
◎鷲見幸康　（計14名）

神崎川・ツメカリ谷（沢歩き）
（鈴鹿を歩く293）

8月24日(日)
（集合）杠葉尾神崎橋山場8・35（車）神崎川奥広場9・00—神崎川9・20—ツメカリ谷9・40—スダレの滝10・25—神崎川11・25（昼食）12・10—取水口13・35—林道終点14・00（解散）
前日の雨で神崎川の水量は多い。スダレの滝、大トロ、S字のゴルシュ、トロを泳ぎ渡りでふかぶかと最高の沢を浸泳した。そして三重の学生達も団体で入り神崎川を楽しんでいた。

（参加者）多田　徳　呉原田赤弘
中尾文博　一芝義雄　一芝美知子
北村正美　貴堂雅路　市井ユリエ
○後藤康幸　◎宮野　明（計10名）

六甲・土樋割峠から打越山
（火曜ハイク45）

8月26日(火)　◎仲谷礼司
＊雨天のため中止しました。

越前・藤倉山と鎧倉山、夜叉ヶ池から三周ヶ岳

（キャンプ・テント山行）

8月30日(土)～31日(日)　1泊2日
（30日　くもり）（集合）JR京都駅8・00～05（バス）八十八霊山登山口10・35～55—四等三角点11・30～35—弘法寺11・40—鎧倉山12・25（昼食）12・55—ブナ林分岐13・40—藤倉山14・00～05—燈ヶ城跡15・00～10—観音寺登山口15・25～40（バス）花はす温泉「そまやま」15・55（入浴）17・00（バス）リトリートたくら17・20（泊）
（31日　晴れ）リトリートたくら7・00（バス）夜叉ヶ池登山口7・35～55—トチの大木8・40～45—夜叉ヶ池10・10～25—三周ヶ岳12・05（昼食）12・45—夜叉ヶ池14・10～20—夜叉ヶ池登山口16・40～55（バス）花はす温泉「そまやま」16・35（入浴）17・30（バス）京都駅19・50（解散）
巨木は無いが、藤倉山のブチ林は密度が濃くてすばらしい。夜は雨予報なのでテントはやめて全員が施設内で泊まった。自炊用具も完備されていて楽しく交流できた。夜叉ヶ池からは猛烈なササのやぶ漕ぎで三周ヶ岳を往復した。一等三角点でも山頂は狭く、ハネアリが多く飛び交いゆっくりできなかった。

（参加者）萩野鴨子　武部美恵子
川田洋子　高木忠夫　佐々木幸子
山科琢彦　岡崎知子　加納由紀子
大東　哲　林　正義　永見寛砂子
宮野哲郎　宮野敏子　中嶋日出男
岩本彩子　仲谷礼司　佐々木輝子
木下朝子　小山富士雄
○安倉正勝　◎村田智俊（計13名）

北摂・天王山
（ファミリーハイク最終回—24）

8月31日(日)　晴れ
（集合）阪急大山崎駅10・00—JR山崎駅10・05～10—宝積寺10・20～25—県立松展望所10・45～50—天王山11・05（昼食）11・55—十方山分岐12・25～30—十方山12・40—水無瀬滝13・20～30—サントリー山崎蒸留所13・50（見学）15・10（解散）
7年間続けたファミリーハイクの最終回、一度の事故も無く山行を終えました。共に歩いた参加者の皆様に、今日までのご厚情感謝しています。

（参加者）本間昭恵　中澤ちず子
村上寛子　小栗大直　金藤千恵子
藤村勝彦　渡辺いく　岡本和子
中辻勝子　小出良春　永富律子
松村雅子　堀内預智　木内純文
本家洸子　矢野　稔　道平きわみ
中川光郎　冨田満子　鈴木優子
宮西和子　西　悦子　成川みきお
柳川常雄　磯部　純　都築由美子
加藤浩二　前田初雄　宮路ちヘ子
松田和恵　本間　隆　本間翠子
和田直樹　神　伸　佐藤優美子
栗栖宗吉　栗栖君子　船本浩巳子
今泉　勲　渡部和美　横川ゆり子
林　信男　西上利和　今村由紀子
水野　和　小川明美　中谷峯子
山根弘美　多賀久子　中村英雄
田口寿一　金谷　昭　竹田義美
武田元司　○松井明忠
○川上久堅　○綾尾一正
○西條良彦　◎木村太郎（計29名）

（7・8月参加者　延553名）

小林春三氏の業績

年号	西暦	年齢	事項
明治41	1908	0	3月25日生まれ。
昭和14	1939	31	ハイキング・ペンクラブ設立幹事で『美武蔵』『はれ山讃』『夏の日の名山』（ジンニ社）の書籍を出版。
〃 18	1943	35	ハイキングクラブ会員業務開始（社員引継機の会員資格を元に会員業務の手続き開始）。
〃 20	1945	37	新ハイキングクラブ創立。新ハイキング社設立（社長薄田武志・本社東京都大田区）。雑誌「新ハイキング」創刊（隔月刊）。創刊資金の多くを出資。その他のメンバーとして、薄田武志・岩崎宗三郎・木暮直男の各氏。
〃 23	1948	38	この間に新ハイキングクラブの名称を見足（13支部）。
〃 22	1947	37	「新ハイキング」月刊誌に移行。株式会社新ハイキング社に改組。
〃 32	1957	47	薄田武志氏急逝の後、社長に就任。
〃 35	1960	50	「四十代の山と峠」を新ハイキング選書として初めて出版（その後絶版を経）。
〃 36	1961	51	山行復興計画開始。
〃 53	1978	69	本社を東京都北区滝野川に移転。
〃 57	1982	74	創刊「新ハイキング関西の山」創刊（隔月刊）。新ハイキングクラブ関西設立（村田智恵氏代表に就任）。
平成 3	1991	83	会長に就任（鮫島直義氏社長に就任）。
〃 63	1988	80	7月2日死去。
〃 59	1984	76	
〃 14	2002	94	
〃 20	2008	100	

小林春三氏を偲ぶ

村田智恵

小林春三氏の訃報は7月5日、私は翌1日から北アルプス「唐松岳・五竜岳」の帰りがけ、5日の告別式に参列できなかった。

5日には八方尾根から唐松岳に登り、眺望に輝く美しい山岳に向かって小林氏の冥福を祈り、ひそかに回想した。中嶋山男・小林氏の偉業を思い起こすと「私の愛情より山を優先とはなさいで、新ハイの勧めをきっちり果たしなさい。」と言われているようで涙になった。

30年前の昭和、中国旅行後へとへとく行った。書店で「新ハイキング」誌を初めて購入し、その夜に読み終えた。感銘していろいろに「関西版を創りたい」と、雨の降る秋に海野川の本社に小林社長を訪ね、後も電話で相談した。新幹線きに「やってみなさい」とお手紙を貰った。まるで父親に信頼してもらえたような気持ちで嬉しかった。

以後、小林社長にはずっとながら、関西版も100号を超えたのである。喜寿と米寿半先の小林氏の心を引き継ぎ、新ハイ関西を一層盛り上げていく決心です。合掌

小林春三氏　逝去

新ハイキングクラブ会長、小林春三（ペンネーム・坂巻三）氏（1908歳）が7月2日、野辺のため死去されました。

小林氏は戦前に、百名山のハイキングコースを紹介する書籍3冊を出版されました。戦後は新ハイキングクラブを創設し、昭和20年に薄田武志初代社長の急逝の後を受けて社長、クラブ会長を務め、新ハイキング社社長、クラブの山の会に育てあげました。

平成14年、会長に就任し、以降は後進の指導に当たってこられました。

新ハイキングクラブ関西の創設翌年の3月には、新ハイキング社社長として出版・運営についてご多くのご指導をいただきました。

永年のご厚誼に感謝するとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

会員募集

当会は雑誌「新ハイキング関西の山」（隔月刊・年6号発行）の定期購読者を中心にしたハイキングの集いです。山の知識を深め、健康な身体をつくり、自然のなかを歩く喜びをともに分かちましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和21年発足以来、関東を中心に60年間、社会のうちに活動しています。関西は平成3年秋発足で18年目に入りますが、すでに数千名の会員が活動しています。

会員は当会のイベントに優先して参加できます。多くの仲間達とハイキングを楽しみましょう。

会員には「新ハイキング関西の山」を毎号お届けします。

係（リーダー）はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い善意を払い、宿泊料もすべてセルフです。会員が新会員に参加されるときは、山行運営費として600円を支出していただきます。

四季の自然に触れながらの山歩きから、ウォーキングまで、若々しい心と健康をいつまでも持続するのはすばらしいことです。これから始めてみたい方、すでにベテランの方もみなさんと一緒に入会いただけます。

入会金　500円（ウェッペン共）
年会費　3300円（活動費）

入会の申し込み（郵便）は、この雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。郵便切手からの送本分を忘れずにご記入ください。

なお、定期購読をご希望される方も会員になっていただきますと、毎号確実にお手元に届きます。

お友達のお住所・氏名をハガキで紹介くだされば、「新ハイキング関西の山」最新号を見本誌として無料で送ります。

○山行係（リーダー）募集

係は2・4月に1～2回程度山行会を実施していただきます。経験のある方、やってみたいと思われる方は、新ハイキング関西までご連絡ください。「新ハイ関西リーダー必携」をご参考にお送りします。

○新入会員（定期購読者）紹介

新しいお仲間のみなさんです。会員番号5ろろ5番から5408番まで（敬称略）。

【高槻】　横矢清司　石井ひろ美
【茨木】　谷田貝弘　下山　登
　　下山英公　奥田明幸
　　岸本宏公　岸本紀子
　　森藤哲良
【大阪】　川田敬子　井手上春美
【和歌山】　藤原昭幸
【兵庫】　中尾文博　奈良孝吉田
　　（13名）

訂正とお詫び

○100号（初夏）
・39ページ上段4～5行目「プレハブで出建」→「鉄筋コンクリートで建建」
○102号（初秋）
・30ページ下段2～3行目「日永岳」→「日新岳」。
・97ページ「段目4行目「クッキ」→「ッ・クキ」。
・99ページ「段目20～21行目「美いの森公園（金剛寺）」→「美いの森公園（三蔵寺）」。
・101ページ三段目19行目「武武蔵」→「武武蔵」。
・103ページ「段三段行目「平朝の雨で不参加が続出し、2人だけの山行となった」→「前夜の降水確率で中止であったが1人問い合せがあり、2人で行った」。

（編集室）

山に魅かれて　中川光郎 写真展

平成28年
11月8日(土)～13日(水)
10時～6時（最終日は5時迄）

エイエムエス A'BOXギャラリー
京都市中京区御前通り錦小路上ル
JR、地下鉄（二条）西へ御前通りの信号北へ
電話 075(841)1470　（定休日毎日）